ONKYO®

AVコントローラー

PR-SC5509

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切
に保管してください。

Made for iPod iPhone

特長

処理

- THX Ultra2 Plus*1規格に準拠
- 高性能ビデオフォーマットコンバーター「Qdeo™*2」搭載
- HDMI経由で入力された映像信号をより上位の解像度にアップスケーリングするHQV®*3-Vidaビデオプロセッサ搭載
- ビデオコンバーター搭載〔ビデオ（コンポジット）/Sビデオ/コンポーネント信号をHDMI出力端子に出力〕
- HDMI（Audio Return Channel、3D、DeepColor、x.v.Color*4、Lip Sync、DTS-HD Master Audio*5、DTS-HDハイレゾリューションオーディオ、Dolby TrueHD*6、ドルビーデジタルプラス、DSD、マルチチャンネルPCMに対応）
- Dolby TrueHD*6、DTS-HD Master Audio*5リスニングモード搭載
- ドルビー Pro Logic IIz*6（フロントハイスピーカー対応）リスニングモード搭載
- DTS Neo:X*5リスニングモード搭載
- Audyssey DSX™*7（フロントハイスピーカーおよびフロントワイドスピーカー対応）リスニングモード搭載
- ダウンミックスによる、フロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
- もともとの音源のまま、ピュアな音を楽しむ「Direct」リスニングモードと、ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできる「Pure Audio」リスニングモード搭載
- 圧縮された音楽ファイルを、より良い音で楽しむMusic Optimizer™*8機能搭載
- 192kHz/32bit D/Aコンバーター搭載
- 極めて高い演算能力を持つ、32bit DSP（Digital Signal Processor）搭載
- LFEchを持たないソースでも、サブウーファーを効果的に動作させるダブルバス機能搭載
- 小音量でもサラウンドを楽しめる、レイトナイト機能搭載（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD時のみ）
- Ethernet、USB経由でMP3、WAV、WMA、MPEG4 AACフォーマットの音楽ファイルを再生可能*9
- DSDダイレクト再生機能搭載
- 新たに正確な信号を作り出し、デジタル信号のゆらぎを排除するPLL（Phase Locked Loop）方式ジッタークリーナー搭載

接続

- デジタル映像/音声信号を、1本のケーブルで伝送可能なHDMI*10入力8系統（フロント1系統）、出力2系統装備
- コンポーネント映像入力端子3系統、出力端子2系統装備
- S映像入力端子４系統/出力端子２系統装備
- システムを制御するオンキヨー RIHD（Remote Interactive over HDMI）搭載
- デジタル音声入力端子として、同軸3系統/光4系統（フロント1系統）装備
- オンキヨー製iPod*11ドックUP-A1から入力できるUNIVERSAL PORT端子装備
- iPod®/iPhone®*11やUSBストレージを接続できるフロントUSB端子装備（アルバムアートワークに対応）
- USBストレージを接続できるリアUSB端子装備
- 精度の高い高音域、低音域を実現するバイアンプ接続が可能
- 長距離の伝送でもノイズを最小限に抑えるバランスタイプXLR 端子（9.2 チャンネル出力、ステレオ入力）装備
- 9チャンネルプリアウト端子装備
- 独立した2系統のサブウーファープリアウト端子装備
- パソコンとの接続にアナログRGB入力端子装備
- インターネットラジオ受信可能

その他

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定（Audyssey MultEQ® XT32*7）
- 小音量でもサラウンドを楽しめる、Audyssey Dynamic EQ ®*7機能搭載
- 音量の大小を即時に調整する、Audyssey Dynamic Volume®*7機能搭載
- 音量レベル差を自動調整するドルビーボリューム*6機能搭載
- 2つまたは3つのスピーカーでも、バーチャル5.1サラウンドが楽しめるT-D（Theater-Dimensional*12）モード搭載
- AAC*13デコーダー搭載
- 高音域が強調された劇場用サウンドを、ご家庭で適切なバランスに補正するRe- EQ *14機能搭載
- 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する、VLSC*15（Vector Linear Shaping Circuitry）を全チャンネルに搭載
- 音声と映像のズレを補正する、AVシンクコントロール機能搭載
- 映像/音声入力が無く、無操作の状態で一定時間経つと、本機が自動的にスタンバイ状態に移行する、自動スタンバイ機能搭載
- モニターを見ながら、簡単設定ができるOSD（On Screen Display）機能搭載
- 他機の操作を可能にするマクロ機能およびプリプログラム機能（OSD機能によるコード検索が可能）搭載の双方向リモコン付属
- ISFビデオ・キャリブレーション機能搭載
- メインルームで再生しながら別室で異なるソースを楽しめるゾーン2/ゾーン3機能

*1

THX および Ultra2 は、THX 社の商標または登録商標です。Surround EX はドルビーラボラトリーズの登録商標です。

THX Ultra2 Plus
THX Ultra2 Plusの認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。
このような製品にのみ付与されているTHX Ultra2 Plusのロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Ultra2 Plusの要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX Ultra2 Plusレシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX 技術（THXモード）を備えています。

*2 Qdeo、QuietVideo は Marvell 社の商標です。
*3 HQV® (Hollywood Quality Video) は IDT 社の商標です。
*4 x.v.Color は、ソニー株式会社の商標です。
*5
米国特許：5,956,674; 5,974,380; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567; 7,003,467; 7,283,634 およびその他の国における特許 (出願中含む) に基づき製造されています。DTS とそのシンボル、DTS とそのシンボルの組み合わせは DTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴは DTS 社の商標です。製品にはソフトウエアを含みます。

*6
ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、Pro Logic、Surround EX およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
*7
Audyssey Laboratories™ からの実施権に基づき製造されています。米国および他の国々の特許申請中。
Audyssey MultEQ® XT32、
Audyssey Dynamic EQ®、
Audyssey Dynamic Volume® および
Audyssey DSX™ は Audyssey Laboratories の登録商標および商標です。
*8 Music Optimizer™ は、オンキヨー株式会社の商標です。

*9 DLNA、DLNA CERTIFIED は、
Digital Living Network Alliance の商標または登録商標です。
*9 Microsoft、Windows、Windows Mobile、
Windows Media、ActiveSync、DirectX および
Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。
*10
HDMI、HDMI ロゴおよび
High-Definition Multimedia Interface は、
HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
*11
iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、
iPod shuffle 、iPod touch は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod、iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。
アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。
この製品と iPod、iPhone を使用する際、ワイヤレス機能に影響する場合があります。
*12
Theater-Dimensional は、オンキヨー株式会社の商標です。
*13 AAC ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。
*14 Re-Equalization、Re-EQ ロゴは THX 社の商標です。
*15
VLSC は、オンキヨー株式会社の登録商標です。
* 本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障されたロヴィコーポレーションの許可が必要な著作権保護技術を搭載しており、改造または分解は禁止されています。
米国特許：5,315,448; 6,516,132; 6,381,747; 6,836,549

目次

はじめに

接続をする

電源のオン・オフと基本操作をする

応用設定をする

他の製品を操作する

その他

修理を依頼する前に
本機をリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことでトラブルが解消されることがあります。電源を入れた状態で本体の**VCR/DVR**ボタンを押したまま、**ON/STANDBY**（オン/スタンバイ）ボタンを押してリセットしてください（➔ P.91）。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⦸ 記号は「〜してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  (本機の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける)
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

■ETHERNET ポートには電話回線を接続しない

禁止

本機のETHERNET ポートに以下のネットワークや回線を接続すると、必要以上の電流が流れ、故障や火災の原因となります。

- 一般電話回線
- デジタル式構内交換機(PBX)回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら(芯線の露出・断線など)販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠警告

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

■長時間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

⚠注意

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量を上げすぎない

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。

■機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

付属品

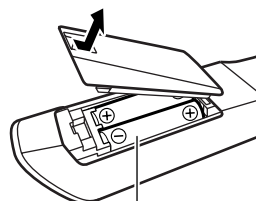
ご使用の前に、次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-812M）…（1）
乾電池（単3形、R6）…（2）
電源コード…（1）（➔ P.26）
測定用マイク…（1）（➔ P.35）
取扱説明書（本書）…（1）
保証書…（1）
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内…（1）
ユーザー登録カード…（1）

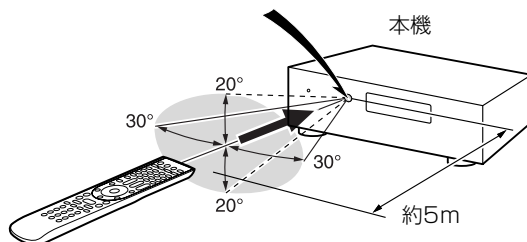
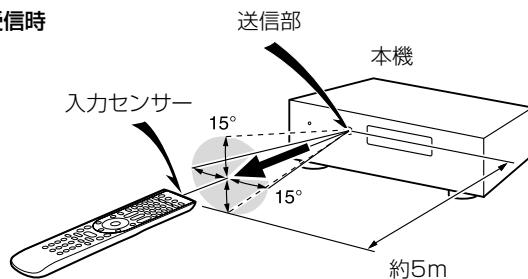
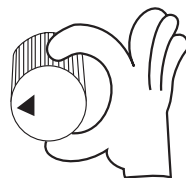
カタログおよび包装箱などに表示されている、型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

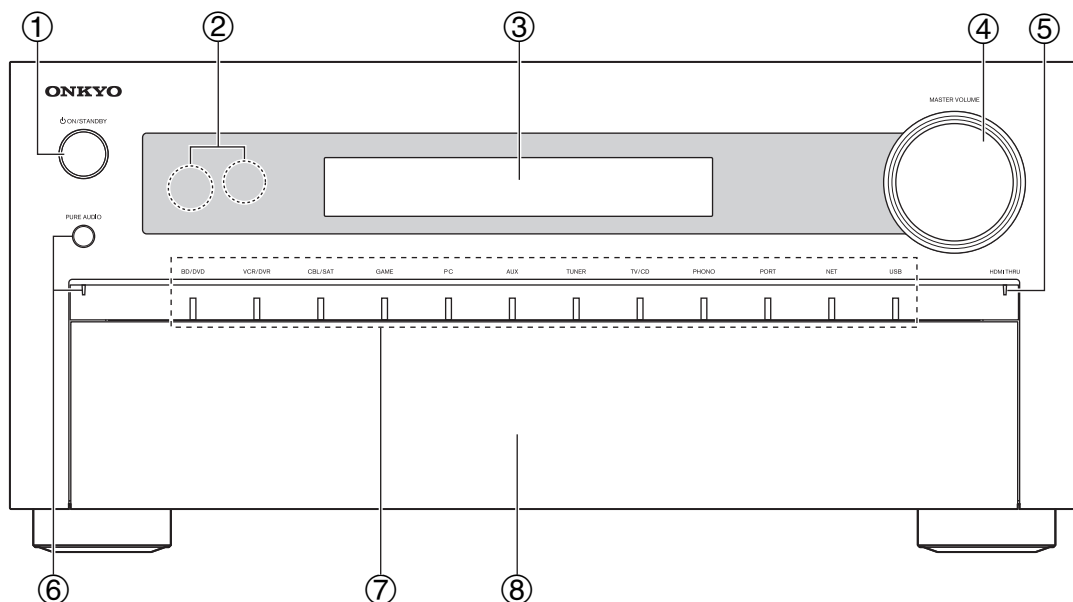
■ 乾電池を入れる

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために、電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと、腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して、2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単３形をご使用ください。

■ リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。

送信時

受信時

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

前面パネルと後面パネル

前面パネル

詳細については、（　）内のページをご覧ください。

① ⏻ON/STANDBYボタン（27）
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

② リモコン受光部/送信部（8）
リモコンからの信号を受信します。また、リモコンへ設定データを送信します。

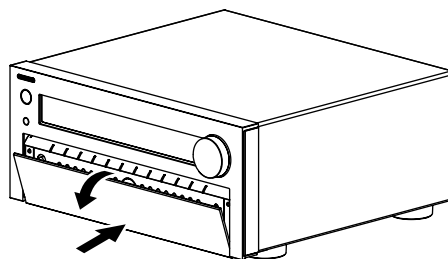
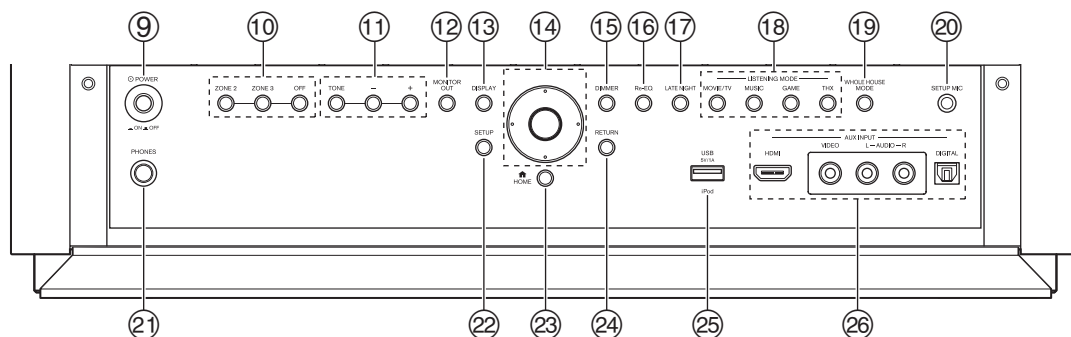
③ 表示部（11）

④ MASTER VOLUMEつまみ/インジケーター（28、76）
音量を調整します。
音量をMIN･0.5…99.5･MAXの範囲で表示します。相対値（THX）として音量表示するには、「ボリューム設定」（➔ P.66）をご覧ください。
－∞dB・－81.5dB･･････＋18.0dBの範囲で調整できます。

⑤ HDMI THRUインジケーター（68）
HDMIスルー機能が有効になっているときに点灯します。

⑥ PURE AUDIOボタン/インジケーター（38）
リスニングモードをPure Audioにします。
リスニングモードがPure Audioのとき、インジケーターが点灯します。

⑦ 入力切換ボタン/インジケーター（28）
入力を切り換えて、再生する機器を選びます。
選択している入力のインジケーターが点灯します。

⑧ フロントドア
前面パネルの下部をゆっくりと押して、開けてください。

■前面パネルフロントドア内ボタンおよび端子

⑨ **⊙POWER**スイッチ（27）
本機の主電源を入/切します。

⑩ **ZONE 2、ZONE 3、OFF**ボタン（76）
ZONE 2ボタン
ゾーン2を選択するときに使用します。
ZONE 3ボタン
ゾーン3を選択するときに使用します。
OFFボタン
ゾーン2またはゾーン3への出力をオフにします。

⑪ **TONE/トーンレベルボタン**（72、76）
高音、低音を調整します。また、ゾーン2/ゾーン3の高音、低音およびバランスを調整します。

⑫ **MONITOR OUT**ボタン（50）
モニターの出力設定を行います。

⑬ **DISPLAY**ボタン（46）
表示部の情報を切り換えます。

⑭ **カーソル/エンターボタン**
設定項目を選択します。エンターボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑮ **DIMMER**ボタン（46）
表示部の明るさを切り換えます。

⑯ **Re-EQ**ボタン（48）
Re-EQ機能をオン/オフします。

⑰ **LATE NIGHT**ボタン（48）
レイトナイト機能をオン/オフします。

⑱ **LISTENING MODE**ボタン（38）
リスニングモードを選びます。

⑲ **WHOLE HOUSE MODE**ボタン（46）
ホールハウスモードを有効にします。

⑳ **SETUP MIC端子**（35）
付属の測定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置を検知します。

㉑ **PHONES端子**（47）
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

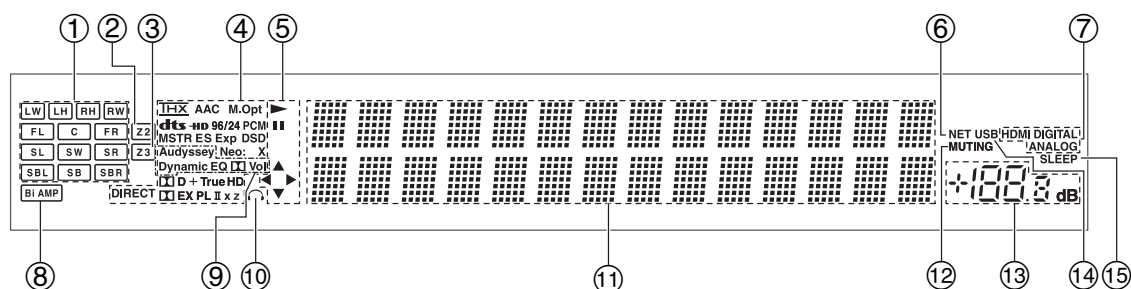
㉒ **SETUP**ボタン（49）
本機の設定を行います。

㉓ **HOME**ボタン（45）
ホームメニューを表示させます。

㉔ **RETURN**ボタン
設定中に1つ前の表示に戻します。

㉕ **USB端子**（23）
USBストレージ（USBメモリーなど）を接続して、中に入っている音楽ファイルを再生できます。また、iPod/iPhoneを接続して、音楽/映像ファイルを再生できます。

㉖ **AUX INPUT端子**（22、23）
ビデオカメラなどを接続します。

表示部

詳細については、（　）内のページをご覧ください。

① **スピーカー /チャンネル表示**
リスニングモードに対応した出力チャンネルを表示します。

② **Z2表示（76）**
ゾーン2への出力をオンにすると点灯します。

③ **Z3表示（76）**
ゾーン3への出力をオンにすると点灯します。

④ **リスニングモード、デジタル音声入力信号フォーマット表示（38、74）**
入力されているデジタル信号の種類、およびリスニングモードを表示します。

⑤ **►、❚❚、カーソル表示（30）**
NET、USB操作時に点灯します。

⑥ **NET表示（31、34、69）**
NETが選ばれているとき、本機がホームネットワーク（LAN）に接続されていると点灯します。正しく接続されていないときは点滅します。

⑦ **音声入力表示**
入力または選択されている音声の種類を表示します。

⑧ **Bi AMP表示（19、54）**
「**スピーカータイプ（フロント）**」の設定が「**バイアンプ**」に設定されていると点灯します。

⑨ **Audyssey/Dynamic EQ/ꟷ/ Vol 表示（35、60）**

Audyssey表示
自動スピーカー測定中に点滅します。また、「**Audyssey**」を有効に設定しているときや（➔ **P.60**）、Audyssey DSX™リスニングモードのときにも点灯します。

Dynamic EQ表示
Dynamic EQが「**オン**」に設定されていると、点灯します（➔ **P.61**）。

DD Vol表示
Dolby Volumeが「**オン**」に設定されていると、点灯します（➔ **P.58、73**）。

Dynamic Vol表示
Dynamic Volumeが有効に設定されていると、点灯します（➔ **P.61**）。

⑩ **ヘッドホン表示（47）**
ステレオヘッドホンを**PHONES**端子に接続すると点灯します。

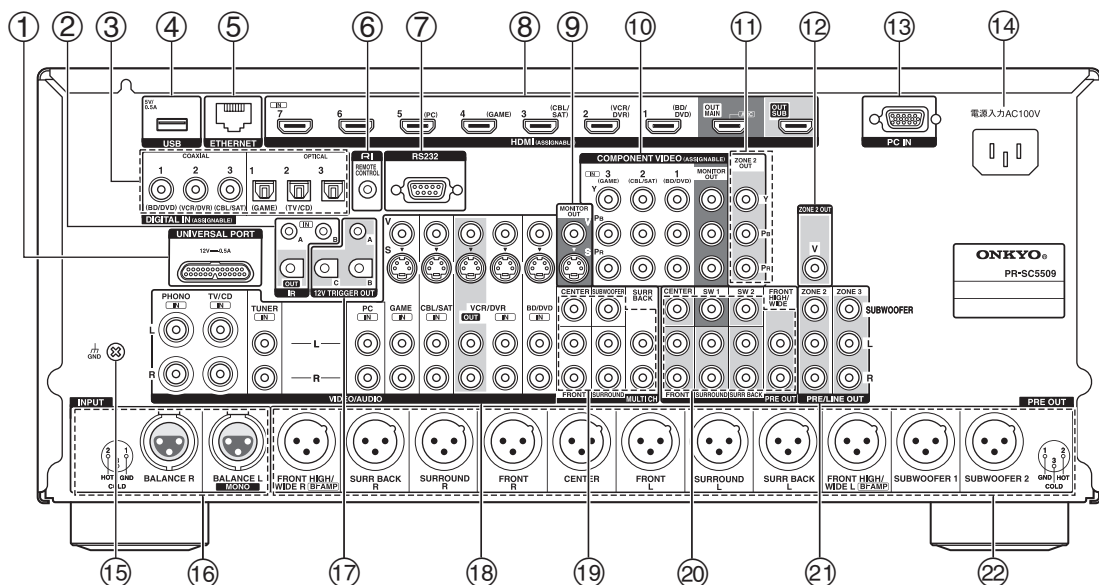
⑪ **多目的表示部**
入力信号と様々な情報を表示します。**DISPLAY**ボタンを押すと、入力されている信号のフォーマットや、リスニングモードを表示します。

⑫ **MUTING表示（47）**
ミューティングが働いているときに点灯、または点滅します。

⑬ **ボリュームレベル（28）**
音量を表示します。

⑭ **USB表示（30、31）**
入力に「**USB**」が選ばれているとき、USB ストレージ（USBメモリーなど）が接続されていると点灯します。

⑮ **SLEEP表示（45、66）**
スリープタイマーが設定されているときに、点灯します。

後面パネル

① **UNIVERSAL PORT端子**
オンキヨー製iPodドックUP-A1と接続します。

② **IR IN（A/B）/OUT端子**
別室（ゾーン）から本機をリモコン操作したいときや、本機がキャビネットなどに入っていてリモコン信号が届かないときにリモコンセンサーを接続する端子です。（接続にはマルチルームシステム用キットが必要です。）

③ **DIGITAL IN COAXIAL/OPTICAL端子**
デジタル再生機器と音声接続する入力端子です。各端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。

④ **USB端子**
USBストレージ（USBメモリーなど）を接続して、中に入っている音楽ファイルを再生できます。

⑤ **ETHERNET端子**
ホームネットワーク（LAN）と接続するための端子です。イーサネットケーブルを使ってルータやハブに接続します。

⑥ **RI REMOTE CONTROL端子**
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。
RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。

⑦ **RS232コネクター**
この端子はコントロール用の端子です。

⑧ **HDMI IN/OUT(MAIN/SUB)端子**
HDMI IN端子
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子です。各入力端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。
HDMI OUT(MAIN/SUB)端子
本機からデジタル映像信号とデジタル音声信号をテレビに出力する端子です。
MAIN/SUBのどちらから出力するかは、「**モニター出力設定**」で切り換えます（➔ **P.50**）。

⑨ **MONITOR OUT端子**
接続しているモニターやテレビにビデオ映像（**V**端子）、S映像（**S**端子）を出力する端子です。

⑩ **COMPONENT VIDEO IN/MONITOR OUT端子**
コンポーネント映像を入出力する端子です。各入力端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。

⑪ **COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUT端子**
ゾーン2のテレビのコンポーネント入力端子に接続します。本機からコンポーネント映像をメインルームやゾーン2へ出力する端子です。

⑫ **ZONE 2 OUT V端子**
ゾーン2のテレビのビデオ（コンポジット）入力端子に接続します。本機からビデオ映像（コンポジット）を出力します。

⑬ **PC IN端子**
パソコンと接続してRGB信号を入力する端子です。

⑭ **電源入力AC100V端子**
付属の電源コードを接続します。

⑮ **GND端子**
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

⑯ **BALANCE L/R INPUT端子**
バランスタイプのXLR型入力端子です。モノラルのソースは**BALANCE L**端子に接続します。

⑰ **12V TRIGGER OUT A/B/C端子**
外部機器の12Vトリガー入力端子と接続します。

⑱ **コンポジットビデオ/Sビデオ/アナログオーディオ端子**
アナログ映像信号とアナログ音声信号を入力する端子です。

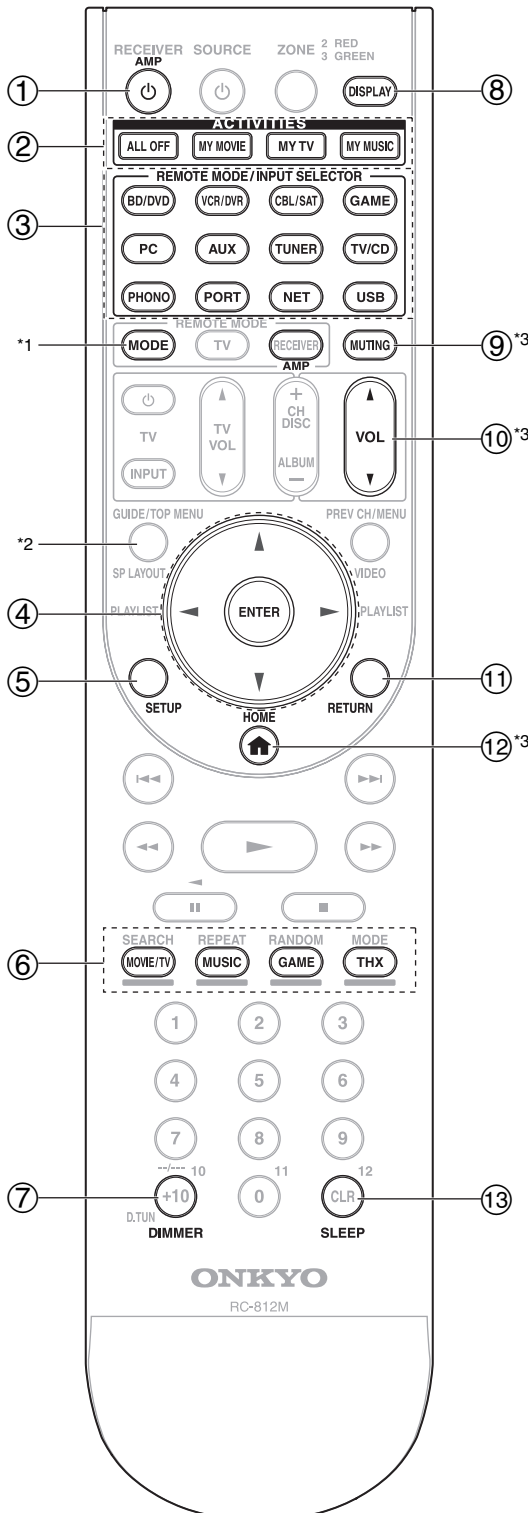
⑲ **MULTI CH 入力端子**
マルチチャンネル出力に対応したDVDプレーヤーなどを接続します。

⑳ **PRE OUT端子**（プリ）
パワーアンプやアンプ内蔵サブウーファーなどと接続します。

SW1、**SW2 PRE OUT**端子は、それぞれレベルと距離を設定できます。
* **SW**…サブウーファー

㉑ **ZONE 2/ZONE 3 PRE/LINE OUT端子**
別室（ゾーン2/ゾーン3）で使用するアンプやアンプ内蔵サブウーファーを接続するアナログの音声出力端子です。

㉒ **PRE OUT端子**
バランスタイプのXLR型出力端子で、マルチチャンネルパワーアンプやアンプ内蔵のサブウーファーを接続します。
FRONT L/R端子と**FRONT HIGH/WIDE L/R**端子はバイアンプ接続して使用することもできます。

接続については「接続をする」をご覧ください
（➔ P.15〜26）。

リモコン

本機を操作する

AMPモード

本機を操作するときは、はじめにAMPボタンを押して、AMPモードにしてください。
また、リモコンでお手持ちのブルーレイディスク/DVDプレーヤーやCDプレーヤーなどの、AV機器も操作することができます。詳しくは「本機のリモコンで他の製品を操作する」をご覧ください（➔ P.82）。
（　）内のページに主な説明があります。
詳しくはそちらをご覧ください。

① **⏻AMPボタン**（27）
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

② **ACTIVITIESボタン**（47、90）
マクロを使います。

③ **REMOTE MODE/INPUT SELECTORボタン**（28）
モードを切り換えて、再生する機器を選びます。

④ **▲/▼/◄/►/ENTERボタン**
設定項目を選択します。**ENTER**ボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑤ **SETUPボタン**（49）
本機の設定を行います。

⑥ LISTENING MODE**ボタン**（38）
リスニングモードを選びます。

⑦ **DIMMERボタン**（46）
表示部の明るさを切り換えます。

⑧ **DISPLAYボタン**（46）
表示部の情報を切り換えます。

⑨ **MUTINGボタン**（47）
音を一時的に小さくします。

⑩ **VOL ▲/▼ボタン**（28）
音量を調整します。

⑪ **RETURNボタン**
設定中に１つ前の表示に戻します。

⑫ **HOMEボタン**（45）
ホームメニューを表示させます。

⑬ **SLEEPボタン**（45）
スリープタイマーを設定します。

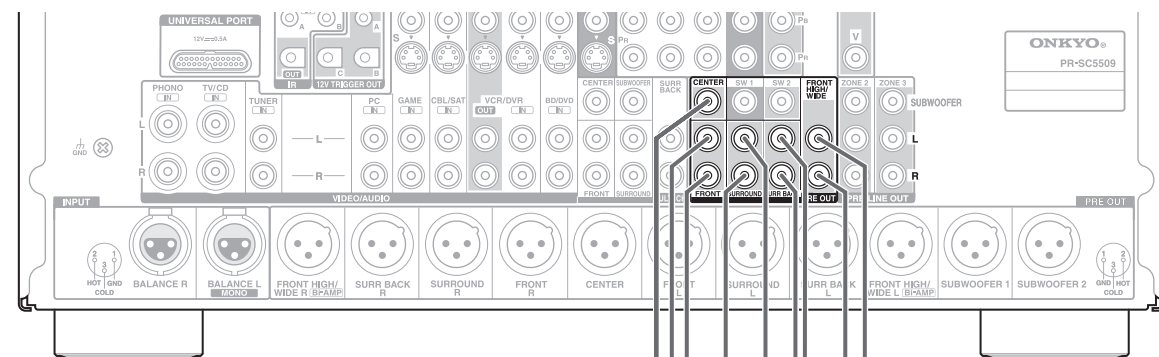
*1 入力をそのまま変更せずにリモート（コントローラー）モードを切り換えたい場合は、**MODE** ボタンを押して約８秒以内に **REMOTE MODE** ボタンを押します。押した **REMOTE MODE** ボタンに対応する機器を本機のリモコンで操作できるようになります。
*2 **SP LAYOUT** ボタンは本機ではご使用いただけません。
*3 AMP モード以外の **REMOTE MODE** ボタンを選択しているときも使用できます（TV モード時は除く）。**HOME** ボタンを押すと AMP モードに切り換わります。

接続をする

スピーカーを接続する

本機は別売のマルチチャンネルパワーアンプを接続してお使いになるよう設計されたAV コントローラーです。本機の**PRE OUT**（プリ アウト）端子をアンプの入力端子に接続し、お使いになるスピーカーをアンプのスピーカー端子に接続します。クロスオーバー設定、スピーカーの距離設定などは本機側で設定します。

パワーアンプをRCA端子で接続する

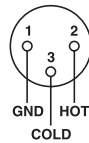
本機はマルチチャンネルパワーアンプをRCA端子で接続できます。接続にはRCAマルチピンケーブル、あるいは数本のRCAステレオピンケーブルを使用します。
スピーカー接続は、マルチチャンネルパワーアンプの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

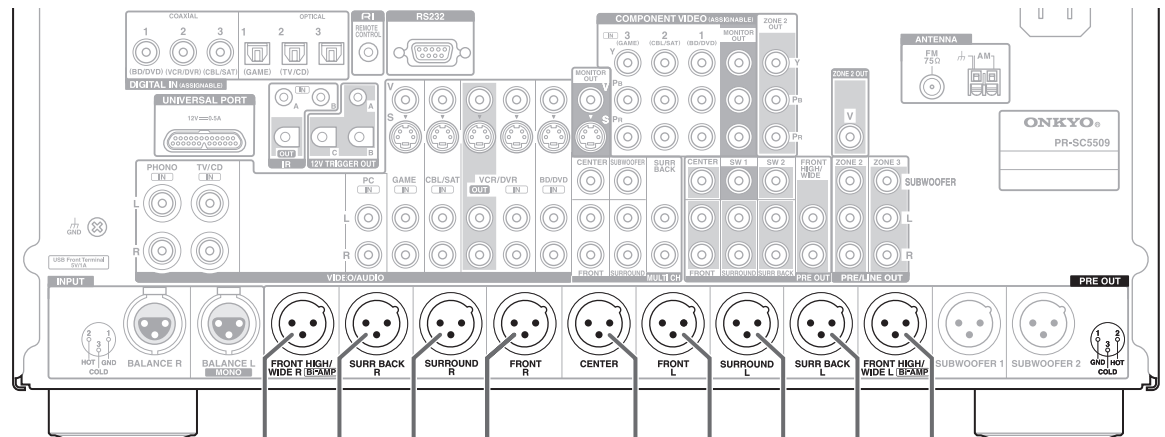
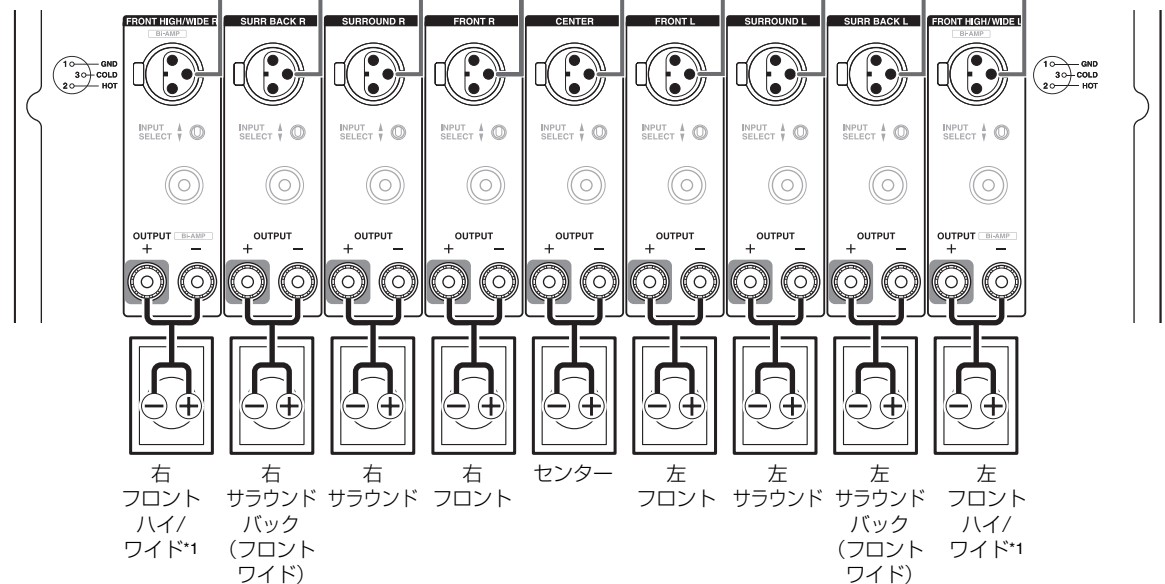
*1 出力するチャンネルについて、クロスオーバー周波数を「スピーカー詳細設定」で設定します（➔ P.54）。

- 「フロントハイスピーカー」と「フロントワイドスピーカー」を同時に鳴らす場合は、上記の接続方法と異なります。詳しくは、HDMI接続したテレビで、OSD（オンスクリーンディスプレイ）画面を表示し、「**スピーカーセッティング**」メニューのスピーカー接続図をご参照ください。

パワーアンプをXLR端子で接続する

本機はマルチチャンネルパワーアンプをバランス型XLR端子で接続できます。接続にはXLRタイプのオーディオケーブルを数本使用します。

本機のバランス型**PRE OUT**端子は下図のとおりに配線されています。

スピーカー接続は、マルチチャンネルパワーアンプの取扱説明書をご覧ください。

本機

マルチチャンネル
パワーアンプ

右 フロントハイ/ワイド*1
右 サラウンドバック（フロントワイド）
右 サラウンド
右 フロント
センター
左 フロント
左 サラウンド
左 サラウンドバック（フロントワイド）
左 フロントハイ/ワイド*1

ご注意

*1 出力するチャンネルについて、クロスオーバー周波数を「スピーカー詳細設定」で設定します（➔ P.54）。

- 「フロントハイスピーカー」と「フロントワイドスピーカー」を同時に鳴らす場合は、上記の接続方法と異なります。詳しくは、HDMI接続したテレビで、OSD（オンスクリーンディスプレイ）画面を表示し、「**スピーカーセッティング**」メニューのスピーカー接続図をご参照ください。

スピーカーの配置

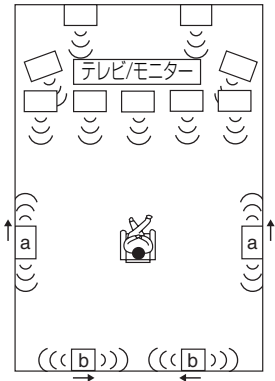
以下の表は、使用できるチャンネル数を示しています。チャンネル数はスピーカーの数によって異なります。
スピーカーの数に関係なく、とても強力かつ充実した重低音効果を発揮するためにはパワードサブウーファーの使用を推奨します。
最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定（➔ **P.35**）または手動設定（➔ **P.53**）を行ってください。

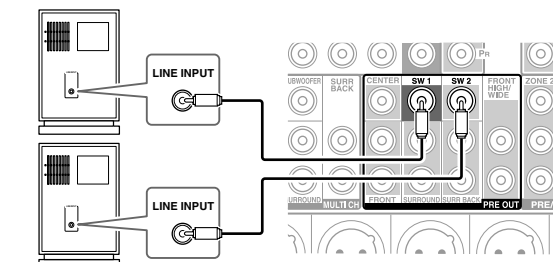
チャンネル数	2	3	4	5	6	7	7	7	8	8	9	9	9
フロントスピーカー	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
センタースピーカー		✔		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
サラウンドスピーカー			✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
サラウンドバックスピーカー（1台）*1					✔				✔	✔			
サラウンドバックスピーカー（2台）						✔					✔	✔	
フロントハイスピーカー							✔		✔		✔		✔
フロントワイドスピーカー								✔		✔		✔	✔

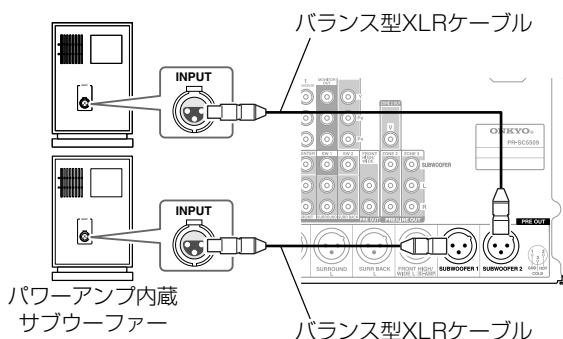
*1　サラウンドバックスピーカーを 1 台だけ使用する場合は、**SURR BACK L**（サラウンド バック）端子に接続してください。

ダイポール型スピーカーを使う

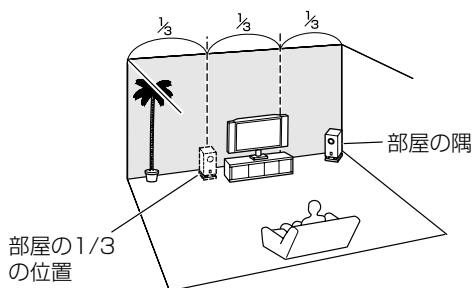
サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの代わりにダイポール型スピーカーを使うことができます。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、2つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くのスピーカーには矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカー（図中a）は矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカー（図中b）は、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

* **位相**：弦波の 1 周期（0 ～ 360 度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、プラス（+）、マイナス（－）の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聴きづらさがあったりします。

■RCA端子で接続する

最大２つのパワーアンプ内蔵サブウーファーを接続して使用できます。
SW1 PRE OUT端子および**SW2 PRE OUT**端子は、それぞれレベルと距離を設定できます。
サブウーファーを1つだけ使用するときは、**SW1 PRE OUT**端子に接続してください。

■XLR端子で接続する

お使いのサブウーファーがアンプ内蔵型でバランス型XLR入力端子を備えている場合、本機のバランス型XLR端子に接続します。
SUBWOOFER 1 PRE OUT端子および**SUBWOOFER 2 PRE OUT**端子は、それぞれレベルと距離を設定できます。
サブウーファーを1 つだけ使用するときは、
SUBWOOFER 1 PRE OUT端子に接続してください。

再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。

ヒント

- サブウーファー側で音量調整ができる場合、音量を上げてください。また、カットオフフィルター切換スイッチは「DIRECT」にしてください。カットオフフィルター切換スイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。
- ご使用のサブウーファーにアンプが内蔵されていない場合は、お手持ちのアンプ機器の入力端子にサブウーファーのプリアウト端子を接続して、ご使用ください。

重要
- バイアンプ接続を行うときは、スピーカーのツイーター（高音）端子とウーファー（低音）端子をつなぐ、ショート金具を必ず取り外してください。
- バイアンプ接続に対応するスピーカーのみ使用可能です。詳しくはスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

バイアンプ接続に対応したスピーカーを接続し、低音域と高音域の音質を向上させることができます。
バイアンプ接続では、フロントハイおよびフロントワイドスピーカーは使用できません。最大7.2チャンネル再生になります。
バイアンプ接続が完了し、本機の電源を入れたら、スピーカーセッティングをバイアンプにしてください（➔ P.54）。
スピーカー接続は、マルチチャンネルパワーアンプの取扱説明書をご覧ください。

■RCA端子で接続する

■XLR端子で接続する

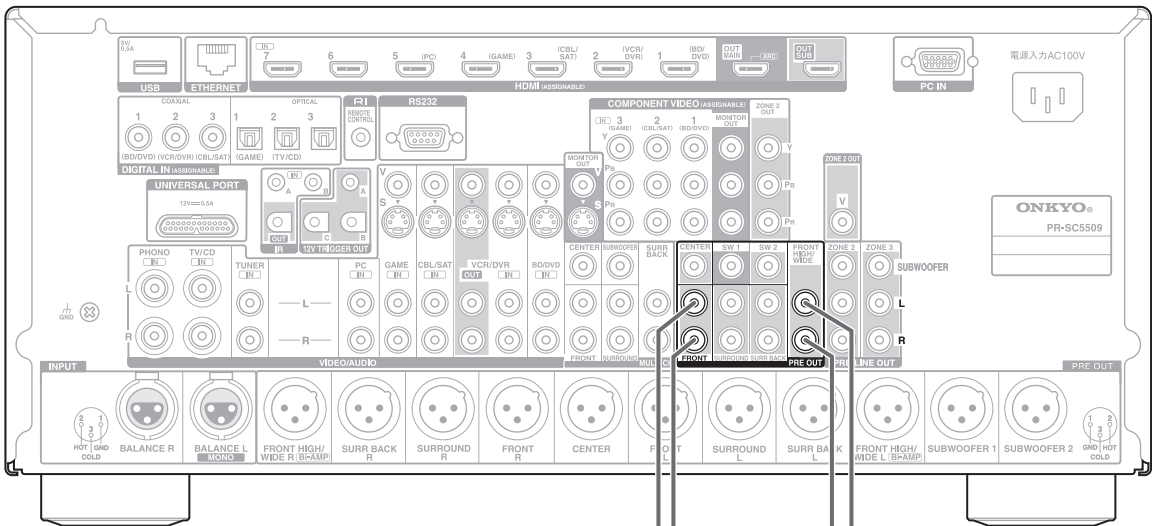
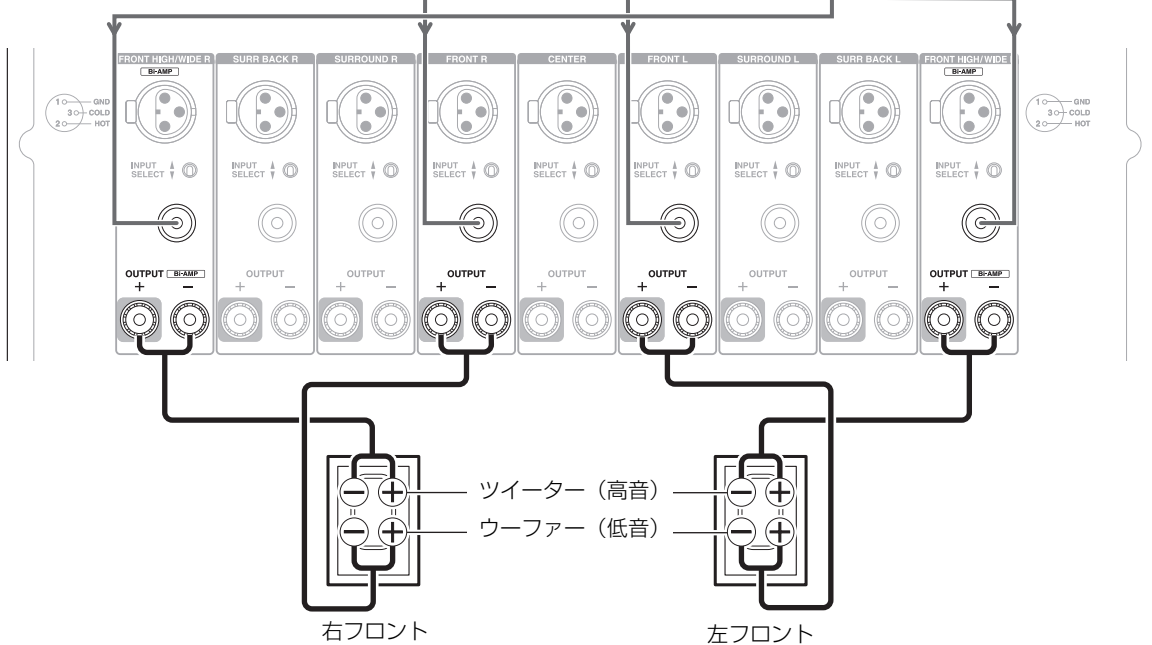
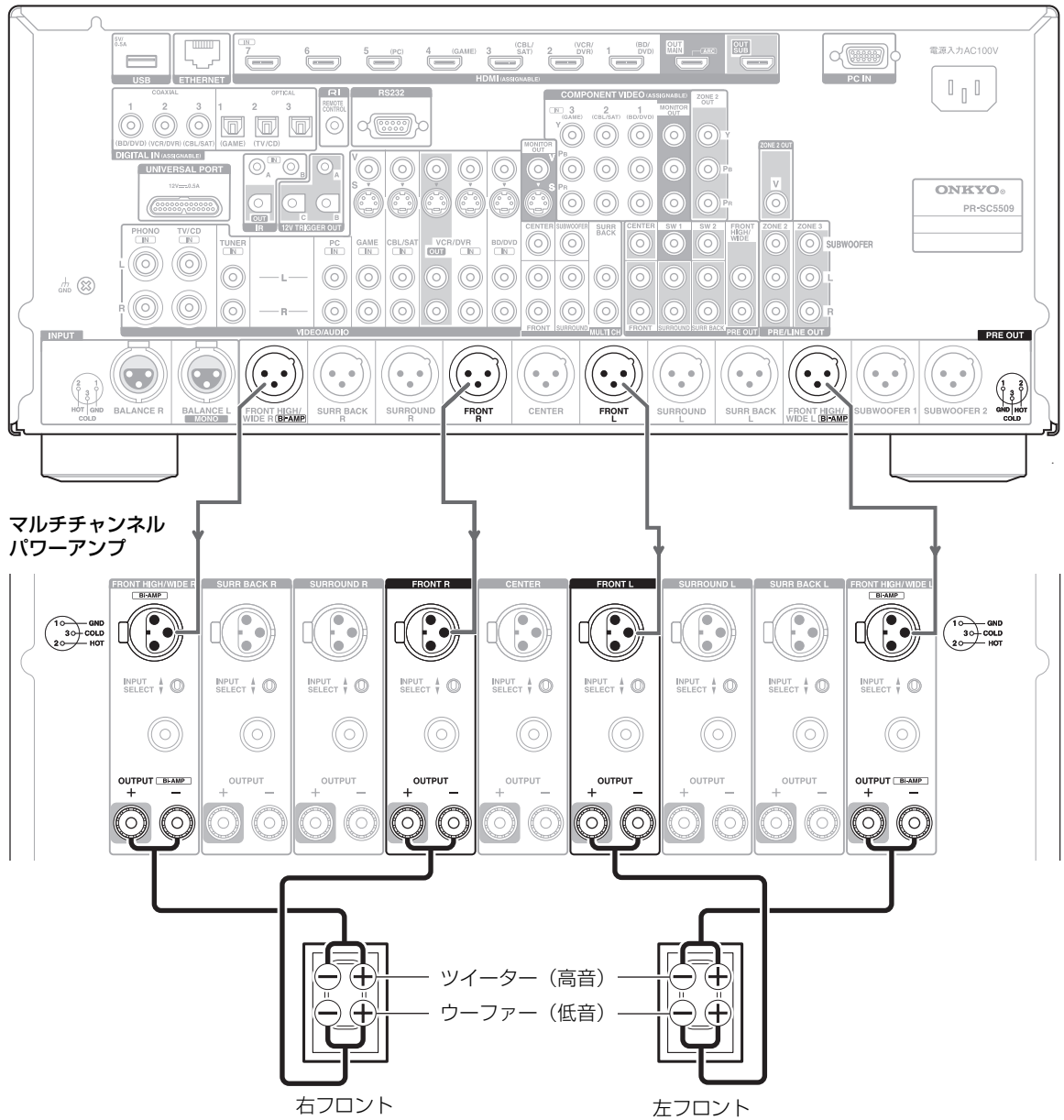
本機

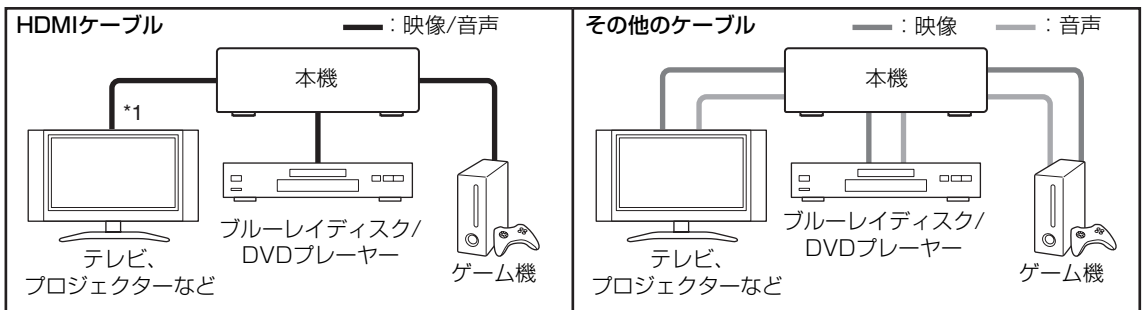
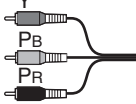
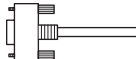
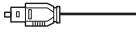
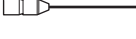
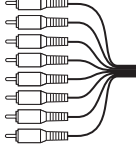
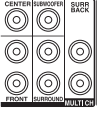
マルチチャンネル
パワーアンプ

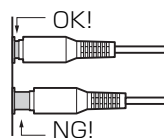
ツイーター（高音）

ウーファー（低音）

右フロント

左フロント

AV機器との接続について

接続イメージ

*1　お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していない場合は、本機をHDMIケーブルで接続すると同時に、光デジタルケーブルでも接続する必要があります。

- AV機器の接続を行う場合は、AV機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 電源コードは、すべての接続が完了するまでつながないでください。
- プラグは奥までしっかり押し込んでください（ノイズや誤動作の原因になります)。
- ケーブル同士の接触を防ぐため、映像・音声ケーブルや電源・スピーカーコードが接近しないようにしてください。

接続に必要なケーブルの名称と接続端子の形状

信号	ケーブル名称	接続端子	説明
映像/音声	HDMIケーブル	HDMI	映像信号と音声信号をデジタル伝送します。
映像	コンポーネントビデオケーブル (Y, PB, PR)	Y 緑 / PB 青 / PR 赤	Sビデオよりも良い画質が得られます。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
	アナログRGBケーブル	PC IN	PCとディスプレイを接続する、従来のアナログインターフェイスです。(D-Sub(サブ)、D-subminiature(サブミニチュア)とも呼ばれています。)
	Sビデオケーブル	S	コンポジットの映像より良い画質が得られます。本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
	ビデオケーブル（コンポジット）	V 黄	標準的な映像信号用の端子で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。
音声	光デジタルケーブル (OPTICAL(オプティカル))	OPTICAL	PCM*、ドルビーデジタルやDTSなどのデジタルサウンドを楽しむことができます。音質は同軸デジタルと同じレベルです。
	同軸デジタルケーブル (COAXIAL(コアキシャル))	COAXIAL オレンジ	PCM*、ドルビーデジタルやDTSなどのデジタルサウンドを楽しむことができます。音質は光デジタルと同じレベルです。
	バランス型XLRケーブル	INPUT / PREOUT	アナログ音声を伝送します。バランスタイプのXLRケーブルは長いケーブル引き回しでもノイズを最小限に抑えるため長距離の伝送に適しています。
	オーディオ用ピンケーブル	L 白 / R 赤	アナログ音声信号を伝送します。
	オーディオ用マルチチャンネルピンケーブル	CENTER, SUBWOOFER, SURR BACK, FRONT, SURROUND, MULTI CH	DVD オーディオ対応のDVD プレーヤーなどとの接続に使用します。アナログマルチチャンネル音声を伝送します。

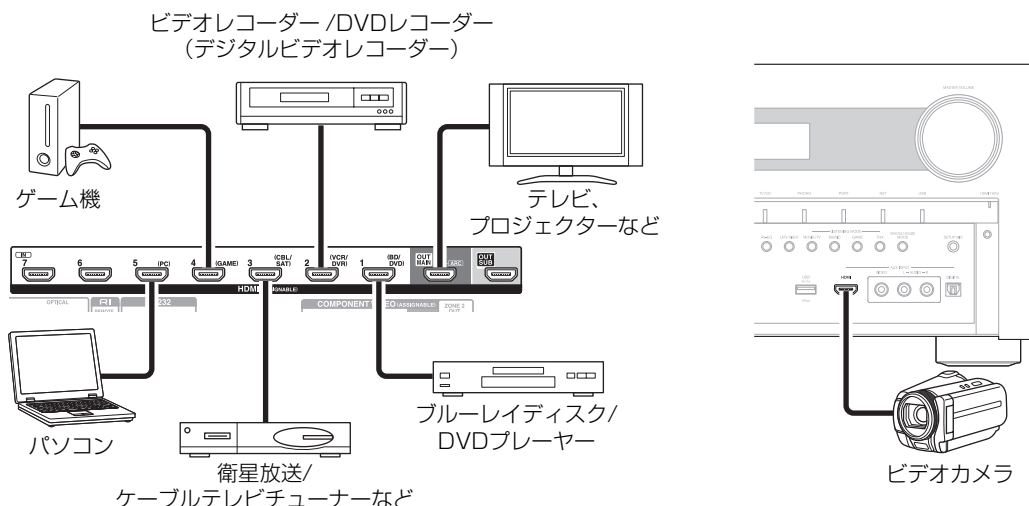
* PCM 入力信号（ステレオ / モノラル）で利用できるサンプリングレートは、32、44.1、48、88.2、96kHz です。HDMI 接続の場合は、176.4、192kHz も利用できます。

光デジタル入力端子について

本機の光デジタル入力端子は、すべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして、光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

- 光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

AV機器をHDMI接続する

* お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していない場合は、本機を HDMI ケーブルで接続すると同時に、光デジタルケーブルでも接続する必要があります。
* HDMI 接続した機器の音声を本機で聴く場合は、その機器の映像がテレビに映る状態にしておいてください（本機が接続されている HDMI 入力をテレビ側で選んでください）。テレビの電源をオフにしていたり、テレビ側で他の入力を選んでいる状態では、本機から音声が出なかったり、途切れるなど正常に音が出ないことがあります。

AV機器は割り当てられた端子に接続してください。お買い上げ時の設定は以下のようになっています。

✔：割り当ては変更できます（➔ P.51）。

端子		AV機器	割り当て可能
入力	HDMI IN 1	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
	HDMI IN 2	ビデオレコーダー /DVDレコーダー（デジタルビデオレコーダー）	✔
	HDMI IN 3	衛星放送/ケーブルテレビチューナーなど	✔
	HDMI IN 4	ゲーム機	✔
	HDMI IN 5	パソコン	✔
	HDMI IN 6	その他の機器	✔
	HDMI IN 7	その他の機器	✔
	AUX INPUT HDMI	ビデオカメラ	
出力	HDMI OUT MAIN	テレビ	
	HDMI OUT SUB	プロジェクターなど	

以下の項目もご覧ください。
- 「接続のヒント・映像信号の流れ」（➔ P.100）
- 「RIHDと互換性のあるテレビやプレーヤー /レコーダーをご使用になるには」（➔ P.104）
- 「HDMIについて」（➔ P.106）

ヒント

- HDMI接続したAV機器の音声をテレビのスピーカーで聴く場合は、「**HDMIスルー**」設定を有効にし（➔ P.68）、本機をスタンバイ状態にします。

ご注意

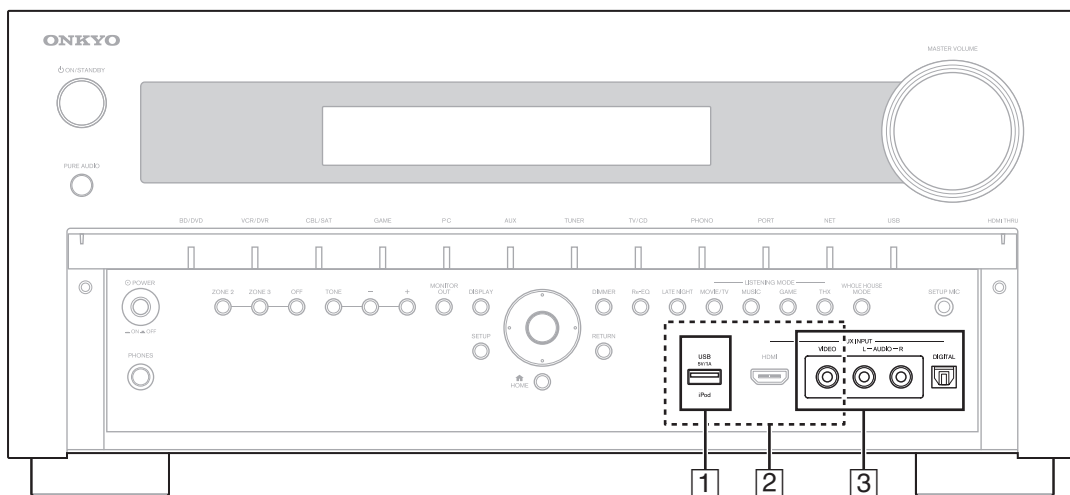
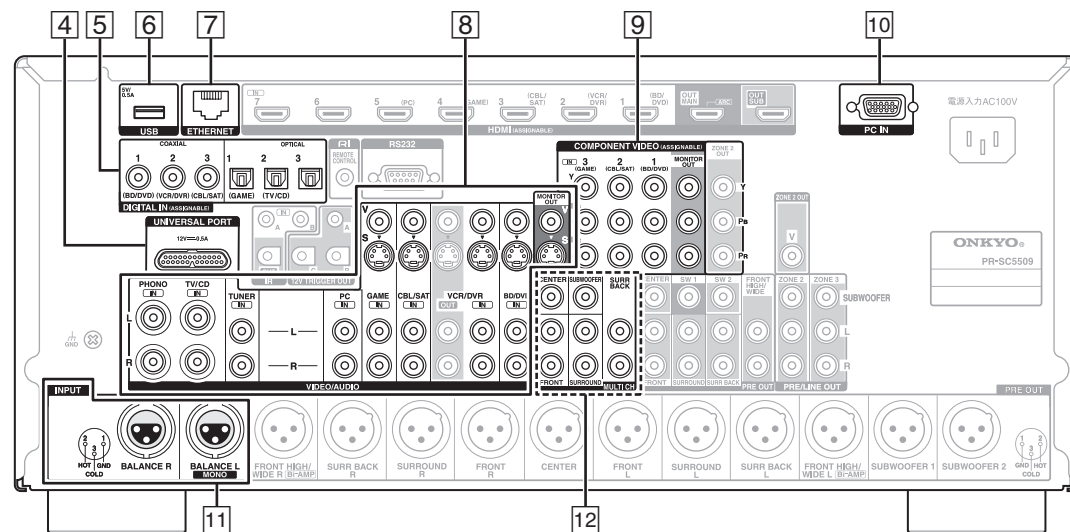
- ブルーレイディスク/DVD プレーヤーで、上記の操作をしても音声が出ないときは、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー側でHDMI音声出力の設定をPCMにしてください。

■オーディオリターンチャンネル（ARC）機能

本機とテレビをつなぐHDMIケーブルを使用して、テレビの音声信号を本機の**HDMI OUT MAIN**端子に送る機能です。この機能を使用するには、お使いのテレビがARC機能に対応している必要があります。
テレビの音声を本機に接続したスピーカーで楽しんだり、本機に接続したAV機器の映像や音声をテレビで楽しんだりすることが、テレビと本機をHDMI接続するだけで可能になります。
ARC機能を使用するには、まず入力切換ボタンで「**TV/CD**」を選びます。次に「**HDMIコントロール(RIHD)**」設定を「**オン**」にし（➔ P.68）、「**オーディオリターンチャンネル**」設定を「**自動**」にします（➔ P.69）。

外部機器を接続する

本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体の表示部を見ながら設定してください。

前面パネル

後面パネル

外部機器は割り当てられた端子に接続してください。お買い上げ時の設定は以下のようになっています。

✔：割り当ては変更できます（➔ P.52）。

No.	端子			外部機器	割り当て可能
1	USB*1			iPod/iPhone、MP3プレーヤー、USBデバイス	
2	USB、AUX INPUT VIDEO*2			iPod/iPhone（ビデオ再生）	
3	AUX INPUT	VIDEO		ビデオカメラなど	
		AUDIO L/R			
		DIGITAL			
4	UNIVERSAL PORT			iPodドック（UP-A1など）	
5	DIGITAL IN	COAXIAL	IN 1 (BD/DVD)	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
			IN 2 (VCR/DVR)	ビデオレコーダー /DVDレコーダー（デジタルビデオレコーダー）	✔
			IN 3 (CBL/SAT)	衛星放送、ケーブルチューナーなど	✔
		OPTICAL	IN 1 (GAME)	ゲーム機	✔
			IN 2 (TV/CD)	テレビ、CDプレーヤー	✔
			IN 3	その他の機器	✔
6	USB*1			MP3プレーヤー、USBデバイス	
7	ETHERNET			ルータ	
8	MONITOR OUT			テレビ、プロジェクターなど	
	BD/DVD IN			ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	
	VCR/DVR IN			ビデオレコーダー /DVDレコーダー（デジタルビデオレコーダー）、RIドック	
	CBL/SAT IN			衛星放送/ケーブルチューナーなど	
	GAME IN			ゲーム機/RIドック	
	PC IN			パソコン	
	TUNER IN			チューナー	
	TV/CD IN			テレビ、CDプレーヤー、レコードプレーヤー *3、カセットテープデッキ、MD、CD-R、RIドック	
	PHONO IN			レコードプレーヤー *3	
9	COMPONENT VIDEO	IN 1 (BD/DVD)		ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
		IN 2 (CBL/SAT)		衛星放送/ケーブルチューナーなど	✔
		IN 3 (GAME)		ゲーム機	✔
		MONITOR OUT		テレビ、プロジェクターなど	
10	PC IN*4			パソコン	
11	BALANCE INPUT*5			CDプレーヤーなど	✔
12	マルチチャンネル入力*6			DVDプレーヤー、DVDオーディオプレーヤー、スーパーオーディオCDプレーヤー	✔

ご注意

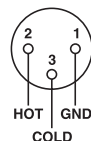
*1 本機の **USB** 端子にパソコンを接続しないでください。本機の **USB** 端子にはパソコンから音声を入力できません。

*2 **USB** 入力を選んでいる場合、**AUX INPUT VIDEO** 端子から映像信号を入力することができます。

*3 フォノプリアンプ内蔵のレコードプレーヤー（MM）を**TV/CD IN**に接続します。フォノプリアンプを使用しない、または内蔵していない場合は、**PHONO IN**に接続してください。
可動コイル（MC）カートリッジタイプの場合、本機に対応するMCヘッドアンプまたはMC変圧器を**PHONO IN**に接続してください。詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機の**GND**（グランド）端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。

*4 パソコンを **PC IN** 端子に接続し、**PC** 入力切換を選ぶと、パソコンの映像信号が HDMI 出力端子から出力されます。HDMI 入力端子に **PC** 入力切換が割り当てられている場合は、HDMI 入力端子から入力された信号が **PC IN** 端子から入力された信号よりも優先して HDMI 出力端子へ出力されます。**PC IN** 端子から入力した信号を優先して出力するには、「**HDMI 入力**」設定の「**PC**」を「- - - - -」に設定します（➔ P.51）。

*5 モノラルのソースは **BALANCE L** 端子に接続します。機器を接続したら「**アナログ音声入力**」の「**バランス入力**」で機器を入力切換ボタンに割り当て（➔ P.53）、「**入力チャンネル**」でステレオ入力かモノラル入力かを設定します（➔ P.57）。本機のバランス型 XLR 端子は、ご覧のような配線になっています。

*6　マルチチャンネル入力を使用する前に入力切換ボタンへの割り当てが必要です（➔ P.53）。マルチチャンネル入力を使用するには、「**音声入力**」の設定が必要です（➔ P.65）。また、マルチチャンネル入力でのサブウーファー信号に対する入力感度を調整することができます（➔ P.53）。

- 5の接続で、ドルビーデジタルやDTSなどを楽しむことができます。
- 8の接続で、別室（ゾーン2/ゾーン3）に居ながら入力機器の音声を聴いたり録音することができます。
- 8の接続で、ブルーレイディスク/DVDプレーヤーにメインのステレオ出力と、マルチチャンネル出力の両方が備わっている場合は、メインのステレオ出力に接続してください。

■録画方法

録画をするには、「録音・録画する」をご覧ください（➔ P.48）。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品に、RIケーブルとオーディオ用ピンケーブルを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです（本機には付属していません）。
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。

1 **各オンキヨー製機器が、オーディオ用ピンケーブルで接続されていることを確認してください（接続例の接続8）（➔ P.23）。**

2 **RIケーブルを接続します（図をご覧ください）。**

3 **RIドックやカセットテープデッキを使う場合は、入力表示を切り換えます（➔ P.46）。**

■オートパワーオン

本機がスタンバイモードになっている状態で、RI接続されている機器の再生を始めると、自動的に本機の電源が入り、該当する機器が入力ソースに選ばれます。

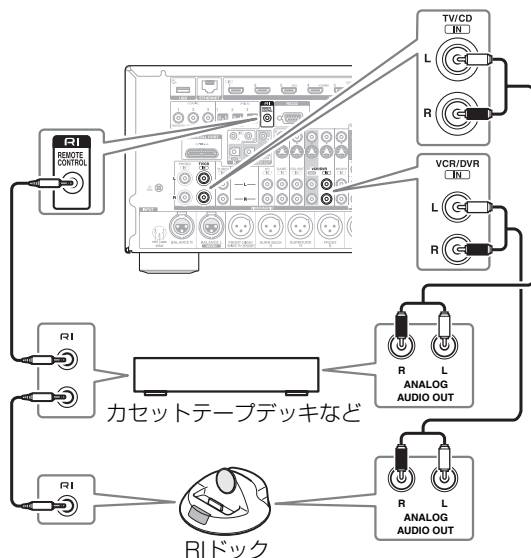
■ダイレクトチェンジ

RI接続されている機器の再生が始まると、その機器が入力ソースに選ばれます。

■システムオフ

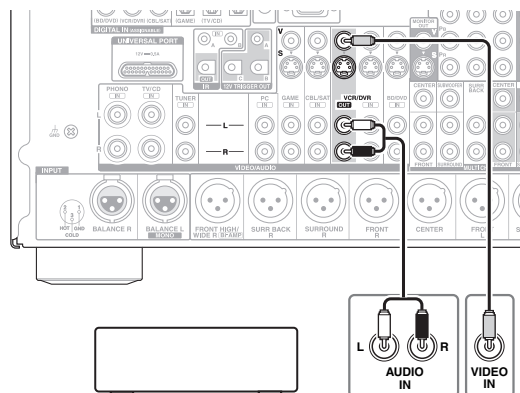
本機の電源を切ると、RI接続されている機器の電源が自動的にオフになります。

■リモコン操作

本機のリモコンを使って、RIに対応しているオンキヨー製機器を操作できます。リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作します。RI専用リモコンコードを登録してください（➔ P.83）。

ご注意

- 製品によっては、RI接続をしても、一部の機能が働かないことがあります。
- 録音機器のダビング機能は働きません。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は、順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応/非対応については、オンキヨーオーディオコールセンターにお問い合わせください。
- RIドックなどのオンキヨー製ドックを、RI接続する場合は、入力表示を切り換えてご使用ください（➔ P.46）。
- ゾーン2またはゾーン3への出力をオンにしている場合、連動機能は働きません。

録音・録画機器を接続する

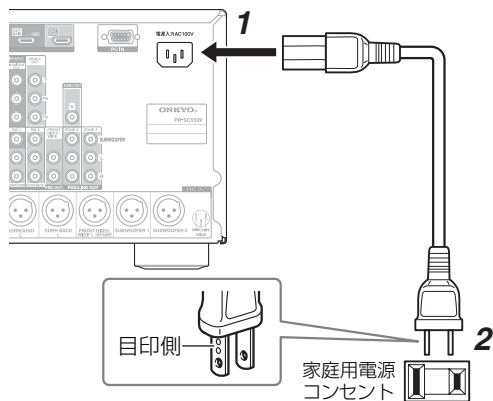
録音・録画をするには、「録音・録画する」をご覧ください（➔ P.48）。

ビデオデッキ、
DVDレコーダー、
カセットテープデッキ、
CDレコーダー、MDレコーダー
など

ご注意

- 録音・録画するには、本機の電源を入れる必要があります。スタンバイ状態では録音・録画できません。
- テレビや再生側ビデオデッキから、録画用のビデオデッキに、本機を経由せずに直接録画したい場合は、テレビやビデオデッキの音声・映像出力を、録音用のビデオデッキの音声・映像入力に直接接続してください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- **VCR/DVR IN**端子への入力信号は、**VCR/DVR OUT**端子に出力されません。これは入出力がループして故障するのを防ぐためです。
- サラウンド効果と、DSPリスニングモードは録音されません。
- 著作権保護されたブルーレイディスクやDVDは、デジタル録音・録画できません。
- デジタル信号は録音・録画できません。アナログ入力時のみ録音・録画できます。
- DTS対応のCDやLDをアナログ録音すると、DTS信号はノイズとして録音されますのでご注意ください。
- Pure Audio（ピュア オーディオ）リスニングモードでは、ビデオ回路の電源がオフになるため映像が出力されません。
録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。

電源コードを接続する

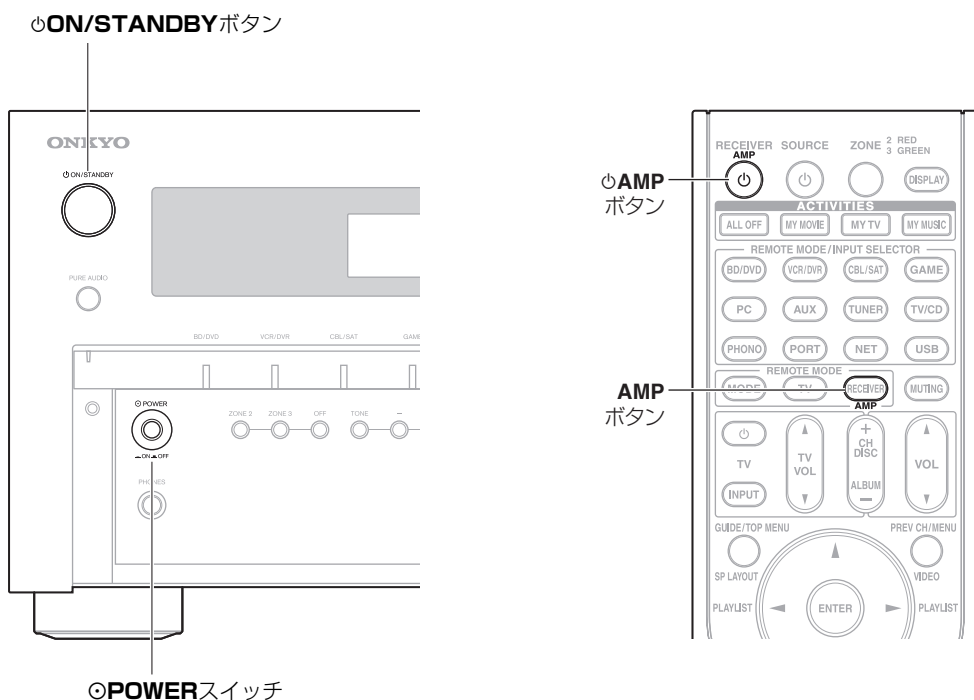
1 付属の電源コードを、本機の電源入力AC100V端子に接続します。

2 電源コードをコンセントに接続します。

ご注意

- **電源コードを接続する前に、すべての接続が完了していることを確認してください。**
- 付属の本機専用電源コード以外は使用しないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、本機の主電源をオフにしてから抜いてください。
- 家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で、**電源入力AC100V**端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、コンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

より良い音で聴いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を、家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

本機の電源を入れる・切る

電源を入れる

1 **POWER（パワー）スイッチを押して（▃）、主電源を入れる**

2 **前面パネルのON（オン）/STANDBY（スタンバイ）ボタンを押す**
または

リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押してAMPボタンを押す

電源を切る

1 **前面パネルのON/STANDBYボタンを押す**
または

リモコンのAMPボタンを押してAMPボタンを押す
本機がスタンバイ状態になります。本機の電源を入れたときに、大きな音が鳴って驚かないように、必ず音量を下げてから電源を切るようにしてください。
主電源を切るには**POWER**スイッチを押し（▃）、OFFにします。

ヒント

- 電源の設定については、「自動スタンバイ」をご覧ください（➔ P.69）。

再生をする

本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体の表示部を見ながら設定してください。

この項目では、特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

接続した機器を再生する

■リモコンで操作する

1 **AMPボタンを押して、入力切換ボタンを押す**

2 **選んだ機器の再生を始める**
以下の項目もご覧ください。
- 「iPod/iPhoneをUSBで再生する」（➔ P.30）
- 「USBストレージ内の音楽ファイルを再生する」（➔ P.31）
- 「radiko.jpを聴く」（➔ P.31）
- 「vTunerインターネットラジオを聴く」（➔ P.32）
- 「ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する」（➔ P.33）
- 「リモート再生する」（➔ P.34）
- 「オンキヨー製ドックでiPod/iPhoneを再生する」（➔ P.79）
- 「本機のリモコンで他の製品を操作する」（➔ P.82）

3 **VOL ▲/▼ボタンで音量を調整する**

4 **リスニングモードを選んで、楽しむ**
以下の項目もご覧ください。
- 「リスニングモードを使う」（➔ P.38）
- 「サウンドプログラム編集」（➔ P.60）
- 「Audyssey」（➔ P.60）

■本機で操作する

1 **入力切換ボタンで再生する機器を選ぶ**

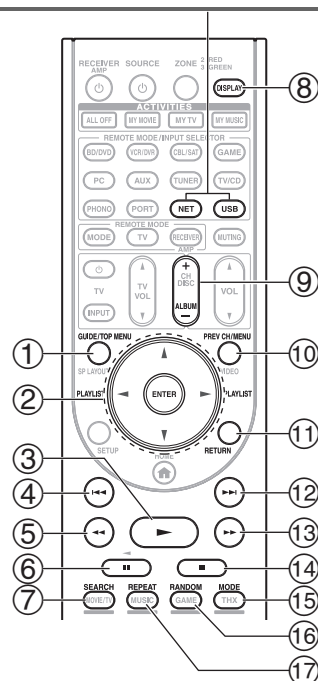
2 **選んだ機器の再生を始める**

3 **MASTER VOLUMEつまみで音量を調整する**

4 **リスニングモードを選んで、楽しむ**

USB、ネットワーク内のファイルを操作する

その他の機器の操作については「本機のリモコンで他の製品を操作する」をご覧ください（➔ P.82）。

最初に **USB**ボタンまたは**NET** ボタンを押してください。

①	**GUIDE/TOP MENUボタン** 各メディアやサーバーのトップメニューを表示します。
②	**▲/▼ボタン 、ENTERボタン** 項目を選択します。
	◄/►ボタン ページを移動します。
	PLAYLIST ◄/►ボタン Standard Mode（iPod/iPhone）で、プレイリストを選択します。
③	**► ボタン** 再生を開始します。
④	**⏮ボタン** 現在の曲の先頭を再生します。前の曲を再生するには、２回押します。
⑤	**◄◄ボタン** 現在の曲を早戻しします。
⑥	**❚❚ボタン** 一時停止します。
⑦	**SEARCHボタン** 再生中に再生画面とリスト画面を切り換えます。
⑧	**DISPLAYボタン** 曲情報を切り換えます。

⑨	**ALBUM（アルバム） +/−ボタン** Standard Mode（iPod/iPhone）で、アルバムを選択します。
⑩	**PREV（プリビアス） CH（チャンネル） /MENU（メニュー）ボタン** 各インターネットラジオサービスのトップメニューに移動します。
⑪	**RETURN（リターン）ボタン** ひとつ前の画面に戻ります。
⑫	**►►Iボタン** 次の曲を再生します。
⑬	**►►ボタン** 現在の曲を早送りします。
⑭	**■ボタン** 再生を停止します。
⑮	**MODE（モード）ボタン** iPod/iPhoneを再生中、Standard（スタンダード） ModeとExtended（エクステンド） Modeを切り換えます。
⑯	**RANDOM（ランダム）ボタン** ランダム再生します。
⑰	**REPEAT（リピート）ボタン** リピート再生します。**REPEAT**ボタンを押すたびにリピートモードが切り換わります。

ご注意

- 再生するサービスやデバイスによって、動作するボタンが異なります。

表示されるアイコンについて

このセクションでは、メディア再生中に表示部に表示されるアイコンについて説明します。

表示部に表示されるアイコン一覧

アイコン	説明
	フォルダ
	曲
	再生
	一時停止中
	早送り
	早戻し
	アーティスト
	アルバム
	1トラックリピート
	フォルダリピート（USBデバイス）
	リピート
	シャッフル
	アルバムシャッフル（iPod/iPhone）

iPod/iPhoneをUSBで再生する

本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）することで、テレビに操作画面を表示できます。

iPod/iPhoneに保存されている音楽ファイルを再生する手順について説明します。
以下のiPod/iPhoneに対応しています：
iPod touch（第一、第二、第三、第四世代）、
iPod classic、iPod（第五世代）、iPod nano（第一、第二、第三、第四、第五、第六世代）、iPhone 4、
iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone

1 **入力セレクタのUSBボタンをくり返し押して、「USB(前面)」を選ぶ**

2 **iPod/iPhone付属のUSBケーブルで本機前面にあるUSB端子に接続する**

iPod/iPhoneのコンテンツ情報を読み込み中は、表示部に「**Connecting...**」が表示されます。
USB表示が点灯していればiPod/iPhoneに接続できています。**USB**表示が点滅している場合、本機がiPod/iPhoneを認識できていません。

3 **MODEボタンをくり返し押して、Extended Mode（音楽）またはExtended Mode（映像）に切り換える**

デバイス内容の一覧が表示されます。
フォルダを開くには▲/▼ボタンを押して選び、**ENTER**ボタンを押します。

ヒント

- お買い上げ時の設定ではiPod/iPhoneはStandard Modeとして操作できます。
- **MODE**ボタンをくり返し押すと、Standard Modeに切り換わります。
- モードはiPod/iPhoneを抜いても保存されているため、Extended Mode（音楽）で抜いて、再度iPod/iPhoneを差すと次回はExtended Mode（音楽）で起動します。
- iPod/iPhone付属のUSBケーブルで接続することを推奨します。

4 **▲/▼ボタンを押して音楽ファイルを選び、►ボタンまたはENTERボタンを押して再生する**

ご注意

- 本機の表示部に「**Connecting...**」が表示されているときは、本機に接続されているUSBストレージ、USBケーブルを抜かないでください。
- iPod/iPhoneを本機の**USB**端子に接続した場合、ヘッドホンからは音声が出力されません。

Extended Mode（音楽）で操作する

OSD画面にコンテンツ情報が表示され、画面を見ながら選択および操作ができます。
トップ画面のリスト：
プレイリスト（Playlists）、アーティスト（Artists）、アルバム（Albums）、ジャンル（Genres）、曲（Songs）、作曲者（Composers）、シャッフル（Shuffle Songs）、再生中（Now Playing）

Extended Mode（映像）で操作する

プレイリストがテレビ画面に表示され、画面を見ながら映像の検索と選択ができます。
トップ画面のリスト：
映画（Movies）、ミュージックビデオ（Music Videos）、テレビ番組（TV Shows）、ビデオポッドキャスト（Video Podcasts）、レンタル（Rentals）

ご注意

- iPod/iPhoneの映像を観る場合は、アップル公式のコンポジットAVケーブルで本機の前面パネルの**USB**端子と**AUX INPUT VIDEO**端子に接続してください。
- iPod/iPhoneの機種・世代によっては、表示内容が異なる場合もあります。また、Extended Mode（映像）でのサポートを保証していない場合があります。

Standard Modeで操作する

OSD画面にコンテンツ情報は表示されず、iPod/iPhone本体および、本機のリモコンにて操作が可能です。

ご注意

- 以下のiPodはStandard Modeには対応していません。（Extended Modeのみ操作可能になります。）
  - iPod（第五世代）
  - iPod nano（第一世代）

USBストレージ内の音楽ファイルを再生する

本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）することで、テレビに操作画面を表示できます。

以下の手順でUSBストレージ内（USBメモリーなど）の音楽ファイルを再生します。
以下の項目もご覧ください。
•「ネットワーク/USBについて」（➔ P.107）

1 リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押して、USBボタンをくり返し押して「USB(前面)」または「USB(後面)」を選ぶ

2 本機のUSB端子に音楽ファイルが入ったUSBストレージを接続する

USB表示が点灯します。点滅する場合は、USBストレージの接続をご確認ください。

3 ENTER（エンター）ボタンを押す

USBストレージ内のフォルダや音楽ファイルがリスト表示されます。フォルダを開くには▲/▼ボタンでフォルダを選び、**ENTER**ボタンを押してください。

4 ▲/▼ボタンを押して音楽ファイルを選び、►ボタンまたはENTERボタンを押す

選択した音楽ファイルの情報が表示され、再生が開始されます。

ご注意

• 本機の表示部に「Connecting...」が表示されているときは、本機に接続されているUSBストレージ、USBケーブルを抜かないでください。

radiko.jpを聴く

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.107）。本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）することで、テレビに操作画面を表示できます。

radiko.jpは地上波ラジオ放送をCMも含め、そのまま同時に放送エリアに準じた地域に配信するサイマルサービスです。
対応 (聴取可能) エリア、対応放送局について詳しくはradiko.jpのWebサイト（http://radiko.jp）をご覧ください。

ご注意

• 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

1 リモコンのAMPボタンを押して、NET（ネット）ボタンを押す

「ネットワーク」画面が表示され、NET表示が点灯します。点滅する場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。

2 ▲/▼/◄/►ボタンを押して「radiko.jp」を選び、ENTERボタンを押す

本機が接続されているエリアに応じた放送局リストが表示されます。radiko.jpサービスが行われていない地域、もしくはサービス停止中の場合、エラー画面が表示されます。

3 ▲/▼ボタンを押して放送局を選び、ENTERボタンを押す

再生が開始されます。
楽曲情報を提供している放送局を選択した場合は、楽曲のアーティスト名、楽曲名が表示されます。
楽曲情報が無い放送局の場合は、番組名、出演者名が表示されます。
再生画面で、⏮/⏭ボタンを押すと、放送局が切り換わります。

以下のメニューを選択するには、放送局の再生中に**PREV CH/MENU（メニュー）**ボタンを押します。

- ▸Today's Program：
  当日の番組一覧が表示されます。
- ▸Tomorrow's Program：
  明日の番組一覧が表示されます。
- ▸Program's detail：
  再生している番組の番組詳細を表示します。
- ▸Topics：
  番組のトピックスを表示します。放送された楽曲のリストやおすすめ情報など、放送をより楽しむための情報が表示されます。

vTunerインターネットラジオを聴く

本機をネットワークに接続する必要があります
（➔ P.107）。**本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）することで、テレビに操作画面を表示できます。**

vTunerインターネットラジオは、世界中のインターネットラジオ局のポータルサイトです。音楽ジャンル別、国別などの区分で各地のラジオ局を検索できます。本機ではあらかじめ、vTunerインターネットラジオが登録されています。

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

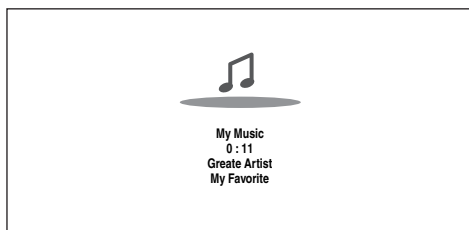
1 リモコンのAMPボタンを押して、NETボタンを押す

「**ネットワーク**」画面が表示され、NET（ネット）表示が点灯します。点滅する場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。

2 ▲/▼/◄/►ボタンを押して「vTuner Internet Radio」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

3 ▲/▼ボタンを押してプログラムを選び、ENTERボタンを押す

再生が開始されます。

ヒント

- **SEARCH**（サーチ）ボタンを押すと、再生中の画面とリスト画面を切り換えできます。
- リモコンの**PREV CH/MENU**（メニュー）ボタンを押して、「Stations like this」を選び**ENTER**ボタンを押せば、再生中の局と似た放送局を表示できます。

■vTunerインターネットラジオの番組をお気に入りに登録する

vTunerインターネットラジオの特定の番組（プログラム）を、再生しやすいようにお気に入りに登録できます。二通りの方法があります。

- **「My Favorites」に登録する**

リモコンの**NET**ボタンを押した後に表示される「**ネットワーク**」画面の「**My Favorites**」メニューに、お気に入りの番組を登録します。

1. 再生中のラジオ局またはラジオ局を選び、リモコンの**PREV CH/MENU**ボタンを押す
2. ▲/▼を押して「**My Favoritesに登録**」を選び、**ENTER**ボタンを押す
3. ▲/▼/◄/►を押して「OK」を選び、**ENTER**ボタンを押す

ヒント

- 名前を変更する場合は「セレクタ名変更（名前の編集）」をご覧ください（➔ P.62）。

- **vTunerインターネットラジオの「ブックマーク」に登録する**

vTunerインターネットラジオを選び、**ENTER**ボタンを押せば、ジャンル/地域などと同じ画面に「ブックマーク」のフォルダが表示されます。この中にお気に入りのインターネットラジオ番組を登録します。本機と同じLANに接続されているパソコンを使います。
http://onkyo.vtuner.com/ であなたの製品のMACアドレスを登録すると、このブックマークの中にお気に入りのラジオ番組を登録できます。MACアドレスは、セットアップ画面から「**ハードウェア設定**」を選び、「**ネットワーク**」を選ぶと表示されます（➔ P.69）。

他のインターネットラジオを登録する

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.107）。本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）することで、テレビに操作画面を表示できます。

本機は、PLS形式、M3U形式、およびPodcast（RSS）形式のインターネットラジオ局に対応しています。これらの形式のインターネットラジオ局であっても、データの種類や再生フォーマットによって、再生できないこともあります。
radiko.jpやvTunerインターネットラジオ以外のインターネットラジオ番組を聴くには、以下の手順で番組を「**ネットワーク**」画面の「My Favorites」メニューに登録します。

ご注意
- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

1 セットアップ画面から「ハードウェア設定」を選び、「ネットワーク」を選んでIPアドレスを表示させる
IPアドレスをメモに控えます。

2 パソコンの電源を入れ、Internet Explorer®などのインターネットブラウザを開く

3 インターネットブラウザのURL欄に本機のIPアドレスを入力する
Internet Explorerをご利用の場合は「ファイル」から「開く」を選び、IPアドレスを入力する方法もあります。
インターネットブラウザに本機の情報が表示されます（WEB Setup Menu）。

4 「My Favorites」タブをクリックして、インターネットラジオ局の名前とURLを入力する

5 「Save」をクリックしてインターネットラジオ局を登録する
登録したインターネットラジオ局は「My Favorites」に追加されます。再生するには、リモコンの**AMP**ボタンを押してから**NET**ボタンを押して、「**ネットワーク**」画面の「My Favorites」を選んで**ENTER**ボタンを押してください。インターネットラジオ局が表示されますので、登録したインターネットラジオ局を選んで**ENTER**ボタンを押します。

ヒント
- 登録したラジオ局を削除する場合は、再生中のラジオ局またはラジオ局を選び**PREV CH/MENU**を押してから▲/▼ボタンで「**My Favoritesから削除**」を選び**ENTER**ボタンを押します。またWEB Setup Menuからでも削除できます。
- 登録したラジオ局の名前を変更する場合は、ラジオ局を選び**PREV CH/MENU**を押してから▲/▼ボタンで「**ステーション情報を変更**」を選び**ENTER**ボタンを押します。詳細は、「セレクタ名変更（名前の編集）」をご覧ください（➔ P.62）。
- インターネットラジオ局は40局まで登録できます。

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.107）。本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）することで、テレビに操作画面を表示できます。

以下の手順でネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生します。

ご注意
- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

1 パソコンまたはネットワークサーバーを起動する

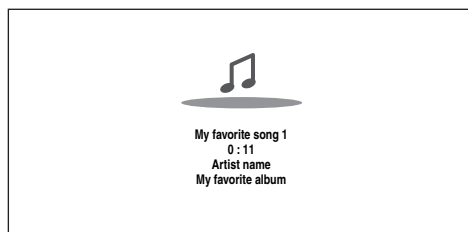
2 リモコンのAMPボタンを押して、NETボタンを押す
NET表示が点灯します。点滅表示する場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。

3 ▲/▼/◄/►ボタンを押して「dlna」を選び、ENTERボタンを押す

ヒント
- **RETURN**ボタンを押すと、ひとつ前の画面に戻ります。

4 ▲/▼ボタンを押して、ネットワークサーバーを選び、ENTERボタンを押す
ネットワークサーバーの項目がリスト表示されます。

ご注意
- サーチ機能に対応していないネットワークサーバーでは、サーチ機能は働きません。
- 本機はネットワークサーバーにある写真や動画にアクセスすることはできません。
- ネットワークサーバーの共有設定によっては、内容を表示できない場合があります。ネットワークサーバーの取扱説明書をご覧ください。

5 ▲/▼ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、ENTERボタンまたは►ボタンを押す

ご注意
- メディアサーバーによっては、早送り/早戻り/一時停止の操作が機能しない場合があります。
- 「No Item.」というメッセージが出る場合は、サーバーから情報が取得できなかったことを意味しています。この場合、サーバー、ネットワーク、接続を確認してください。

Windows Media® Player 11

再生したい音楽ファイルが入っているネットワークサーバーを設定します。
ここでは、Windows Media® Player 11を例として説明します。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows Media® Player 11を開く**

2 **「ライブラリ」メニューから「メディアの共有」を選ぶ**
ダイアログが開きます。

3 **「メディアを共有する」チェックボックスにチェックを入れ、「OK」をクリックする**
対応機器がダイアログボックスに表示されます。

4 **本機を選んで、「許可」をクリックする**
本機のアイコンがチェックの付いたものになります。

5 **「OK」をクリックして、ダイアログボックスを閉じる**
これで音楽ファイルを再生する準備が整いました。

リモート再生する

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.107）。本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）することで、テレビに操作画面を表示できます。

リモート再生とは、ホームネットワーク内のDLNA 準拠のコントローラー機器やPC を操作することによりそれぞれの機器に保存された音楽ファイルを本機で再生する機能です。

Windows Media Player 12の設定をする

ネットワークサーバーやPCに保存された音楽ファイルを本機で再生するためにWindows Media Player 12を設定します。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows Media Player12を開く**

2 **「ストリーム」メニューを開き、「メディア ストリーミングを有効にする」を選ぶ**
ダイアログが開きます。

ヒント

- メディアストリームがすでに有効になっている場合は、「ストリーム」メニューを開き「その他のストリーミング オプション」をクリックすると、ネットワーク内の再生機器一覧が表示されますので手順4へ進んでください。

3 **「メディア ストリーミングを有効にする」をクリックする**
ネットワーク内の再生機器一覧が表示されます。

4 **「メディア ストリーミング オプション」で本機を選び、「許可」になっていることを確認する**

5 **「OK」をクリックして、ダイアログを閉じる**
これでWindows Media Player 12を使って本機でリモート再生をする準備が整いました。

ヒント

- 「ストリーム」メニューを開き、「プレーヤーのリモート制御を許可」にチェックが入っていることも確認してください。

リモート再生する

1 **パソコンの電源を入れ、Windows Media Player12を開く**
あらかじめ、Windows Media Player 12の設定をしておく必要があります。

2 **リモコンのAMPボタンを押して、NETボタンを押す**
NET表示が点灯します。点滅する場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。

3 **▲/▼/◄/►ボタンを押して「dlna」を選び、ENTERボタンを押す**
サーバーの一覧が表示されます。

ご注意

- 他のネットワークサーバー内の音楽ファイルを本機で再生している間は、リモート再生できません。再生を停止しておいてください。

4 **Windows Media Player 12で再生したい音楽ファイルを選び、右クリックする**
右クリックメニューが表示されます。

ヒント

- 別のネットワークサーバー内の音楽ファイルをリモート再生するには、「その他のライブラリ」からネットワークサーバーを開き、再生したい音楽ファイルを選びます。

5 **「リモート再生」から本機を選ぶ**
Windows Media Player 12の「リモート再生」ウィンドウが開き、本機で再生が開始されます。
リモート再生中の操作は、お使いのWindows 7の「リモート再生」ウィンドウで行います。本機から再生操作（再生や一時停止、早送り、早戻し、スキップアップ、スキップダウン、リピート、ランダムなど）はできません。

基本機能を使う

自動スピーカー設定を使う

付属の測定用マイクを使って、自動的にスピーカーの数、音量レベルの調整、各スピーカーの最適なクロスオーバー周波数、および視聴位置からの距離を測定します。
また、部屋の中の様々な環境により生じる音のひずみを補正しますので、クリアでバランスのよい音になります。
Audyssey MultEQ® XT32機能を使用することで、
Audyssey Dynamic EQ®および
Audyssey Dynamic Volume®機能を利用できるようになります。Audyssey Dynamic EQの働きにより、どの音量でも適切な音のバランスを保つことができます
(➔ **P.61**)。
この機能を使用する前に、使用するすべてのスピーカーを接続してください。
自動スピーカー設定には2種類の測定方法があります：
「**Audyssey簡単測定**」、「**Audyssey MultEQ XT32通常測定**」。

- 「**Audyssey簡単測定**」は1ヶ所の測定位置から視聴環境を構築します。
- 「**Audyssey MultEQ XT32通常測定**」は最大8ヶ所の測定位置から視聴環境を構築します。

測定箇所が多いほど、よりよい視聴環境を構築できます。最適な視聴環境を構築するためには、8ヶ所での測定をお勧めします。
設定に必要な時間は1ヶ所で約2分、8ケ所で約20分かかります。
スピーカーの数によって時間は変わります。

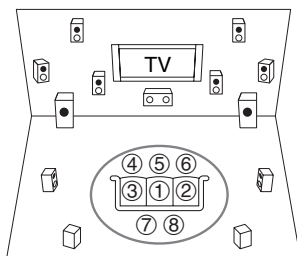
測定手順

ホームシアターで、すべての視聴者が楽しめる視聴環境を構築するために、視聴エリア内で最大8ヶ所の測定を行います。視聴者が座った状態の耳の高さに、測定用マイクを設置し、三脚台を使用して、視聴時の耳の高さに近い位置に、マイクの先端が天井を向くように固定してください。
測定中に、マイクを直接手で握っていると、正確に測定できません。

■最初に測定する位置

視聴エリアの中心、または1人で視聴するときに座る位置です。Audyssey MultEQ XT32では、この位置の測定値に基づいて、スピーカーの距離、音量、極性、サブウーファーの最適なクロスオーバー値を計算します。

■2〜8番目に測定する位置

１回目の中心位置以外の視聴位置を最高7ヶ所まで測定します。

◯：視聴エリア　　①〜⑧：マイク測定位置

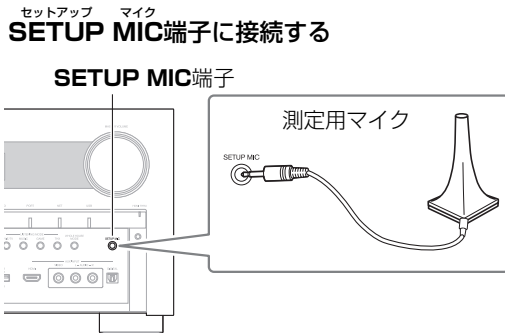
ご注意

- 測定中は、部屋をできるだけ静かにしてください。周囲の雑音や無線周波妨害（RFI）があると、部屋の測定が中断される場合があります。窓を閉めて、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯、家電機器、調光器、その他の機器を停止してください。携帯電話は（使用中でなくても）電源を切るか、すべてのオーディオ機器から離れた場所に置いてください。
- 自動スピーカー設定が実行されると、各スピーカーから再生されるテスト音をマイクが拾います。
- ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。

1 本機の電源と、接続しているテレビの電源を入れる

テレビの入力を、本機に接続した入力へ切り換えてください。

2 付属の測定用マイク（マイク）を、測定位置①に設置してから、マイクのプラグを、本機のSETUP MIC端子に接続する

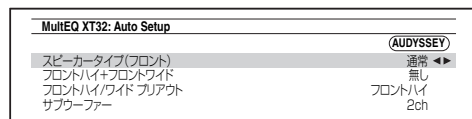
SETUP MIC端子

メニューが表示されます。

ご注意

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体の表示部を見ながら設定してください。

3 設定が完了したら、ENTERボタンを押す

MultEQ XT32: Auto Setup
AUDYSSEY

スピーカータイプ(フロント)	通常 ◀▶
フロントハイ+フロントワイド	無し
フロントハイ/ワイド プリアウト	フロントハイ
サブウーファー	2ch

スピーカーの構成に応じて「スピーカー設定」を行ってください：

- スピーカータイプ(フロント)（➔ **P.54**）
- フロントハイ＋フロントワイド（➔ **P.54**）
- サブウーファー（➔ **P.54**）

接続されたスピーカーに応じて「**フロントハイ/ワイド プリアウト**」を設定してください。
サブウーファーを接続している場合は「**サブウーファー**」で「**1ch**」または「**2ch**」を選んでください（➔ **P.54**）。接続していない場合は、「**無し**」を選んで手順5へ進んでください。

4 **サブウーファーの音量レベルを75dBに調整し、ENTERボタンを押す**

サブウーファーからテスト音が出ます。サブウーファーの音量を調整してください。
「**サブウーファー**」を「1ch」に設定している場合、左側（**SW 1**/**SUBWOOFER 1**）のみ測定されます。
2台のサブウーファーを接続し、「**サブウーファー**」を「1ch」に設定している場合、右側（**SW 2**/**SUBWOOFER 2**）は測定されず、音声も出力されません。
サブウーファーを1台のみ接続、または接続せずに「**サブウーファー**」を「2ch」に設定している場合、エラーになります。

ご注意

- お使いのサブウーファーに音量調整がない場合は、画面に表示される音量レベルは無視して、**ENTER**ボタンを押して次の手順に進んでください。
- サブウーファーの音量調整を最大まで上げても、画面に表示される音量レベルが75dBよりも低い場合は、**ENTER**ボタンを押して次の手順に進んでください。
- サブウーファーを2台使用する場合、この手順をもう一度くり返してください。

5 **▲/▼ボタンを押して「Audyssey簡単測定」または「Audyssey MultEQ XT32通常測定」を選ぶ**

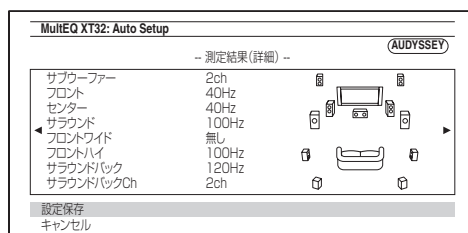
6 **ENTERボタンを押す**

自動スピーカー設定が始まります。
接続したスピーカーからテスト音を出しながら、マイクで測定します。
完了するまで数分かかります。
自動スピーカー設定中は、話したり、スピーカーとマイクの間に立ったりしないでください。
測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。
「**Audyssey簡単測定**」を選んでいる場合、手順9に進んでください。

7 **マイクを次の測定位置に設置し、ENTERボタンを押す**

測定が再開されます。完了するまで数分かかります。

8 **画面にしたがって、手順7をくり返す**

9 **▲/▼ボタンを押して項目を選び、ENTERボタンを押す**

以下の選択項目があります。

- **設定保存**：
  計算結果を保存して終了します。
- **キャンセル**：
  結果をキャンセルして終了します。

ヒント

- 詳細、距離、音量レベルの測定結果は、◄/►ボタンで表示切り換えできます。

10 **▲/▼ボタンを押して項目を選び、◄/►ボタンを押して設定を変更する**

自動スピーカー設定の測定結果を保存すると、「Audyssey」（➔ P.60）、「Dynamic EQ」（➔ P.61）、「Dynamic Volume」（➔ P.61）設定がメニューに表示されます。

ご注意

- 測定方法で「**Audyssey簡単測定**」を選んだ場合、「Audyssey」は選択できません。
- これらの設定は、すべての入力セレクタに適用されます。

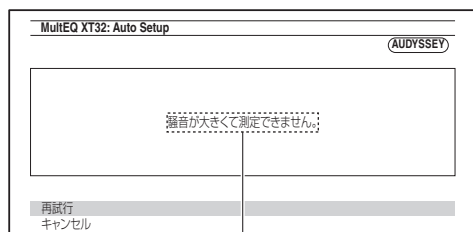
11 **ENTERボタンを押す**

12 **マイクを取り外す**

ご注意

- 測定中はマイクを抜かないでください。測定が中止になります。
- 測定中は、スピーカーを接続したり、外したりしないでください。
- ミューティング機能が設定されていると、解除されます。
- 自動スピーカー設定を行ったあとに、スピーカーの配置を変えたり、部屋のレイアウトを変更した場合は、部屋内の音域特性が変化しています。自動スピーカー設定をやり直してください。
- スピーカーを増設した場合は、再度自動スピーカー設定を行ってください。

エラーメッセージ

自動スピーカー設定中、以下のいずれかのエラーメッセージが表示される場合があります。

エラーメッセージ

以下の選択項目があります。

- **再試行**：
  再度測定します。
  （測定していたポイントから再開します）
- **キャンセル**：
  結果をキャンセルして終了します。

- **騒音が大きくて測定できません**
  測定環境の雑音が大きすぎて、測定できません。雑音の原因を取り除いてください。
- **1周目とスピーカーの数が違います**
  検出されたスピーカーの数が、最初の測定時と異なります。スピーカーの接続を確認してください。
- **保存に失敗しました**
  測定結果の保存に失敗しました。
  2、3度試してもこのエラーメッセージが出る場合は、本機が故障している可能性があります。
  お買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。
- **スピーカーを検出できません**
  このメッセージは、スピーカーが検出されないときに表示されます。「**無し**」は、スピーカーが検出されなかったことを表しています。

ヒント

- 正しいスピーカー構成については、「スピーカーの配置」をご覧ください（➔ P.17）。

スピーカーの設定を手動で変更する

自動スピーカー設定で設定した項目を、手動で変更できます。
以下の項目もご覧ください。

- 「スピーカー詳細設定」（➔ P.54）
- 「スピーカー距離」（➔ P.55）
- 「スピーカー音量レベル」（➔ P.55）
- 「イコライザ設定」（➔ P.56）

ご注意

THXのリスニングモードで聴くときは

THX認定スピーカーシステムを使用するときは、スピーカー設定を手動で設定し直すことを、THXは推奨しています。

- 自動スピーカー設定を行った場合は、手動でクロスオーバー周波数設定を「80Hz(THX)」に設定してください。
- 低域周波数の持つ無指向性、あるいは各部屋の持つ固有の特性などにより、サブウーファーのスピーカー距離設定や、スピーカー音量設定が最適でない場合があります。手動で設定し直してください。
- 各部屋固有の特性などにより、スピーカー距離設定やスピーカー音量設定が、最適でない場合があります。手動で設定し直してください。

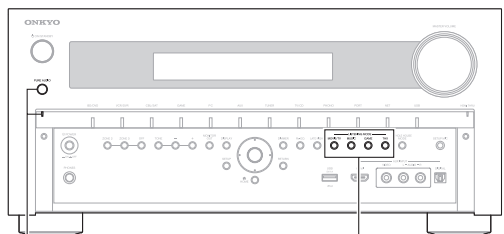
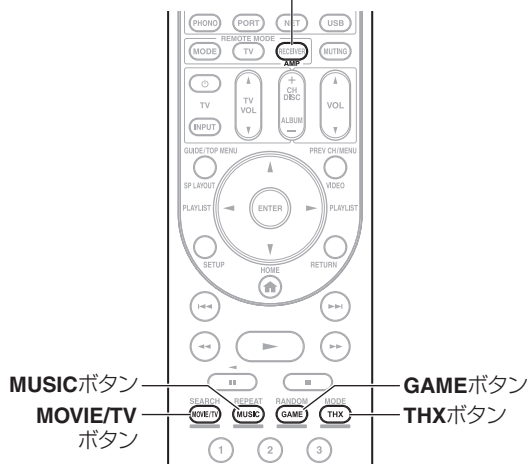
アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合

サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、自動スピーカー設定で認識されない場合があります。「**測定結果（詳細）**」画面の「**サブウーファー**」が「**無し**」と表示される場合は、サブウーファーの音量を半分くらいまで上げ、周波数を最大にした状態でご使用ください。音量を大きく設定し過ぎて音が歪む場合は、検出に関する問題が発生する可能性があります。適切な音量に設定してください。

カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「Off（オフ）」あるいは「DIRECT（ダイレクト）」の状態にしてご使用ください。カットオフ周波数を「Off」にできない場合は、周波数を最大にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

リスニングモードを選ぶ

リスニングモードの詳細については、「リスニングモードについて」をご覧ください（➔ P.39）。

■ リスニングモードのボタン

MOVIE/TVボタン

映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

MUSICボタン

音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

GAMEボタン

ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

THXボタン

THX関連のリスニングモードを選びます。

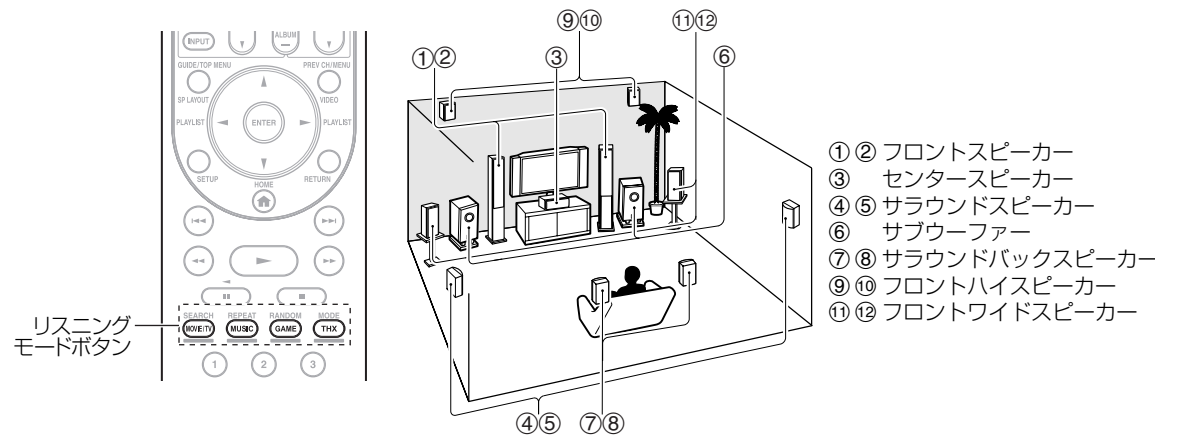
PURE AUDIOボタン、インジケーター

リスニングモードをPure Audioにします。
このモードでは、表示部とビデオ回路の電源がオフになるため、HDMI入力端子から入力された映像信号のみをHDMI出力端子から出力できます。このモードを選択すると、**PURE AUDIO**インジケーターが点灯します。
もう1度押すと、1つ前に選んでいたリスニングモードに戻ります。

- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合は、Dolby DigitalやDTSリスニングモードは選べません。
- 選択できるリスニングモードは、入力信号のフォーマットによって決まります。入力信号のフォーマットを確認する方法については、「表示を確認する」をご覧ください（➔ P.46）。
- ヘッドホン接続時は、Pure Audio、Mono、DirectまたはStereoの各リスニングモードが選択できます。

リスニングモードについて

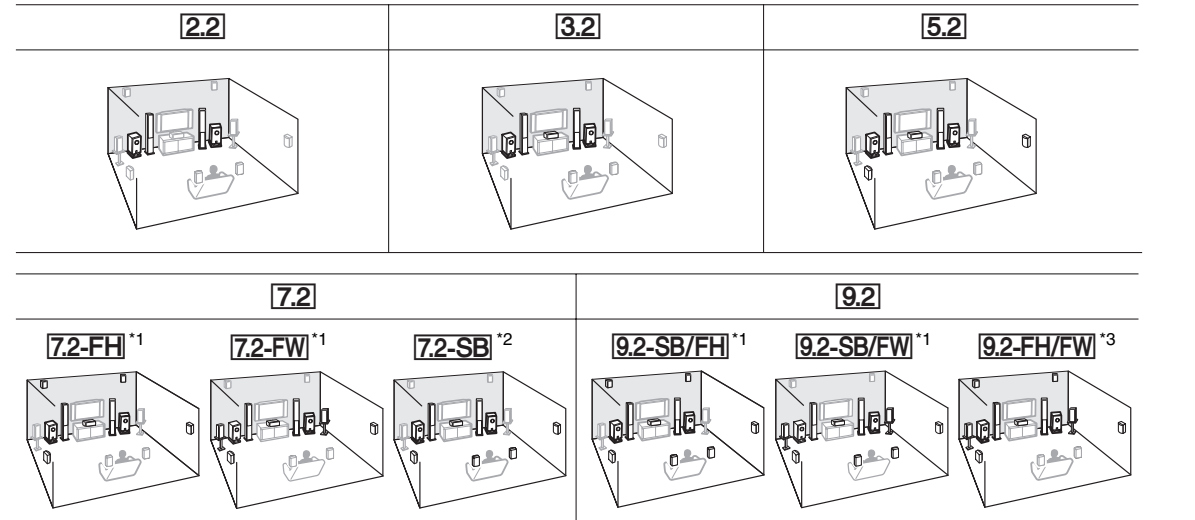
さまざまなリスニングモードを使うと、高度な再現性とすばらしいサラウンド効果で、あなたの部屋が劇場やコンサートホールに生まれ変わります。

■ このセクションのみかた

入力ソース

リスニングモードは、以下の音声フォーマットに対応しています。

MONO	モノラル音声です。AACフォーマットなどにおける多重音声（Multiplex（マルチプレックス））も含みます。
STEREO	ステレオ音声です。2つの独立した音声信号チャンネルが、2つのスピーカーから再生されます。
5.1ch	5.1チャンネルのサラウンドサウンドです。このサラウンドシステムでは、5つのメインサウンドチャンネルと、6番目のサブウーファーチャンネル（0.1チャンネルと呼ばれます）を使います。
7.1ch	7.1チャンネルのサラウンドサウンドです。5.1チャンネルサウンドを音響的にさらに改良したもので、2つのスピーカーを追加することによって、サラウンド感と音場の正確性を向上しています。
DTS-ES	DTS-ESサラウンドサウンドです。このサラウンドシステムでは、既存のDTS 5.1エンコード素材から、ディスクリート方式、もしくはマトリックス方式でエンコードされた、6番目のチャンネルを生成できます。
DDEX	Dolby（ドルビー） Digital（デジタル） EXサラウンドサウンドです。5.1チャンネルのソースで、センターバックサラウンドチャンネルが実現します。

スピーカーの配置

以下の図は、各チャンネル構成で、どのスピーカーが有効になるかを示したものです。スピーカーの設定については「スピーカー詳細設定」をご覧ください（➔ P.54）。

*1 これらのレイアウトは、「**フロントハイ + フロントワイド**」設定が「**無し**」の場合のみ選択が可能です（➔ P.54）。
*2 このレイアウトを選択するには「**フロントハイ + フロントワイド**」設定を「**無し**」にし、「**サラウンドバック**」設定を有効にします（➔ P.54）。
*3 このレイアウトを選択するには「**フロントハイ + フロントワイド**」設定を「**有り**」にします（➔ P.54）。

■ オンキヨー独自のDSPリスニングモード

リスニングモード	説明	入力ソース	スピーカーの配置
Orchestra（オーケストラ） Orchestra	クラシックやオペラに適したモードです。 音声イメージが全体に広がるような、サラウンド感を強調する効果があります。大ホールで聴いているような自然な響きが楽しめます。	MONO STEREO 5.1ch 7.1ch DTS-ES DEX	5.2 7.2 9.2
Unplugged（アンプラグド） Unplugged	アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージを作ります。		
Studio-Mix（スタジオ ミックス） Studio–Mix	ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した、臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。		
TV Logic（テレビ ロジック） TV Logic	放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。		
Game-RPG（ゲーム） Game–RPG	RPG（ロールプレイングゲーム）を楽しんでいるときに適したモードです。		
Game-Action（アクション） Game–Action	アクションゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		
Game-Rock（ロック） Game–Rock	ロックゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		
Game-Sports（スポーツ） Game–Sports	スポーツゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		
All Ch Stereo（オール チャンネル ステレオ） All Ch Stereo	BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。		3.2 5.2 7.2 9.2
Full Mono（フル モノ） Full Mono	すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聴くことができます。		
T-D (Theater-Dimensional)（シアター ディメンショナル） T–D	2つまたは3つのスピーカーで、あたかもマルチチャンネルサラウンド再生しているような、バーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を、制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。		2.2 3.2 5.2 7.2 9.2

■ リスニングモード

リスニングモード	説明	入力ソース	スピーカーの配置
Pure Audio*1（ピュア オーディオ） Pure Audio	このモードでは、表示部とビデオ回路の電源がオフになります。ノイズ源が最小限に抑えられ、臨場感あふれる最高のサウンド再生が実現します。（映像回路がオフになっているため、HDMI 入力端子から入力された映像信号のみをHDMI 出力端子から出力できます。）	MONO STEREO 5.1ch 7.1ch DTS-ES DEX	2.2 3.2 5.2 7.2*2 9.2
Direct（ダイレクト） Direct	入力ソースの音声が、サラウンドサウンド処理されずに出力されます。スピーカー設定（スピーカーの有無、距離）、A/Vシンク（映像遅延補正）は有効になりますが、その他ホームメニューで設定した処理の多くが無効になります。詳しくは「設定をする」をご覧ください（➔ P.49）。		
Stereo（ステレオ） Stereo	左右フロントスピーカーとサブウーファーから音声が出力されます。		2.2 3.2 5.2 7.2 9.2
Mono（モノ） Mono	モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを、左右のチャンネルで独立して再生するモードです。DVDなどに記録された、音声多重のサウンドトラックに適しています。		
Multichannel（マルチチャンネル） Multich	マルチチャンネルPCMソース再生時に使用できるモードです。	5.1ch 7.1ch	3.2 5.2 7.2 9.2

リスニングモード	説明	入力ソース	スピーカーの配置
Dolby Pro Logic IIx[3] Dolby Pro Logic II PLⅡ Movie PLⅡ Music PLⅡ Game PLⅡx Movie PLⅡx Music PLⅡx Game	Dolby Pro Logic IIxでは、すべての2チャンネルソースを7.1チャンネルで再生します。明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。 サラウンドバックスピーカーを接続していない5.1チャンネルのときは、Dolby Pro Logic IIxの代わりに、Dolby Pro Logic IIになります。 • Dolby PLIIx Movie Dolby Surround（Pro Logic）の映画（テレビ番組、DVD、VHSなど）を鑑賞するときに使います。 • Dolby PLIIx Music Dolby Surround（Pro Logic）の音楽ソース（CD、ラジオ、カセットテープ、テレビ、VHS、DVDなど）を聴くときに使います。 • Dolby PLIIx Game テレビゲーム、特にDolby Pro Logic IIのロゴのついたゲームディスクを楽しむときに使います。	STEREO	3.2 5.2 7.2 9.2
	• Dolby PLIIx Movie • Dolby PLIIx Music Dolby Pro Logic IIxで、5.1チャンネルのソースを7.1チャンネルで再生します。	5.1ch	7.2-SB 9.2-SB/FH 9.2-SB/FW
Dolby Pro Logic IIz Height PLⅡz Height	ハイチャンネルスピーカーを接続しているとき、より効果的に既存のプログラムを使えるように設計されています。Dolby Pro Logic IIz Heightは、映画や音楽のさまざまなソースをミキシングできますが、特にゲームのコンテンツをミキシングするのに適したモードです。	STEREO 5.1ch 7.1ch	7.2-FH 9.2-SB/FH
Dolby EX Dolby EX Dolby D EX	5.1チャンネルで収録された音楽や映画を、サラウンドバックチャンネルも利用した6.1/7.1チャンネルで再生できます。特に、マトリックスエンコードされた、サラウンドバックチャンネルが使われている、Dolby EXのサウンドトラックに適したモードです。5.1チャンネルにサラウンドバックチャンネルを追加することで，より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような、移動音効果をリアルに体感できます。	5.1ch DEX	7.2-SB 9.2-SB/FH 9.2-SB/FW
Dolby Digital Dolby D	入力ソースの音声が、サラウンドサウンド処理されずに出力されます。スピーカー設定（スピーカーの有無、クロスオーバー周波数、距離）、A/Vシンク（映像遅延補正）及びホームメニューで設定した処理の多くが有効になります。詳しくは「設定をする」をご覧ください（➔ P.49）。	5.1ch	3.2 5.2 7.2 9.2
Dolby Digital Plus[4] Dolby D +		5.1ch	3.2 5.2 7.2 9.2
		7.1ch	3.2 5.2 7.2[2] 9.2
Dolby TrueHD Dolby TrueHD		5.1ch	3.2 5.2 7.2 9.2
		7.1ch	3.2 5.2 7.2[2] 9.2
DTS DTS		5.1ch	3.2 5.2 7.2 9.2
DTS-HD High Resolution Audio DTS−HD HR		5.1ch	3.2 5.2 7.2 9.2
		7.1ch	3.2 5.2 7.2[2] 9.2
DTS-HD Master Audio DTS−HD MSTR		5.1ch	3.2 5.2 7.2 9.2
		7.1ch	3.2 5.2 7.2[2] 9.2
DTS Express DTS Express		5.1ch	3.2 5.2 7.2 9.2
DSD[5] DSD			

リスニングモード	説明	入力ソース	スピーカーの配置
AAC AAC	MPEG-2(エムペグ) AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。 地上デジタル、BS/CSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。	5.1ch	3.2 5.2 7.2 9.2
DTS 96/24*6 DTS 96/24	DTS 96/24ソース用のモードです。96kHzのサンプリングレートと、24ビットの解像度を使った高解像度DTSとして、きめ細やかな再現性を実現します。DTS 96/24ロゴのついたCD、DVD、LDなどにご使用ください。		
DTS-ES Discrete(ディスクリート)*7 ES Discrete	サラウンドバックチャンネルを利用して、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの再生を実現する、DTS-ESディスクリートサウンドトラック用のモードです。完全に独立した7つのチャンネルで、空間イメージの向上と、360度の音像定位が実現し、サラウンドチャンネル間を飛び交うような、サウンドに最適なモードです。DTS-ESロゴのついたDVD、特にDTS-ESディスクリートサウンドトラックを使った収録ソフトにご使用ください。	DTS-ES	7.2-SB 9.2-SB/FH 9.2-SB/FW
DTS-ES Matrix(マトリックス)*7 ES Matrix	マトリックスエンコードされたバックチャンネルを使って、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの再生を実現する、DTS-ESマトリックスサウンドトラック用のモードです。DTS-ESロゴのついたCD、DVD、LDなど、特にDTS-ESマトリックスサウンドトラックを使った収録ソフトにご使用ください。		
DTS Neo:X(ネオ)*8	さまざまな入力ソースを最大 9.1 チャンネルまで拡張することができます。 このモードは、フロントハイ / フロントワイドスピーカーを追加することにより半球状の音場空間を作り出し、自然で臨場感と広がりのあるサラウンド音声をお楽しみいただけます。		
Neo:X Cinema Neo:X Music Neo:X Game	• DTS Neo:X Cinema(シネマ) 映画を楽しんでいるときに適したモードです。 • DTS Neo:X Music(ミュージック) 音楽を楽しんでいるときに適したモードです。 • DTS Neo:X Game(ゲーム) ゲームを楽しんでいるときに適したモードです。	STEREO 5.1ch 7.1ch DTS-ES	3.2 5.2 7.2 9.2
Audyssey(オーディシー) DSX*9 Audyssey DSX	• Audyssey DSX Audyssey DSX™は、5.1chシステムに新しいチャンネルを加えることにより、サラウンドの効果を高めるシステムです。臨場感あるサラウンド再生のためには、従来の5.1chシステムにフロントワイドチャンネルを追加することが最も効果的です。次に効果的であるのが、フロントハイチャンネルの追加です。また、DSXはこれらの新しいチャンネルの追加に加え、Surround(サラウンド) Envelopment(エンベロップメント) Processing(プロセッシング)技術によって、サラウンドチャンネルとフロントチャンネルのサラウンド感のつながりを向上させています。	5.1ch 7.1ch DTS-ES	7.2-FW 7.2-FH 9.2
PLⅡ Movie DSX PLⅡ Music DSX PLⅡ Game DSX	• Dolby Pro Logic II/IIx*3 Movie + Audyssey DSX • Dolby Pro Logic II/IIx*3 Music + Audyssey DSX • Dolby Pro Logic II/IIx*3 Game + Audyssey DSX Dolby(ドルビー) Pro(プロ) Logic(ロジック) II/IIx*3とAudyssey DSXを組み合わせたモードが使えます。	STEREO	7.2-FW 7.2-FH 9.2
PLⅡx Movie DSX PLⅡx Music DSX	• Dolby Pro Logic IIx Movie + Audyssey DSX • Dolby Pro Logic IIx Music + Audyssey DSX Dolby Pro Logic IIxとAudyssey DSXを組み合わせたモードが使えます。	5.1ch	9.2-SB/FH 9.2-SB/FW
PLⅡx Game DSX Dolby EX DSX	• Dolby EX + Audyssey DSX Dolby EXとAudyssey DSXを組み合わせたモードが使えます。	5.1ch 7.1ch DTS-ES	7.2 9.2

リスニングモード	説明	入力ソース	スピーカーの配置
THX	ルーカスフィルム（Lucasfilm）社が提唱する、劇場用音響の品質規格です。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ/残響音/音響機材/スピーカーの設置位置など、厳格な品質基準が設けられています。全世界で5,000を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。 THXモードは、ホームシアター環境での再生のために、音質上・空間上のサウンドトラック特性を丁寧に最適化します。マトリックスエンコードされた、2チャンネルソースやマルチチャネルソースで使用することができます。サラウンドバックの音声は、ソースや選択するリスニングモードによって異なります。		
THX Cinema THX Music THX Games	• THX Cinema このモードは、映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された、劇場用映画などのサウンドトラックを、ホームシアター環境で再生するためのモードです。このモードでは、THX Loudness Plusが劇場レベルに設定され、Re-EQ、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）、アダプティブ、デコリレーション（Adaptive Decorrelation）がアクティブになります。 • THX Music このモードは、主として映画よりも明らかに高レベルにマスタリングされている音楽を聴くために調整されています。このモードでは、THX Loudness Plusが音楽再生のために設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）のみがアクティブになります。 • THX Games このモードは、ゲームの音声を空間的に忠実に再生するためのモードで、多くの場合、映画と同じミキシングがされますが、小規模な環境のためのモードです。THX Loudness Plusがゲームの音声のレベルに応じて設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）がアクティブになります。	5.1ch 7.1ch DTS-ES	5.2 7.2 9.2
	• Dolby Pro Logic II/IIx*3 Movie + THX Cinema • Dolby Pro Logic II/IIx*3 Music + THX Music • Dolby Pro Logic II/IIx*3 Game + THX Games Dolby Pro Logic II/IIx*3とTHX Cinema/Music/Gamesを組み合わせたモードが使えます。 PLIIまたはPLIIx表示が点灯します。	STEREO	5.2 7.2 9.2
	• Dolby Pro Logic IIx Movie + THX Cinema • Dolby Pro Logic IIx Music + THX Music Dolby Pro Logic IIxとTHX Cinema/Musicを組み合わせたモードが使えます。 PLIIx表示が点灯します。	5.1ch DEX	7.2-SB 9.2-SB/FH 9.2-SB/FW
	• Dolby Pro Logic IIz Height + THX Cinema • Dolby Pro Logic IIz Height + THX Music • Dolby Pro Logic IIz Height + THX Games Dolby Pro Logic IIz HeightとTHX Cinema/Music/Gamesを組み合わせたモードが使えます。 PLIIz表示が点灯します。	STEREO 5.1ch 7.1ch DTS-ES DEX	7.2-FW 9.2-SB/FH 9.2-FH/FW
	• DTS Neo:X Cinema + THX Cinema • DTS Neo:X Music + THX Music • DTS Neo:X Game + THX Games DTS Neo:X Cinema/Music/GameとTHX Cinema/Music/Gamesを組み合わせたモードが使えます。 Neo:X表示が点灯します。		7.2 9.2

リスニングモード	説明	入力ソース	スピーカーの配置
THX U2 Cinema THX U2 Music THX U2 Games THX Surr EX	• THX Ultra2 Cinema 5.1チャンネルで収録された音楽や映画を、7.1チャンネルで再生できます。再生するサラウンド成分を分析し、雰囲気や方向感を最適化するよう、サラウンドバックに振り分けます。横と後方の広がりと定位感をさらに高めます。 • THX Ultra2 Music このモードは、5.1チャンネルで収録された音楽ソースを、7.1チャンネルで再生使用できるように設計されています。 • THX Ultra2 Games このモードは、5.1チャンネルで収録されたゲームソースを、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルで再生使用できるように設計されています。 • THX Surround EX ドルビーラボラトリーズ社とTHX社で共同開発された、ホームシアター用フォーマットです。ドルビーデジタルEXの技術で従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計7.1チャンネルとなります。	5.1ch	7.2-SB 9.2-SB/FH 9.2-SB/FW
	• Dolby Pro Logic II Game + THX Ultra2 Games Dolby Pro Logic II GameとTHX Ultra2 Gamesを組み合わせたモードが使えます。 表示部に**PLII**表示が点灯します。	STEREO	7.2-SB 9.2-SB/FH 9.2-SB/FW
	• Dolby Pro Logic IIz Height + THX Ultra2 Cinema • Dolby Pro Logic IIz Height + THX Ultra2 Music • Dolby Pro Logic IIz Height + THX Ultra2 Games Dolby Pro Logic IIz HeightとTHX Ultra2 Cinema/Music/Gamesを組み合わせたモードが使えます。	5.1ch 7.1ch	9.2-SB/FH

ご注意

*1 ゾーン 2 がオンのとき、Pure Audio は選択できません。そして、Pure Audio を選択中にゾーン 2 をオンにすると、自動的に Direct に変更されます。
*2 ソースに含まれる音声チャンネルに対応したスピーカーから音声が出ます。
*3 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby Pro Logic II になります。
*4 ブルーレイディスクの場合は、3.1 チャンネルまたは 5.1 チャンネルのスピーカー構成で Dolby Digital になります。
*5 本機は **HDMI IN** 端子からの DSD 信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定を PCM に設定したほうが、よい音声を得られることがあります。その場合は、プレーヤー側の設定を PCM 出力にしてください。
*6 本機の設定によっては DTS になります。(例:Audyssey Dynamic EQ® 機能がオンになっている)
*7 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTS になります。
*8 DTS Neo:X リスニングモードは、入力信号が 192 kHz の場合は選択できません。
*9 • 以下の条件をすべて満たす場合に選択できます。
- センタースピーカーが接続されている
- フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが接続されている

• 入力信号によっては選べないことがあります。

ダイアログノーマライゼーション機能について

ダイアログノーマライゼーション(Dialog Norm)は、ドルビーデジタルの機能のひとつで、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスまたはドルビー TrueHDのコンテンツ間における平均音量レベルを一定に保つために用いられ、ユーザーは、ソフトごとに音量を調節する必要がありません。ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスまたはドルビー TrueHDで収録されたソフトを再生すると、本機の表示部に「**Dialog Norm X dB**」(Xは数値)と表示される場合があります。

この表示は、各ソフトの音量レベルがTHXの基準レベルとどのような関係にあるのかを示しています。収録されたソフトを劇場レベルで再生したい場合は、音量の調整を行います。

例えば、表示部に「**Dialog Norm + 4 dB**」と表示された場合、再生中のソフトがTHX基準レベルのプラス4dBで記録されていることを意味します。THX基準レベルで再生したい場合は、音量を4dB下げてください。ただし、再生音量が事前に設定された劇場とは違い、本機ではお好みの音量設定に調節することができます。

ホームメニューを使う

ホームメニューを使うと、よく利用するメニューにすばやくアクセスできます。このメニューを利用して、設定を変更したり、現在の情報を確認したりできます。

本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体の表示部を見ながら設定してください。

1 AMPボタンを押して、HOMEボタンを押す

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

ヒント

- 本体の**HOME**ボタンでも操作できます。

2 ▲/▼ボタンを押して目的の項目を選び、ENTERボタンを押す

■入力[*1]

▸入力名、入力設定、ARC機能設定の情報を確認しながら、入力ソースを選ぶことができます。
ENTERボタンを押して、現在の入力ソースを表示したあと、▲/▼ボタンを押して、目的の入力ソースを選びます。**ENTER**ボタンをもう一度押すと、選んだ入力ソースに切り換わります。

■オーディオ

▸変更できる項目は、「**サウンドプログラム**」、「**低域（フロント）**」、「**高域（フロント）**」、「**低域（フロントワイド）**」、「**高域（フロントワイド）**」、「**低域（フロントハイ）**」、「**高域（フロントハイ）**」、「**低域（センター）**」、「**高域（センター）**」、「**低域（サラウンド）**」、「**高域（サラウンド）**」、「**低域（サラウンドバック）**」、「**高域（サラウンドバック）**」、「**低域（サブウーファー）**」、「**サブウーファー 1**」、「**サブウーファー 2**」、「**センター**」、「Dolby Volume」、「Audyssey」、「Dynamic EQ[*2*3]」、「Dynamic Volume[*2*3]」、「**レイトナイト**」、「Music Optimizer」、「Re-EQ」、「Re-EQ(THX)」、「Screen Centered Dialog」です。

以下の項目もご覧ください。

- 「Audyssey」（➔ P.60）
- 「音声設定を使う」（➔ P.72）

■ビデオ

▸変更できる項目は、「**ワイドモード**」と「**ピクチャーモード**[*4]」です。

以下の項目もご覧ください。

- 「画質調整」（➔ P.63）

■情報表示[*5]

▸情報を表示できる項目は、「**オーディオ**」、「**ビデオ**」です。

■リスニングモード

▸MOVIE/TV、MUSIC、GAME、THXのカテゴリーに分類されたリスニングモードを選ぶことができます。
▲/▼ボタンを使ってカテゴリーを選び、◄/►ボタンでリスニングモードを選びます。
ENTERボタンを押すと、選んだリスニングモードに切り換わります。

ご注意

*1 **PORT** 入力切換ボタンの場合は、iPod/iPhone ドックの名称が表示されます。
*2 THX リスニングモード選択時に、「Loudness Plus」および「**THX 設定優先**」がそれぞれ「**オン**」、「**有り**」に設定されているとき、「Dynamic EQ」と「Dynamic Volume」は選べません。
*3 「Dynamic EQ」が「**オン**」に設定されているか、または「Dynamic Volume」が「**オフ**」以外に設定されているとき、「Dolby Volume」は「**オフ**」に切り換わります（➔ P.58、61）。
*4 「**ピクチャーモード**」で「**カスタム設定**」を選んでいる場合のみ（➔ P.63）、**ENTER** ボタンを押すと、「**明るさ**」、「**コントラスト**」、「**色合い**」、「**彩度**」といった項目を調整できます。**RETURN** ボタンを押すと、「**ピクチャーモード**」に戻ります。
*5 入力ソースとリスニングモードによっては、表示された出力チャンネルの一部しか音声が出ないことがあります。

スリープタイマーを使う

指定した時間が経過すると、自動的にスタンバイ状態へ移行します。

1 AMPボタンを押して、SLEEPボタンをくり返し押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。
スリープタイマー設定中はSLEEP表示が点灯します。残り時間を約5秒間表示したあと、元の表示に戻ります。

ヒント

- スリープタイマーを解除するには、SLEEP表示が消えるまで、くり返し**SLEEP**ボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから、再度電源を入れます。
- **SLEEP**ボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。残り時間が10分以下のときにもう一度**SLEEP**ボタンを押した場合、スリープタイマーは解除されます。

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。

1 AMPボタンを押して、DIMMERボタンをくり返し押して明るさを選ぶ：

- 通常+**MASTER VOLUME**つまみと入力切換ボタンが点灯
- 通常+**MASTER VOLUME**つまみと入力切換ボタンが消灯
- やや暗い+**MASTER VOLUME**つまみと入力切換ボタンが消灯
- 暗い+**MASTER VOLUME**つまみと入力切換ボタンが消灯

ヒント

- 本体の**DIMMER**ボタンでも操作できます。

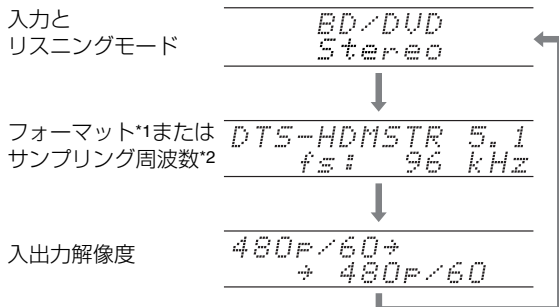
表示を確認する

入力信号の様々な情報を表示することができます。
（**UNIVERSAL PORT**端子に接続した機器は除く）

1 AMPボタンを押して、DISPLAYボタンをくり返し押す

ヒント

- 本体の**DISPLAY**ボタンでも操作できます。

以下の情報を表示できます。

*1 入力信号が PCM の場合は、サンプリング周波数が表示されます。入力信号が PCM 以外のデジタルの場合は、フォーマットが表示されます。
情報は約 3 秒間表示されたあと、元の表示に戻ります。
*2 入力信号が AAC の音声多重放送（2ヶ国語放送など）の場合は、表示されません。音声の数が表示されます。

入力表示を切り換える

オンキヨー製のRI端子付きRIドックを、本機の**TV/CD IN**端子や**GAME IN**端子または**VCR/DVR IN**端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。
この設定は、前面パネル以外で行うことはできません。

1 TV/CD、GAMEまたはVCR/DVRボタンを押して、表示部に「TV/CD」「GAME」または「VCR/DVR」を表示させる

2 TV/CD、GAMEまたはVCR/DVRボタンを約3秒間押し続けて、表示を切り換える

この手順をくり返すと、以下のように表示が切り換わります。

■TV/CDボタン

「TV/CD」→「DOCK」→「TAPE」→「TV/CD」

■GAMEボタン

「GAME」→「DOCK」→「GAME」

■VCR/DVRボタン

「VCR/DVR」→「DOCK」→「VCR/DVR」

ご注意

- **TV/CD**、**GAME**、**VCR/DVR**の各入力切換ボタンで「**DOCK**」を選べますが、同時には選べません。
- 本機付属のリモコンで操作する前に、まずRI専用リモコンコードを登録してください（➔ **P.83**）。

ホールハウスモードを使う

ホールハウスモードは、ホームパーティーでBGMを流したいときに便利な機能です。メインルームだけでなく別室（マルチゾーン:ゾーン2/3）にも同じステレオ音声を出力します。
この機能では、メインルームと同じ入力ソースが別室に設定されます。
以下の項目もご覧ください。

- 「スピーカーセッティング」（➔ **P.53**）
- 「別室（ゾーン2/ゾーン3）で音楽を鑑賞する」（➔ **P.75**）

1 前面パネルのWHOLE HOUSE MODEボタンを押す

ホールハウスモードをオフにするには、メインルームの入力ソースを変更するか、リスニングモードを選択します（➔ **P.38**）。

ご注意

- アナログ音声にのみ対応しています。
- ホールハウスモードをオフにすると、ゾーン2/3もオフになります。
- ホールハウスモードのオン/オフ切り換え時、ゾーン2の音が途切れることがあります。
- ホールハウスモードを使用中に、マルチゾーンの設定を変更した場合は、その変更が優先されます。
- **MASTER VOLUME**つまみを操作しても、マルチゾーンの音量を調整することはできません。各マルチゾーンの音量調整手順は、「音量を調整する」（➔ **P.76**）をご覧ください。
- 「**テレビオーディオ出力**」が「**オン**」に設定されていると、使用できません。

一時的に音量を小さくする

出力を一時的に小さくできます。

1 AMPボタンを押して、MUTINGボタンを押す
MUTING 表示が点滅します。

ヒント

- 解除するには、**MUTING**ボタンをもう一度押すか音量調整をします。
- 本機がスタンバイ状態になった場合にも、解除されます。

ヘッドホンで聴く

1 標準プラグ（6.3 mm）のステレオヘッドホンを、PHONES端子に接続する
ヘッドホンを**PHONES**端子に接続している間、🎧表示、および**FL**と**FR**表示が点灯します。

ご注意

- 接続するときは音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。（ゾーン2/3スピーカーはオフになりません。）
- Pure Audio、Stereo、MonoまたはDirect以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると、自動的にStereoリスニングモードになります。
- iPod/iPhoneを本機の**USB**端子に接続した場合、ヘッドホンからは音声が出力されません。

簡単マクロを使う

ACTIVITIESボタンを使用するとボタン１つで複数のリモコン操作を実行できます。お好みの操作を登録することもできます。詳しくは「標準マクロを使う」を参照ください（➔ P.90）。

1 ACTIVITIESボタン（MY MOVIE、MY TVまたはMY MUSIC）を押す
以下にお買い上げ時の動作を説明します。
登録している再生機器を変更したい場合は、後の「**ACTIVITIES**ボタンに登録されている再生機器を変更する」の項目を参照ください。

■ **MY MOVIE：**
テレビ、「**BD/DVD**」に登録した再生機器、本機の電源が入ります。入力が「BD/DVD」に切り換わり再生が開始されます*1。

*1 再生機器の起動時間によっては再生コマンドが効かないことがあります。この場合、リモコンの►ボタンを押してください。

■ **MY TV：**
テレビ、「**CBL/SAT**」に登録した再生機器、本機の電源が入ります。入力が「CBL/SAT」に切り換わります。

■ **MY MUSIC：**
「**TV/CD**」に登録した再生機器、本機の電源が入ります。入力が「TV/CD」に切り換わり再生が開始されます。

ご注意

- **ACTIVITIES**ボタンで起動した後、他の**ACTIVITIES**ボタンを使用するには、**ALL OFF**ボタンを押してから、他の**ACTIVITIES**ボタンを押してください。

すべての機器をオフにする

ACTIVITIESボタンに登録しているすべての機器の電源をオフにできます。

1 ALL OFFボタンを押す
前回押した**ACTIVITIES**ボタンに登録されている再生機器、本機、テレビがオフ(もしくはスタンバイ状態)になります。*1*2

*1 **MY MUSIC**の場合はテレビはオフ(もしくはスタンバイ状態)になりません（お買い上げ時の設定時）。
*2 電源がオフ(もしくはスタンバイ状態)にならないテレビもあります。

ACTIVITIESボタンに登録されている再生機器を変更する

簡単マクロモードの**ACTIVITIES**ボタンに登録されている再生機器を以下の手順で変更することができます。

1 操作したい再生機器が登録されているREMOTE MODEボタンを押しながら、変更したいACTIVITIESボタン（MY MOVIE、MY TVまたはMY MUSIC）を約３秒間押し続ける
ACTIVITIESボタンが2 回点滅し、変更が完了します。

例：
MY MOVIEボタンで**REMOTE MODE**の「VCR/DVR」に登録されている再生機器を操作したいときは、**REMOTE MODE**の**VCR/DVR**ボタンを押しながら、**MY MOVIE**ボタンを約３秒間押し続ける。

お買い上げ時の設定に戻す

ACTIVITIESボタンに登録している設定をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

1 HOMEボタンを押しながら、ALL OFFボタンが点灯するまでALL OFFボタンを（約3秒間）押し続ける

2 HOMEボタンとALL OFFボタンを放し、ALL OFFボタンをもう一度押す
ALL OFFボタンが2 回点滅します。

Re-EQを使う

高音域が強調されたサウンドトラックを、ホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。

1 **前面パネルのRe-EQボタンを押す**

ヒント

- リモコンの**HOME**ボタン、カーソルボタンでも操作できます。
- 詳細については「Re-EQ」をご覧ください（➔ P.74）。

レイトナイトを使う

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHD再生時のみに効果があります

劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聴くには、音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聴こえます。夜中などに、音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。

この機能は、音声信号が入力されているときに設定されます。また、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1 **前面パネルのLATE NIGHTボタンを押す**

ヒント

- リモコンの**HOME**ボタン、カーソルボタンでも操作できます。
- 詳細については「レイトナイト」をご覧ください（➔ P.73）。

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

録音機能を有する機器で録音・録画する方法について説明します。

再生しながら録音・録画する

音声入力は、レコーダー（カセット、CD、MDなど）に録音できます。映像入力は、レコーダー（ビデオ、DVDなど）に録画できます。

1 **入力切換ボタンを押して、録音・録画する機器（再生側）を選ぶ**

録音・録画中にソースを視聴できます。また、録音・録画中は、**MASTER VOLUME**つまみを操作しても録音・録画機器への出力には影響ありません。

ヒント

- 本機のリモコンでも操作できます。

2 **録音・録画する機器（録画側）の準備をする**

- 機器を録音・録画待機状態にします。
- 録音レベルは機器側で調整してください。
- 録音・録画の手順については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

3 **録音・録画を始める**

手順1で選んだ再生機器を再生します。
録音・録画中に再生側の入力を切り換えると、新しく選択された入力が録音・録画されます。

設定をする

本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体の表示部を見ながら設定してください。

この項目では、特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明していますが、本体の**SETUP**ボタン、カーソルボタン、エンターボタンでも設定できます。

セットアップメニューを使う

（メインメニュー）

MENU

- ① **1.** 入力/出力端子の割り当て
- ② **2.** スピーカー設定
- ③ **3.** 音の設定・調整
- ④ **4.** 入力ソースの設定
- ⑤ **5.** リスニングモードプリセット
- ⑥ **6.** その他
- ⑦ **7.** ハードウェア設定
- ⑧ **8.** リモコン設定
- ⑨ **9.** ロック設定

（サブメニュー）

① **入力/出力端子の割り当て**
（➔ P.50）

1. 入力/出力端子の割り当て

1. モニター映像出力
2. HDMI入力
3. コンポーネント映像入力
4. デジタル音声入力
5. アナログ音声入力

② **スピーカー設定**
（➔ P.53）

2. スピーカー設定

1. スピーカーセッティング
2. スピーカー詳細設定
3. スピーカー距離
4. スピーカー音量レベル
5. イコライザ設定
6. THXオーディオ設定

③ **音の設定・調整**
（➔ P.57）

3. 音の設定･調整

1. 多重音声/モノラル
2. Dolby
3. DTS
4. Audyssey DSX
5. Theater-Dimensional
6. LFEレベル
7. Direct
8. サウンドプログラム編集

④ **入力ソースの設定**
（➔ P.60）

4. 入力ソースの設定

1. Audyssey
2. インテリボリューム
3. A/Vシンク
4. セレクタ名変更
5. 画質調整
6. 音声入力

⑤ **リスニングモードプリセット**
（➔ P.66）

5. リスニングモードプリセット

1. BD/DVD
2. VCR/DVR
3. CBL/SAT
4. GAME
5. PC
6. AUX

⑥ **その他**
（➔ P.66）

6. その他

1. ボリューム設定
2. OSD設定
3. 12Vトリガー A設定
4. 12Vトリガー B設定
5. 12Vトリガー C設定

⑦ **ハードウェア設定**
（➔ P.67）

7. ハードウェア設定

1. リモコンID
2. マルチゾーン
3. HDMI
4. 自動スタンバイ
5. ネットワーク
6. ファームウェアアップデート

⑧ **リモコン設定**
（➔ P.82）

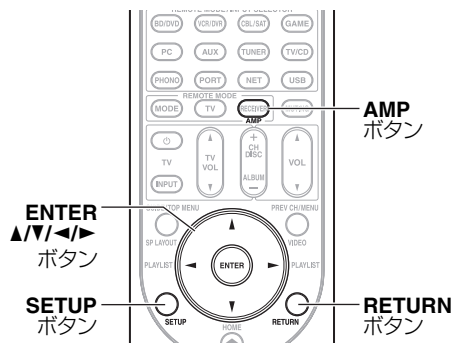
8. リモコン設定

1. リモコン登録
2. アクティビティ設定

⑨ **ロック設定**
（➔ P.71）

9. ロック設定

セットアップ

■ セットアップメニューの全般的な操作手順

接続したテレビ画面にセットアップメニューが表示されます。本機の各種設定を変更できる、便利なメニューです。設定項目は、メインメニューで9カテゴリーに分けられています。
画面に表示されたメニューを使って設定を行います。

1 **AMPボタンを押したあと、SETUPボタンを押す**

ヒント

- メインメニューが表示されないときは、テレビに適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2 **▲/▼ボタンを押してメインメニュー項目を選び、ENTERボタンを押す**

3 **▲/▼ボタンを押してサブメニュー項目を選び、ENTERボタンを押す**

4 **▲/▼ボタンを押して設定項目を選び、◄/►ボタンで設定オプションを変更する**

SETUPボタンを押すと、設定を終了します。

RETURNボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

セットアップメニューのみかた

① メインメニュー　スピーカー設定

② スピーカー詳細設定

③ ■ サブウーファー

④ ▸ 1ch:
音声信号を**SW1**または**SUBWOOFER 1**端子からのみ出力する場合

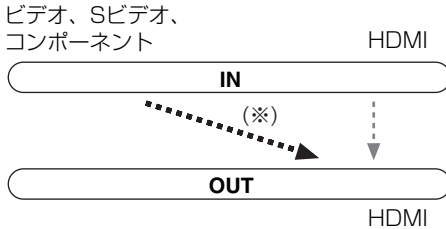
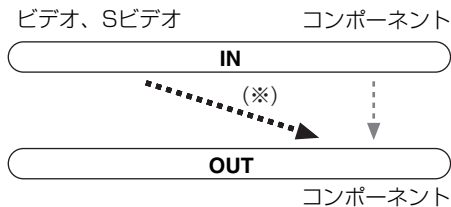
▸ 2ch:
音声信号を**SW1**と**2**端子、または**SUBWOOFER 1**と**2**端子の両方から出力する場合

①メインメニュー項目
②サブメニュー項目
③設定項目
④設定オプション（お買い上げ時の設定は下線付きで表示）

メインメニュー　入力/出力端子の割り当て

モニター映像出力

HDMI出力とコンポーネント出力の出力設定を行います。ご使用になるテレビの解像度にあわせ、出力解像度を本機で変換する設定です。

本機のHDMI 出力端子にテレビを接続した場合：
ビデオ、Sビデオ、コンポーネントの各映像入力信号は変換（※）されてHDMI出力端子から出力されます。

本機のHDMI 出力端子以外にテレビを接続した場合：
「**モニター出力設定**」を「**アナログ**」に設定してください。ビデオ、Sビデオの各映像入力信号は変換（※）されてコンポーネント出力端子から出力されます。

ご注意

- 本機が「**モニター出力設定**」、「**解像度**」設定の映像信号を処理する流れについては「映像接続のしくみ」をご覧ください（➔ P.100）。

■モニター出力設定

▶ **アナログ**：Analog
テレビをモニター出力（コンポーネント、Sビデオ、ビデオ）端子に接続した場合に選びます。

▶ HDMIメイン：HDMI Main
テレビを**HDMI OUT MAIN**端子に接続した場合に選びます。

▶ HDMIサブ：HDMI Sub
テレビを**HDMI OUT SUB**端子に接続した場合に選びます。

▶ **両方**：Both
HDMI OUT MAIN、**HDMI OUT SUB**端子の両方に接続する場合に選びます。
映像信号は両方のHDMI出力端子から、両方のテレビで対応している解像度で出力されます。

▶ **両方（メイン）**：Both(Main)
HDMI OUT MAIN、**HDMI OUT SUB**端子の両方に接続する場合に選びます。
映像信号は両方のHDMI出力端子から出力されますが、**HDMI OUT MAIN**端子からの出力が優先されます。映像の解像度によっては、**HDMI OUT SUB**端子からは映像信号が出力されない場合があります。

▶ **両方（サブ）**：Both(Sub)
HDMI OUT MAIN、**HDMI OUT SUB**端子の両方に接続する場合に選びます。映像信号は両方のHDMI出力端子から出力されますが、**HDMI OUT SUB**端子からの出力が優先されます。映像の解像度によっては、**HDMI OUT MAIN**端子からは映像信号が出力されない場合があります。

ご注意

- 設定とは異なる出力端子に接続をした場合は、自動的に「**アナログ**」に設定されます。
- DeepColorへの対応について、「**両方（メイン）**」または「**両方（サブ）**」に設定した場合は、優先のHDMI出力端子に接続したテレビの対応状況によりビット数が制限される場合があります。

本体のボタンで出力設定を変更する場合

1　MONITOR OUTボタンを押す
現在の設定が表示部に表示されます。

```
Monitor Out
  : HDMI Main
```

2　MONITOR OUTボタンをくり返し押して、選択する ：
▶ Analog、HDMI Main、HDMI Sub、Both、Both(Main)またはBoth(Sub)

■解像度

▶**スルー** *1：
入力信号の解像度とおなじ解像度で、本機で変換しないでそのまま出力する場合に選択します。

▶**自動***2：
テレビに対応した解像度に合わせて、自動で変換する場合に選択します。

▶**480p、720p、1080i、1080p***2：
お好みの出力解像度を選択します。

▶**1080p/24***2*3：
1080p/24の解像度で出力する場合に選択します。

▶**4k アップスケーリング***2*3：
1080pの約4倍の高解像度（3840 × 2160ピクセル）で出力されます。

▶**入力ソース**：
「**画質調整**」の「**解像度**」で設定した解像度で出力します（➔ P.64）。

HDMI出力端子とコンポーネント出力端子の出力解像度を指定することができます。お使いのテレビで対応している解像度に一致するように、本機の画像解像度を変換します。

ヒント

- 解像度は、出力（メイン、サブ、アナログ）ごとに設定できます。
- 設定しながらテレビの映像を確認するには、**ENTER**ボタンを押します（**NET**入力セレクタは除く）。

ご注意

- 「1080p/24」を選んだ場合、入力する映像によっては動きがカクカクしたり、垂直解像度が低下したりすることがあります。このような場合は、「1080p/24」以外を選んでください。
- 「**モニター出力設定**」が「**両方**」のときは、「**解像度**」の設定は「**自動**」に固定されます。

*1 「**モニター出力設定**」が「**アナログ**」に設定されており、「**解像度**」が「**スルー**」に設定されている場合、アナログ RGB 入力信号の解像度は 480p、720p、1080i で出力されます。

*2 「**モニター出力設定**」が「**アナログ**」に設定されていると選べません。

*3 「**モニター出力設定**」が「HDMI サブ」または「**両方 (サブ)**」のときは、「1080p/24」、「**4k アップスケーリング**」は選べません。

HDMI入力

HDMI入力端子には、お買い上げ時の設定で「**BD/DVD**」、「**VCR/DVR**」などの入力切換ボタンが割り当てられています。たとえば、ブルーレイディスク/DVDプレーヤーを、お買い上げ時の設定どおりに本機の**HDMI IN1**に接続すると、入力切換ボタンで**BD/DVD**を選択するだけで、接続した機器の映像や音声を簡単に本機で再生することができます。
お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

入力切換ボタン	HDMI入力端子の割り当て
BD/DVD	HDMI1
VCR/DVR	HDMI2
CBL/SAT	HDMI3
GAME	HDMI4
PC	HDMI5*1
AUX	フロント（固定）
TUNER	- - - - -
TV/CD	- - - - -
PHONO	- - - - -
PORT	- - - - -

お買い上げ時の設定と異なる接続をする場合は、この設定項目で設定を変更する必要があります。たとえばブルーレイディスク/DVDプレーヤーを本機の**HDMI IN2** 端子に接続したときは、「BD/DVD」の割り当てを「HDMI2」に変更してください。

■BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、PC、TUNER、TV/CD、PHONO、PORT

▶HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4、HDMI5、HDMI6、HDMI7：
映像機器を**HDMI IN 1**～**7**端子に接続した場合に選びます。

▶- - - - -:
ビデオ、Sビデオ、コンポーネントに入力された各映像信号を、変換してHDMI出力端子から出力するときに選びます。また、ビデオ、Sビデオ端子からの映像信号を変換する場合に、コンポーネントビデオ端子の設定も「- - - - -」にする必要があります。

*1 ご使用のパソコンを **PC IN** 端子に接続し、**PC** 入力切換ボタンを選ぶと、HDMI 出力端子からパソコンの映像が出力されます。**HDMI IN** 端子よりも **PC IN** 端子からの入力を優先させる場合は、**PC** の設定を「- - - - -」にする必要があります。

HDMI INの各入力端子に割り当てできる入力は1つまでです。すでにHDMI1 ～ HDMI7まで割り当てられているときは、他の入力に割り当てることはできません。
そのうちの使わない入力に「- - - - -」を設定してから、割り当ててください。

ご注意

- ビデオ、Sビデオ、コンポーネントに入力された各映像信号を変換してHDMI端子から出力するには、「**モニター出力設定**」を「**アナログ**」以外に設定し(➔ P.50)、「**HDMI入力**」設定を「- - - - -」に設定してください。
- ビデオ、Sビデオ、コンポーネントに入力された各映像信号をHDMIに変換する場合の映像信号の流れや、変換に関する詳細は「映像接続のしくみ」をご覧ください（➔ P.100）。
- 映像機器がHDMI端子に接続されていない場合は（「**HDMI入力**」が割り当てられていても）、「**コンポーネント映像入力**」の設定で出力されます。
- **HDMI IN 1**～ **7**を設定した入力には、自動的に同じHDMI 1～7のデジタル音声入力が割り当てられます（➔ P.52）。デジタル音声入力を使用したい場合は、「**音声入力**」で設定を変更してください（➔ P.65）。
- 入力に「AUX」を選んだときは、「**フロント**」に固定となります。
- 「**HDMIコントロール(RIHD)**」の設定が「**オン**」のときは、**HDMI IN**端子に接続された機器を、**TV/CD** 入力に割り当てないでください（➔ P.68）。適切なRIHD連動操作の保証ができなくなります。
- 「**HDMIスルー**」で選択されている入力に「- - - - -」が割り当てられている場合、「**HDMIスルー**」の設定は自動的に「**オフ**」になります。
- iPod/iPhoneをセットしたiPodドックUP-A1を**UNIVERSAL PORT**（ユニバーサル ポート）端子に接続している場合は、「PORT」入力に入力端子を割り当てることができません。

コンポーネント映像入力

コンポーネント（色差）映像入力端子には、お買い上げ時の設定で、「BD/DVD」などの入力切換ボタンが割り当てられています。お買い上げ時の設定どおりに接続を行うと、入力切換ボタンを選択するだけで、接続した機器の映像を簡単に本機で再生することができます。
お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

入力切換ボタン	映像入力端子の割り当て
BD/DVD	IN1
VCR/DVR	- - - - -
CBL/SAT	IN2
GAME	IN3
PC	- - - - -
AUX	- - - - -
TUNER	- - - - -
TV/CD	- - - - -
PHONO	- - - - -
PORT	- - - - -

お買い上げ時の設定と異なる接続をする場合は、この設定項目で設定を変更する必要があります。たとえばブルーレイディスク/DVDプレーヤーを本機の**COMPONENT VIDEO IN2**端子に接続したときは、「BD/DVD」の割り当てを「IN2」に変更してください。

■BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、PC、AUX、TUNER、TV/CD、PHONO、PORT

▸IN1、IN2、IN3：
映像機器を**COMPONENT VIDEO IN 1/2/3** 端子に接続した場合に選びます。

▸- - - - -:
コンポジットビデオとSビデオから入力された映像信号は変換されてHDMI出力端子から出力されます。

ご注意

- ビデオ端子およびSビデオ端子からの入力信号を変換して**COMPONENT VIDEO MONITOR OUT**端子から出力する場合、必ず「**モニター出力設定**」を「**アナログ**」（➔ P.50）にし、コンポーネントビデオ端子の設定を「- - - - -」にしてください。映像信号フローと変換については、「映像接続のしくみ」をご覧ください（➔ P.100）。
- 「**モニター出力設定**」で選択した出力と異なる端子にテレビを接続した場合、「**モニター出力設定**」は自動的に「**アナログ**」に切り換わります（➔ P.50）。
- iPod/iPhoneをセットしたiPodドックUP-A1を**UNIVERSAL PORT**（ユニバーサル ポート）端子に接続している場合は、「PORT」入力に入力端子を割り当てることができません。

デジタル音声入力

デジタル音声入力端子には、お買い上げ時の設定で「BD/DVD」などの入力切換ボタンが割り当てられています。
お買い上げ時の設定どおりに接続を行うと、入力切換ボタンを選択するだけで、接続した機器の音声を簡単に本機で再生することができます。
お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

入力切換ボタン	デジタル入力端子の割り当て
BD/DVD	COAXIAL1（同軸入力）
VCR/DVR	COAXIAL2（同軸入力）
CBL/SAT	COAXIAL3（同軸入力）
GAME	OPTICAL1（光入力）
PC	- - - - -
AUX	フロント（固定）
TUNER	- - - - -
TV/CD	OPTICAL2（光入力）
PHONO	- - - - -
PORT	- - - - -

お買い上げ時の設定と異なる接続をする場合は、この設定項目で設定を変更する必要があります。たとえば、**OPTICAL IN1**端子に、CDプレーヤーなどを接続したときは、「TV/CD」の割り当てを「OPTICAL1（光入力）」に変更してください。

■ BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、PC、TUNER、TV/CD、PHONO、PORT

▸ COAXIAL1（同軸入力）、COAXIAL2（同軸入力）、COAXIAL3（同軸入力）、OPTICAL1（光入力）、OPTICAL2（光入力）、OPTICAL3（光入力）：
機器を接続している、デジタル音声入力端子に対応するデジタル音声入力を選びます。

▸ - - - - -:
機器が、アナログ音声入力に接続されている場合に選びます。

ご注意
- HDMI端子を割り当てた入力（➔ **P.51**）には、本項目の設定も自動的にHDMI端子が割り当てられますが、お好みで他のデジタル音声入力端子も割り当てることができます（➔ **P.65**）。
- デジタル出力（光および同軸）から出力されるPCM信号（ステレオ/モノラル）のサンプリングレートは、32/44.1/48/88.2/96kHz/16、20、24ビットです。
- iPod/iPhoneをセットしたiPodドックUP-A1を**UNIVERSAL PORT**端子に接続している場合は、「**PORT**」入力に入力端子を割り当てることができません。
- 入力に「**AUX**」を選んだときは、「**フロント**」に固定となります。

アナログ音声入力

■ マルチチャンネル

▸ BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、PC、AUX、TUNER、TV/CD、PHONO：
マルチチャンネル入力を入力切換ボタンに割り当てることができます。

▸ - - - - -:
マルチチャンネル入力を割り当てない場合は、「- - - - -」に設定してください。

本機の**MULTI CH**（マルチ チャンネル）端子にBD/DVDプレーヤーなどを接続した場合、必ず入力切換ボタンに割り当ててください。**MULTI CH**端子に接続した機器を再生するときは、「**音声入力**」を設定してください(➔ **P.65**)。

■ サブウーファー入力感度

▸ 5dB単位で0dB～15dB

DVDプレーヤーによっては、マルチチャンネル出力のサブウーファー出力（LFEチャンネル）から通常より15dBほど高く出力されるものがあります。
この設定では、マルチチャンネル入力でのサブウーファー信号に対する入力感度をお使いのDVDプレーヤーに合わせて変更できます。

ご注意
- マルチチャンネル入力の**SUBWOOFER**端子からの入力信号にのみ効果があります。
- サブウーファーからの出力が大きすぎるときは、10dBまたは15dBに設定してみてください。
- 「**マルチチャンネル**」設定が「- - - - -」になっているときは、選べません。

■ バランス入力

▸ BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、PC、AUX、TUNER、TV/CD、PHONO：
バランス入力を入力切換ボタンに割り当てることができます。

▸ - - - - -:
バランス入力を割り当てない場合は、「- - - - -」に設定してください。

■ 入力チャンネル

▸ モノラル(L)：
入力ソースがモノラルで**BALANCE L INPUT** 端子に接続する場合に選びます。

▸ ステレオ：
入力ソースがステレオで**BALANCE L/R INPUT** 端子に接続する場合に選びます。

ご注意
- **BALANCE INPUT**端子に接続した機器を再生するときは、「**音声入力**」を設定してください（➔ **P.65**）。
- 「**バランス入力**」設定が「- - - - -」になっているときは、選べません。

メインメニュー　スピーカー設定

この中の多くのメニューは、自動スピーカー設定（➔ **P.35**）で自動設定されています。

自動スピーカー設定のあとに、使用するスピーカーを変更した場合や、手動で設定したい場合、自動スピーカー設定で設定された内容を確認するときに使用します。

ご注意
- 以下の場合は設定できません：
  - ヘッドホンを接続している。
  - 「**テレビオーディオ出力**」設定を「**オン**」にしている。
  - 「**HDMI コントロール (RIHD)**」を「**オン**」にして（➔ **P.68**）、テレビのスピーカーで聴いている場合。

スピーカーセッティング

設定を変更した場合は、再度自動スピーカー設定を行ってください（➔ P.35）。

フロントスピーカーをバイアンプ接続している場合は、「**スピーカータイプ(フロント)**」を「**バイアンプ**」にしてください。
接続については、「バイアンプ接続をする」（➔ **P.19**）を参照ください。

ご注意
- バイアンプ接続では最大7.2 ch（チャンネル）再生になります。
- 設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

■スピーカータイプ(フロント)

- 通常:
  フロントスピーカーを、通常の方法で接続している場合に選びます。
- バイアンプ:
  フロントスピーカーを、バイアンプ接続している場合に選びます。

■フロントハイ+フロントワイド

- 有り:
  「**フロントハイ**」設定と「**フロントワイド**」設定が「**無し**」に設定されていると、自動的に「80Hz(THX)」に切り換わります。
- 無し:
  「**フロントワイド**」設定が自動的に「**無し**」に切り換わります。

以下のリスニングモードは「**フロントハイ+フロントワイド**」設定を使用します:
DTS Neo:X (Cinema/Music/Game)、DTS Neo:X Cinema + THX Cinema、DTS Neo:X Music + THX Music、DTS Neo:X Game + THX Games、Audyssey(オーディシー) DSX(PLII+Audyssey DSXを含む)、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、Game-RPG、Game-Action、Game-Rock、Game-Sports、All Ch Stereo、Full Mono。

ご注意
- 「**バイアンプ**」を設定している場合、「**フロントハイ+フロントワイド**」設定は選べません。
- 「**フロントハイ+フロントワイド**」設定を「**有り**」に設定しているときは、フロントワイドの音声は**SURR BACK**端子から出力されます。

スピーカー詳細設定

自動スピーカー設定(➔ P.35)を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーの有り/無しや、クロスオーバー周波数などを設定します。
クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を、何Hz(ヘルツ)からサブウーファーで出力するかを設定しておくことができます。
サブウーファーを接続していないときには、フロントスピーカーが自動的に「**フルレンジ**」に設定され、他のチャンネルの低音域が、フロントスピーカーから出力されます。お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。
THX認証のスピーカーシステムを使用するときは、自動スピーカー設定を行っても、この設定で「80Hz(THX)」に設定し直してください。

■サブウーファー

- 1ch:
  音声信号を**SW1**または**SUBWOOFER 1**端子からのみ出力する場合
- 2ch:
  音声信号を**SW1**と**2**端子、または**SUBWOOFER 1**と**2**端子の両方から出力する場合
- 無し

■フロント

- フルレンジ
- 40Hz、45Hz、50Hz、55Hz、60Hz、70Hz、80Hz(THX)、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、130Hz、150Hz、200Hz

ご注意
- 「**サブウーファー**」設定を「**無し**」に設定している場合は、「**フロント**」設定は「**フルレンジ**」に固定されます。

■センター[*1]、サラウンド[*1]、サラウンドバック[*2*3*4]

- フルレンジ
- 40Hz、45Hz、50Hz、55Hz、60Hz、70Hz、80Hz(THX)、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、130Hz、150Hz、200Hz
- 無し

■フロントワイド[*1*2*5*6]、フロントハイ[*1*2*5*7]

- フルレンジ
- 40Hz、45Hz、50Hz、55Hz、60Hz、70Hz、80Hz(THX)、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、130Hz、150Hz、200Hz
- 無し

ご注意
*1 「**フルレンジ**」は、「**フロント**」設定で「**フルレンジ**」を選んでいるときしか選ぶことができません。
*2 「**サラウンド**」設定を「**無し**」に設定しているときは、この設定を選ぶことはできません。
*3 「**サラウンド**」設定を「**フルレンジ**」以外に設定しているときは、「**フルレンジ**」を選ぶことはできません。
*4 「**フロントハイ + フロントワイド**」設定を「**有り**」に設定しているときは、この設定を選ぶことはできません。
*5 「**バイアンプ**」が設定されている場合、この設定を選ぶことはできません。
*6 「**フロントハイ + フロントワイド** 」が「**無し**」に設定されており、フロントハイを有効にしている場合、この設定は選べません。
*7 「**フロントハイ + フロントワイド** 」が「**無し**」に設定されており、フロントワイドを有効にしている場合、この設定は選べません。

■サラウンドバックCh

- 1ch：
  接続したサラウンドバックスピーカーが１つの場合に選びます。（**SURR BACK L**端子に接続してください。）
- 2ch：
  サラウンドバックスピーカーを2台（左右）接続している場合に選びます。

ご注意
- 「**サラウンドバック**」設定を「**無し**」に設定している場合は、この設定を選ぶことはできません。

■LFEローパスフィルタ（LFEチャンネルの低域フィルター）

- 80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz
- バイパス：
  ローパスフィルターを適用しません。

LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。ローパスフィルターは、LFEチャンネルを使っているソースにしか適用されません。

ご注意
- THXの認証を受けたスピーカーシステムをご使用の場合は、「**80Hz**」を選んでください。

■ダブルバス

自動スピーカー設定を行っても、自動で設定されません（➔ **P.35**）。

- オン
- オフ(THX)

ダブルバス機能を利用すると、左右フロントチャンネル、センターチャンネルの低音がサブウーファーに送られ、低音の出力が強調されます。

ご注意
- この機能は、「**サブウーファー**」設定が「**1ch**」または「**2ch**」にされ、「**フロント**」設定が「**フルレンジ**」に設定されているときに設定できます。
- THXの認証を受けたスピーカーシステムをご使用の場合は、「**オフ(THX)**」を選んでください。

■サブウーファー位相

- 0°
- 180°：
  サブウーファーの位相を変更します。

ご注意
- 「**サブウーファー**」設定を「**無し**」にしている場合、この設定を選ぶことはできません。

スピーカー距離

自動スピーカー設定（➔ **P.35**）を行った場合は、自動で設定されています。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの、音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

■単位

- メートル：
  距離をメートルで設定できます。指定可能な範囲：0.06 メートル単位で、**0.06m～9.00m**
- フィート：
  距離をフィートで設定できます。指定可能な範囲：0.2 フィート単位で、**0.2ft～30.0ft**

■フロント左、フロントワイド左、フロントハイ左、センター、フロントハイ右、フロントワイド右、フロント右、サラウンド右、サラウンドバック右、サラウンドバック左、サラウンド左、サブウーファー 1、サブウーファー 2*1

- 各スピーカーと視聴位置の距離を指定します。

ご注意
- スピーカーの設定で「**無し**」に設定したスピーカー（➔ **P.54**）は選ぶことができません。

*1 サブウーファーが 1ch の場合は「**サブウーファー 2**」は選べません。

スピーカー音量レベル

自動スピーカー設定（➔ **P.35**）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーからのテスト音の音量が、同じに聴こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

■フロント左、フロントワイド左、フロントハイ左、センター*1、フロントハイ右、フロントワイド右、フロント右、サラウンド右、サラウンドバック右、サラウンドバック左、サラウンド左

- 0.5dB単位で**－12.0dB～0.0dB～+12.0dB**

■サブウーファー 1*1、サブウーファー 2*1*2

- 0.5dB単位で**－15.0dB～0.0dB～+12.0dB**

ご注意
- ミューティング中は、設定できません。
- 本機はTHX対応機種ですので、テスト音は標準レベルの0dB（絶対値の場合は82）で出力されます。
  通常お聴きになっている音量が小さい場合は、突然大きな音になりますのでご注意ください。
- スピーカーの設定で「**無し**」に設定したスピーカー（➔ **P.54**）は選ぶことができません。

*1 センタースピーカーとサブウーファーについては、ホームメニューで設定した音量がこの設定で保存されます（➔ **P.45**）。

*2 サブウーファーが 1ch の場合は「**サブウーファー 2**」は選べません。

イコライザ設定

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は「スピーカー音量レベル」でも調整できます。
ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

■イコライザ

- **手動**：
  イコライザはスピーカーごとに手動で調節できます。以下の手順を実行してください。

1 **▲/▼ボタンを押して「設定チャンネル」を選んだあと、◄/►ボタンでスピーカーを選ぶ**

2 **▲/▼ボタンを押して周波数を選んだあと、◄/►ボタンを押してその周波数の音量を調節する**
各周波数の音量は、−6dB〜0dB〜+6dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

ヒント

- 低域の周波数（63Hzなど）で低音の調節を、高域の周波数（16000Hzなど）で高音の調節を行います。

3 **▲/▼ボタンを押して「設定チャンネル」を選んだあと、◄/►ボタンを押して別のスピーカーを選ぶ**
各スピーカーに対して手順1と2を行います。
スピーカーの設定（➔ P.54）で「**無し**」に設定したスピーカーは、設定できません。

- **オフ**：
  すべての音域で同じ音場設定になります。

ご注意

- 「63Hz」「160Hz」「400Hz」「1000Hz」「2500Hz」「6300Hz」「16000Hz」のいずれかを選ぶことができます。サブウーファーについては、「25Hz」「40Hz」「63Hz」「100Hz」「160Hz」のいずれかを選びます。
- DirectとPure Audioのリスニングモードのときは、効果がありません。
- 入力音源またはリスニングモードの設定によっては、望ましい効果を得ることができないことがあります。
- 「Audyssey」が有効に設定されている場合は、「Audyssey」の設定が優先されます（➔ P.60）。

THXオーディオ設定

■サラウンドバックスピーカー間距離

- <0.3m
- 0.3m - 1.2m
- >1.2m

サラウンドバックスピーカーの間隔を指定できます。

ご注意

- 以下の場合は設定できません：
  -「**サラウンドバック Ch**」を「**1ch**」に設定している（➔ P.55）。
  -「**サラウンドバック**」を「**無し**」に設定している（➔ P.54）。

■THX Ultra2/Select2 Subwoofer

- **無し**
- **有り**

THXの認証を受けたサブウーファーを接続している場合、「**有り**」に設定してください。

ご注意

- 「**サブウーファー**」設定を「**無し**」に設定している場合は、この設定を選ぶことはできません（➔ P.54）。

■BGC

- **オフ**
- **オン**

BGC（境界利得補正）を使用すると、窓際など部屋の境界部で視聴者が観賞している場合、低い周波数が強調されるのを補正することができます。

ご注意

- この設定は、「THX Ultra2/Select2 Subwoofer」を「**有り**」に設定しているときだけ設定できます。
- 「**サブウーファー**」設定を「**無し**」に設定している場合は、この設定を選ぶことはできません（➔ P.54）。

■Loudness Plus

- **オフ**
- **オン**

「Loudness Plus」設定を「**オン**」にすると、低音量で、音声表現の微妙なニュアンスを楽しめるようになります。
THXリスニングモードを選択しているときに利用できます。

■THX設定優先

- **有り**
- **無し**

「**有り**」に設定した場合、THXリスニングモードにDynamic EQ/Dynamic Volume/Dolby Volumeが働きません。

ご注意

- 「Loudness Plus」を「**オン**」に設定している場合、この設定は「**有り**」に固定されます。

THX Loudness Plus

THX Loudness Plusは、THX Ultra2 Plus™およびTHX Select2 Plus™認定のレシーバーに搭載された、新しいボリュームコントロール技術です。
THX Loudness Plusを使用すると、ホームシアターの視聴者はどんなボリュームレベルでも、豊かで繊細なサラウンド効果を体験できます。
ボリュームをリファレンスレベル（基準レベル）よりも下にすると、一定レベルのサウンドエレメント（音質要素）が失われたり、視聴者によって違う感じに聴こえたりします。
THX Loudness Plusはボリュームを下げたときに発生する音質上・空間上の変化を周囲のサラウンドチャンネルレベルと周波数レスポンスをインテリジェントに調整することで補います。
このことにより、ユーザーはボリューム設定に関係なくサウンドトラックのインパクトを忠実に体験することができます。THX Loudness Plusは、どのTHXリスニングモードで聴いているときでも自動的に設定されます。新しく開発されたTHX Cinema、THX Music、THX Gamesのモードは、コンテンツのタイプに応じて、THX Loudness Plusの設定が適切に適用されるように調整されています。

メインメニュー　音の設定・調整

リスニングモードや接続した機器によって、音響効果をお好みに調整しておくことができます。

多重音声/モノラル

■多重音声

入力チャンネル
- 主
- 副
- 主/副

多重音声や多重言語の放送などで、音声や言語を選択します。**DISPLAY**ボタンを押して、表示部に音声の数が「1+1」と表示されたら、音声多重放送です。

■モノラル

入力チャンネル
- 左+右
- 左
- 右

2チャンネルで収録された、ドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、Monoリスニングモードで再生するときに使用する、信号チャンネルを設定します。

出力スピーカー
- センター：
  センタースピーカーからモノラル音声が出力されます。
- 左/右：
  左右のフロントスピーカーからモノラル音声が出力されます。

この設定では、Monoリスニングモード選択時にどのスピーカーからモノラル音声を出力するか設定します。

ご注意
- 「**センター**」設定を「**無し**」に設定している場合は（➔ **P.54**）、この設定を選択できません。

Dolby

■PL IIx Music（2ch入力）

２チャンネルで記録された、ドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、「PLIIx Music」リスニングモードで再生するときの設定をします。
サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、「PLIIx」は「PLII」と表示されます。

Panorama
- オン
- オフ

音場を横方向に広げることができます。

Dimension

- −3～0～+3

音場を前方または後方へ移動させることができます。
「0」を中心に、「−1」、「−2」、「−3」にすると前方へ、「+1」、「+2」、「+3」にすると後方へ移動します。広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整すると、バランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整すると、バランスが良くなります。

Center Width

- 0～3～7

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic IIx Music では、センタースピーカーがある場合は、センターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。

■PL IIz Height Gain

- **弱**
- **中**
- **高**

Pro Logic IIz Heightリスニングモード使用時の、フロントハイスピーカーからの出力レベルを調整することができます。「**弱**」「**中**」「**高**」の３つの設定値があり、順にフロントハイスピーカーからの出力が強調されます。

ご注意

- 「**フロントハイ**」設定を「**無し**」に設定している場合、この設定を選ぶことはできません（➔ P.54）。

■Dolby EX

- **自動**：
  Dolby EX識別信号があるときは、Dolbyのリスニングモードは Dolby Digital EX、THXのリスニングモードはTHX Surround EX が選べます。
- **手動**：
  使用可能な任意のリスニングモードを選ぶことができます。

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。この設定は、ドルビーデジタルとドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHDにのみ効果があります。

ご注意

- 「**サラウンドバック**」設定を「**無し**」に設定している場合は（➔ P.54）、この設定を選ぶことはできません。
- 「**フロントハイ**」または「**フロントワイド**」を設定している場合は、この設定は「**手動**」に固定されます（➔ P.54）。

■Dolby Volume

- **オフ**
- **オン**

Dolby Volumeはオーディオの周波数特性および音量調整における問題を改善するための優れた音量調整機能です。

ご注意

- 「**Dolby Volume**」設定を「**オン**」にすると、「**Dynamic EQ**」と「**Dynamic Volume**」は「**オフ**」になります。
- Dolby VolumeをTHXリスニングモードで使用する場合、「**Loudness Plus**」設定を「**オフ**」にし、「**THX設定優先**」設定を「**無し**」に設定してください（➔ P.56）。
- 「**Dolby Volume**」を「**オン**」に設定すると、レイトナイト機能は使えません。

■Volume Leveler

- **オフ**
- **弱**：
  低圧縮モードが適用されます。
- **中**：
  中圧縮モードが適用されます。
- **高**：
  高圧縮モードが適用されます。

Volume Levelerはオーディオ入力信号の圧縮レベルを調整できます。
Volume Levelerは異なるチャンネルや入力信号など、すべての知覚音量を維持します。

ご注意

- 「**Dolby Volume**」設定が「**オフ**」に設定されている場合、この設定は選べません。

■Half Mode

- **オフ**
- **オン**

Dolby Volume のHalf Mode オプションをオン/オフします。
オフの場合、Dolby Volumeは入力ゲインが基準レベルを超える場合に低音および高音の減衰を適用します。これにより、高いレベルの高音および低音であっても、聴感上フラットなリスニング体験を可能にします。ただし視聴者によっては、高い入力レベルがあるときに、より低音および高音のパフォーマンスを好む場合があります。

ご注意

- 「**Dolby Volume**」設定が「**オフ**」に設定されている場合、この設定は選べません。
- 「**Half Mode**」が「**オン**」に設定されている場合、周波数の高低差の認識が拡張されるため、基準レベルを超える入力があっても低音および高音の減衰は適用されません。

DTS

■ Neo:X Music

Center Image

▸ 0～2～5

DTS Neo:X Musicは、2 チャンネルで収録されたソースを、9チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使って、センターチャンネルの音声を作り出します。
フロント音場の広がり感を調整することができます。
「0」に設定すると，フロント音場が中央寄りになり、「5」に設定するとフロント音場が左右に広がります。

Audyssey DSX™

■ Soundstage

▸ －3dB～基準値～+3dB

Audyssey DSXリスニングモードを使用したときの、音場を調整します。

ご注意

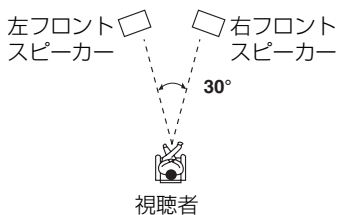
• 以下の項目すべてに該当する場合、このリスニングモードを選択できます：
  - センタースピーカーを接続している。
  - フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーを接続している。

Theater-Dimensional

■ リスニングアングル

▸ 広い：
リスニング角度が30°より広い場合に選びます。

▸ 狭い：
リスニング角度が30°より狭い場合に選びます。

Theater-Dimensionalリスニングモードでの最適な視聴角度を設定します。視聴位置からの左右スピーカーの角度を設定します。

LFEレベル

■ Dolby Digital*1、DTS*2、AAC、マルチチャンネルPCM、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DSD*3

▸ －∞dB、－20dB、－10dB、0dB

各入力信号の低域効果（LFE）レベルを設定します。
Dolby Digital、DTS、AAC、マルチチャンネルPCM、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DSD信号の設定ができます。
低域効果音が強調されすぎる場合は、－20dBや－∞dBを選んでください。

ご注意

*1 Dolby Digital と Dolby Digital Plus のソースの LFE チャンネルの音量を設定します。
*2 DTS と DTS-HD High Resolution のソースの LFE チャンネルの音量を設定します。
*3 DSD（Super Audio CD）ソースの LFE チャンネルの音量を設定します。

Direct

■ アナログ

サブウーファー

▸ オフ：
低域信号を出力しません。

▸ オン：
低域信号を出力します。

Pure Audio および Directリスニングモードを選択したとき、サブウーファーから低域信号を出力する場合に設定します。

ご注意

• 「サブウーファー」設定を「無し」に設定している場合（➔ P.54）、この設定を選ぶことはできません。

■ DSD

DAC ダイレクト

▸ オフ：
DSD信号はDSP処理されます。

▸ オン：
DSD信号はDSP処理されません。

DSD（Super Audio CD）音声信号をA/VシンクやディレイなどのDSP回路を通すか、通さないかを設定します。
またはPure Audio、Directのリスニングモード選択時にDSP回路を通すかどうかを設定します。

ご注意

• 「オン」に設定されている状態でDSD 信号が入力されるとリスニングモード「Direct」が「DSD Direct」になります。表示部に「DSD Direct」と表示されます。

サウンドプログラム編集

■サウンドプログラム

▶**ステレオ信号 1、ステレオ信号 2、ステレオ信号 3、マルチチャンネル信号 1、マルチチャンネル信号 2、マルチチャンネル信号 3**

同じソースで異なるジャンルのコンテンツを再生する場合、または、異なるソースで同じジャンルのコンテンツを再生する場合に、そのコンテンツに適した設定の組み合わせをあらかじめ「**サウンドプログラム**」に登録しておき、それを呼び出すことで一括して設定を変更することができます。「**サウンドプログラム編集**」では、設定の組み合わせの編集・登録を行います。

ヒント

- 登録した設定を選択するには、「**サウンドプログラム**」設定をご覧ください。(➔ P.72)

■リスニングモード

サウンドプログラム選択時に使用するリスニングモードを、初期設定しておくことができます。
「**最終値**」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。
「**ストレートデコード**」はDolbyやDTSなどのストレートデコードのリスニングモードを選びます。

■サブウーファー*1

▶**無し**、**有り**

サウンドプログラムでサブウーファーを使用するかどうかを設定します。

■Music Optimizer*2

▶**オフ**、**オン**

詳細については「Music Optimizer」をご覧ください。(➔ P.74)

■イコライザ*2

▶**オフ**

▶**手動**：
手動で調整した「**イコライザ設定**」を適用します。(➔ P.56)

■Audyssey*2

▶**オフ**、Movie、Music

詳細については「Audyssey」をご覧ください。

■Dynamic EQ*2*3

▶**オフ**、**オン**

詳細については「Dynamic EQ」をご覧ください。(➔ P.61)

■Dynamic Volume*2*3

▶**オフ**、**ライト**、**ミディアム**、**ヘビー**

詳細については「Dynamic Volume」をご覧ください。(➔ P.61)

■Dolby Volume*2

▶**オフ**、**オン**

詳細については「Dolby Volume」をご覧ください。(➔ P.58)

ご注意

- 入力信号が「**サウンドプログラム**」設定のソースと一致する場合のみ、「**リスニングモード**」設定は有効です。
- 「Music Optimizer」は、「**ステレオ信号 1**」、「**ステレオ信号 2**」または「**ステレオ信号 3**」を選択している場合のみ利用できます。
- 自動スピーカー設定を「**Audyssey簡単測定**」で測定した場合、「**Audyssey**」は選べません。

*1 スピーカー詳細設定で「**サブウーファー**」設定を「**無し**」にしている場合、この設定は使えません。
*2 リスニングモードで Pure Audio または Direct を選択している場合、この設定は使えません。
*3 この設定を有効にするには、自動スピーカー設定を行う必要があります。

メインメニュー　**入力ソースの設定**

本機に接続した複数の機器間で、音量差の調整、あるいは映像が音声より遅れる場合の補正ができます。
項目は、入力セレクタごとに個別に設定できます。

準備
調整したい入力を入力切換ボタンで選び、接続機器を再生してください。

Audyssey

自動スピーカー設定を行った後に設定してください(➔ P.35)。
- 以下の場合、この機能は使用できません：
  - ヘッドホンを接続している。
  - Pure Audio または Direct リスニングモードを選択している。

■Audyssey

▶**オフ**

▶Movie：
映画鑑賞に適しています。
Audyssey表示が点灯します。

▶Music：
音楽鑑賞に適しています。
Audyssey表示が点灯します。

ご注意

- 「**Audyssey**」設定を「**オフ**」にした場合、「**イコライザ**」設定が適用されます(➔ P.56)。
- 自動スピーカーを「**Audyssey簡単測定**」で測定した場合、「**Audyssey**」は選べません。
- DSDソースにはこの機能は働きません。

■ Dynamic EQ

- ▶ オフ
- ▶ **オン**：
  Audyssey Dynamic EQ®機能が適用されます。
  Dynamic EQ表示が点灯します。

小音量再生のときでも充分な音声を楽しむことができます。部屋の特性やソースの音量、人間の聴覚特性などを考慮しながら、周波数特性の補正を行います。

■ Reference Level

- ▶ **0dB**：
  映画鑑賞に適しています。
- ▶ **5dB**：
  クラシック音楽など、とても広いダイナミックレンジを持つソースに適しています。
- ▶ **10dB**：
  ジャズや様々な音楽など、広いダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。また、通常基準レベルより10dB低くミックスされた、テレビ番組にも適しています。
- ▶ **15dB**：
  ポップス/ロック音楽など、高いリスニングレベルでミックスされ、限られたダイナミックレンジを持つソースに適しています。

映画は、音響の影響を考慮して調整された環境で、基準レベルでミキシングされます。
ホームシアターで同じ基準レベルで楽しむためには、スピーカーの音量レベル（Level Cal設定値）を−30dB FSの帯域制限（500Hz～2000Hz）されたピンクノイズで、75dBの音圧が視聴位置で聴こえるように調整する必要があります。
Audyssey MultEQ® XT32は、音量が70のときに基準レベルで再生されるように、自動的にスピーカーレベルを調整します。
Audyssey Dynamic EQは、映画の標準ミキシングレベルを基準にしていますので、音量を70よりも下げたときでもオリジナルの周波数特性と、サラウンド感が得られるように、自動的に調整することができます。
しかし、音楽またはフィルム以外のソースの場合は、映画の基準レベルが適切というわけではありません。
Reference Levelは映画の基準レベルが使われていないソースにも対応できるように、3種類のオフセットモードを用意しています。

ご注意

- 「**Dynamic EQ**」設定を「**オフ**」に設定している場合は、この設定は選べません。

■ Dynamic Volume

- ▶ オフ
- ▶ **ライト**：
  低圧縮モードが適用されます。
- ▶ **ミディアム**：
  標準圧縮モードが適用されます。
- ▶ **ヘビー**：
  高圧縮モードが適用されます。この設定がボリュームに一番大きな影響を与えます。爆発シーンなど音量が大きいパートでは音量を下げ、静かなパートでは聴き取りやすいように音量を上げます。

ヒント

- Dynamic Volumeを有効に設定すると「**Dynamic EQ**」は「**オン**」に設定され**Dynamic Vol**表示が点灯します。

ご注意

- THXリスニングモードの使用中にDynamic EQまたはDynamic Volumeを使いたい場合は、「**Loudness Plus**」設定を「**オフ**」に、「**THX設定優先**」設定を「**無し**」に設定します（➔ P.56）。
- 「**Dynamic EQ**」を「**オフ**」にすると「**Dynamic Volume**」も連動して「**オフ**」になります。

Audyssey Dynamic EQ®について
Audyssey Dynamic EQは、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、すべての音量変化に応じて自動的に最適な周波数特性とサラウンドレベルに補正します。その結果、どのように音量レベルを変更しても、常に最適な低域特性や音質バランス、サラウンド効果を維持することができます。正しい補正を行うために、入力されるソースの情報と、リスニングルームに出力される音圧レベル情報とを組み合わせています。

Audyssey Dynamic Volume®について
Audyssey Dynamic Volume は、テレビ番組やコマーシャル、映画などのコンテンツにおける静かな音のシーンと大きな音のシーンの間における、音量レベルの違いによって発生する問題を解決する技術です。
Dynamic Volume は、入力されるソースを常にモニターし、リスナーが設定した好みの音量レベルに常に自動的に調整することで、リスナーを音量調整の煩わしさから解放します。再生中のソースの中に含まれる特徴を正確にモニターし、音量の変化が急激であっても、緩やかな変化であってもソースの特徴に忠実に最適な音量値（リスナー設定値）に自動調整を行います。また、Dynamic Volume はAudyssey Dynamic EQ を取り込むことにより、音量レベルの調整時やテレビチャンネルの切り換え時、ステレオソースからサラウンドソースなどの切り換え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、台詞の明瞭さを維持しています。

インテリボリューム（機器間の音量差を調整する）

■インテリボリューム

▶1 dB単位で、−12dB〜0dB〜+12dB

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも、機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。◄/►ボタンで調整してください。他の機器と比べて、音量が大きい場合は◄ボタン、小さい場合は►ボタンを押して調整します。

ご注意

- インテリボリューム機能は、ゾーン2/3には効果がありません。

A/Vシンク（映像遅延補正）

■A/Vシンク

▶5 msec単位で、0msec〜800msec

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で音声の遅延を調整することができます。再生される映像を見ながら調整するには、**ENTER** ボタンを押してください。

前の画面に戻るには **RETURN** ボタンを押してください。

調整できる範囲は HDMI の「**リップシンク**」設定が「**オン**」の場合、またはお使いのテレビが HDMI リップシンク機能に対応している場合で異なります。

ご注意

- A/Vシンク機能はPure Audioリスニングモードでは効果がありません。またアナログ入力信号をDirectリスニングモードで再生する場合、効果がありません。
- **NET**入力セレクタには使用できません。

セレクタ名変更（名前の編集）

各入力切換に好きな名前を入力して、識別しやすいようにできます。入力した名前が表示部に表示されます。
指定した名前は文字入力画面で編集します。

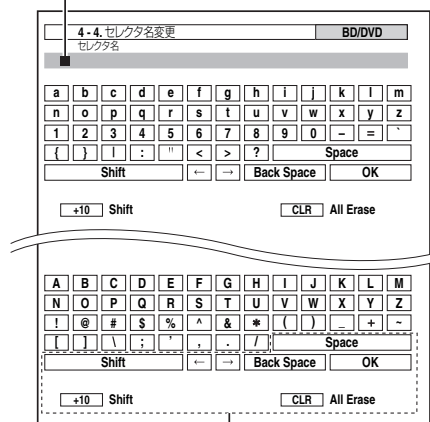
■セレクタ名

1 **▲/▼/◄/►ボタンを使って文字・記号を選び、ENTERボタンを押す**

この操作をくり返して、最大10文字まで入力します。

2 **入力が終わったら、忘れずに名前を保存する（▲/▼/◄/►ボタンを使って「OK」を選び、ENTERボタンを押す）**

この操作を行わないと名前は保存されません。

名前入力エリア

Space：
1文字分空白のスペースを入力します。

Shift*1：
表示する文字が切り換わります。

←（左）/→（右）：
名前入力エリア内でカーソルを移動するときに選びます。

Back Space*2：
カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動きます。

OK：
入力が完了したときに押します。

ヒント

*1 リモコンの **+10** ボタンを押すことでも切り換わります。
*2 リモコンの **CLR** ボタンを押すと、入力したすべての文字を削除できます。

文字を訂正する方法

1 **▲/▼/◄/►ボタンを使って「←」（左）または「→」（右）を選び、ENTERボタンを押す**

2 **ENTERボタンを何度か押して、間違った文字を選ぶ（ENTERボタンを押すたびに、カーソルが1文字分移動する）**

3 **▲/▼/◄/►ボタンを使って正しい文字を選び、ENTERボタンを押す**

ヒント

- 名前を初期値に戻すには、各文字に空白のスペースを入力して設定した名前を消します。

ご注意

- **NET**、**USB**入力セレクタには使用できません。

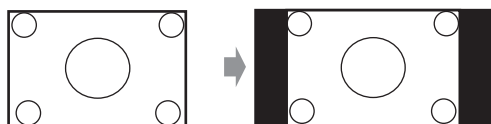
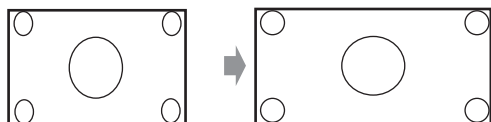
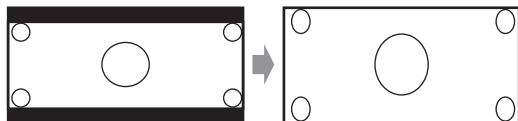
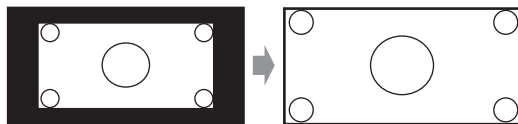
画質調整

画質調整を使うと、画質を調整したり、画面上のノイズを減らすことができます。

設定しながらテレビの映像を確認するには、**ENTER**（エンター）ボタンを押します。前の画面に戻るには、**RETURN**（リターン）ボタンを押します。

■ ワイドモード*1*2

この設定で、アスペクト比（縦横比）を設定します。

- **4 : 3**：

- **フル**：

- **ズーム**：

- **ワイドズーム**：

- **自動**：
  入力信号とモニター映像出力設定に従って、自動的に「**4 : 3**」、「**フル**」、「**ズーム**」、「**ワイドズーム**」のいずれかを選びます。モニター映像出力設定については「モニター映像出力」（➔ **P.50**）をご覧ください。

■ ピクチャーモード*1

- **カスタム設定**：
  すべての項目を、好みに応じて、設定できます。
- **ISF昼間設定**：
  部屋が明るい場合に選びます。
- **ISF夜間設定**：
  部屋が暗い場合に選びます。
- **Cinema**（シネマ）：
  映像ソースが映画などの場合に選びます。
- **Game**（ゲーム）：
  ゲーム機を接続しているときに選びます。
- **ストリーミング**：
  モスキートノイズ、ブロック・アーティファクトの低減を図ります。
- **スルー**：
  画質調整をしない（解像度は変更する）場合に選びます。
- **ダイレクト**：
  画質調整をしない（解像度を変更しない）場合に選びます。
  アナログへ入力した映像をHDMI出力端子から出力している場合は、「**スルー**」と同じ処理になります。

ピクチャーモードでは、「**ゲームモード**」、「**フィルムモード**」、「**エッジエンハンスメント**」、「**ノイズ低減**」、「**モスキートノイズ低減**」、「**ランダムノイズ低減**」、「**ブロックノイズ低減**」、「**解像度**」、「**明るさ**」、「**コントラスト**」、「**色合い**」、「**彩度**」、「**色温度**」、「**ガンマ**」、「**R 明るさ**」、「**R コントラスト**」、「**G 明るさ**」、「**G コントラスト**」、「**B 明るさ**」、「**B コントラスト**」といった設定を、ワンタッチで映画やゲームの画面に適した設定に変更できます。

本機はImaging（イメージ） Science（サイエンス） Foundation（ファンデーション）(ISF)が設定した、設定および校正基準を採用しています。ISFはビデオ性能を最適化するための業界基準をきめ細かく考案し、技術者や取付け作業員に対してこれらの基準を運用するための教育プログラムを実施し、本機から最適な画質を得ています。したがって、ISF認定の設置工事担当者が設定および校正作業を行うようにお勧めします。

■ ゲームモード*3*4*5

- **オフ**
- **オン**

ゲーム機など、本機に接続したビデオ機器の再生中に、ビデオ信号の遅延が発生する場合は、機器に接続した入力で、「**ゲームモード**」を選択して、「**オン**」に設定してください。遅延は改善しますが、画質は劣化します。

■ フィルムモード*3*5*6

- **ビデオ**：
  「**フィルムモード**」を適用せず、ビデオソースとして入力信号を処理します。
- **自動**：
  ビデオソースかムービーソースを判別します。ムービーソースの場合、最適な処理を行います。

本機は自動的に映像ソースを判別し、映像ソースに合わせて最適な処理を行い、映像ソースが持つ自然な質感を再現することができます。

■ エッジエンハンスメント*3*5*6

- オフ
- 弱
- 中
- 強

この設定で縁の鋭さを調整できます。

■ ノイズ低減*3*5*6

- オフ
- 弱
- 中
- 強

この設定で画面に現れるノイズを低減することができます。

■ モスキートノイズ低減*3*5*6*7

- オフ
- 弱
- 中
- 強

元の映像に圧縮がかかっているときなどに映像の輪郭に点の集まりが現れてぼやけてしまうことがあります。この点の集まりがモスキートノイズです。蚊の群れが飛んでいるように見えることからこう呼ばれます。過度に圧縮されたMPEGコンテンツがモスキートノイズを起こします。

■ ランダムノイズ低減*3*5*6*7

- オフ
- 弱
- 中
- 強

ランダムノイズとは、画面上に不規則に現れる点のことです。

■ ブロックノイズ低減*3*5*6*7

- オフ
- 弱
- 中
- 強

動きの速い映像を再生しているときなどに伝送速度が追いつかず画面上にモザイクがかったような不自然な四角が現れることがあります。この四角がブロックノイズです。過度に圧縮されたMPEGコンテンツがブロックノイズを起こします。

■ 解像度*3*5*8*9*10

- スルー：
  入力信号の解像度とおなじ解像度で、本機で変換しないでそのまま出力する場合に選択します。
- 自動：
  テレビに対応した解像度に合わせて、自動で変換する場合に選択します。
- 480p、720p、1080i、1080p：
  お好みの出力解像度を選択します。
- 1080p/24：
  1080p/24の解像度で出力する場合に選択します。
- 4k アップスケーリング：
  1080pの約4倍の高解像度（3840 × 2160ピクセル）で出力されます。

HDMI出力端子の出力解像度を指定することができます。お使いのテレビで対応している解像度に一致するように、本機の画像解像度を変換します。
「モニター映像出力」の「解像度」設定で「入力ソース」を選んだ場合のみ適用されます（➔ P.51）。

■ 明るさ*1*3*5

- −50～0～+50

この設定で画面の明るさを調整できます。
「−50」は最も暗くなります。「+50」は最も明るくなります。

■ コントラスト*1*3*5

- −50～0～+50

この設定で明暗の差を調整できます。
「−50」は最もコントラストが弱くなります。「+50」は最もコントラストが強くなります。

■ 色合い*1*3*5

- −50～0～+50

この設定で画面の赤と緑のバランスを調整できます。
「−50」は最も緑色が強くなります。「+50」は最も赤色が強くなります。

■ 彩度*1*3*5

- −50～0～+50

この設定で濃さを調整できます。
「−50」は最も淡い色になります。「+50」は最も鮮やかな色になります。

■ 色温度*3*5

- 暖色
- 通常
- 寒色

この設定で色温度を設定できます。

■ ガンマ*3*5

- −3～0～+3

入力された画像のR(赤)、G(緑)、B(青)色データ信号と、出力する色データ信号の相対関係を調節します。

■ R 明るさ*3*5

- −50～0～+50

この設定で画面の赤の明るさを設定できます。「−50」は最も暗くなります。「+50」は最も明るくなります。

■ R コントラスト*3*5

- −50～0～+50

この設定で赤のコントラストを設定できます。「−50」は最もコントラストが弱くなります。「+50」は最もコントラストが強くなります。

■ G 明るさ*3*5

- −50～0～+50

この設定で画面の緑の明るさを設定できます。「−50」は最も暗くなります。「+50」は最も明るくなります。

■ G コントラスト*3*5

- −50～0～+50

この設定で緑のコントラストを設定できます。「−50」は最もコントラストが弱くなります。「+50」は最もコントラストが強くなります。

■ B 明るさ*3*5

▸ −50～0～+50

この設定で画面の青の明るさを設定できます。「−50」は最も暗くなります。「+50」は最も明るくなります。

■ B コントラスト*3*5

▸ −50～0～+50

この設定で青のコントラストを設定できます。「−50」は最もコントラストが弱くなります。「+50」は最もコントラストが強くなります。

ご注意

- 「**画質調整**」は**NET**（ネット）入力セレクタには使用できません。

*1 この操作は、ホームメニューを使って行うこともできます（➔ P.45）。
*2 3D 映像を入力している場合、「**ワイドモード**」設定は「**フル**」に固定されます。
*3 「**ピクチャーモード**」設定を「**カスタム設定**」以外に設定している場合、この設定は使えません。
*4 「**解像度**」設定を「**4k アップスケーリング**」に設定している場合（➔ P.51）、この設定は「**オフ**」に固定されます。
*5 初期設定値に戻したい場合は、リモコンの **CLR** ボタンを押してください。
*6 この設定はアナログ RGB 信号には効果がありません。
*7 「**ノイズ低減**」設定を「**オフ**」以外に設定している場合、この設定は選べません。
*8 「**モニター出力設定**」を「**アナログ**」に設定しているとき、「**解像度**」で「1080p/24」または「**4k アップスケーリング**」を選択すると、1080i で出力します。
*9 「**モニター出力設定**」を「**HDMI サブ**」か「**両方（サブ）**」に設定しているとき、「**解像度**」で「1080p/24」または「**4k アップスケーリング**」を選択すると、1080p で出力します。
*10「**モニター出力設定**」を「**アナログ**」に設定しているとき、「**解像度**」で「**自動**」を選択すると、「**スルー**」で出力します。

音声入力

デジタルとアナログの両方の入力がある場合は、音声出力の優先順位を設定できます。

■ 音声入力

▸ ARC：

テレビチューナーの音声信号を、本機の**HDMI OUT MAIN**（アウト メイン）端子に送ることができます。*1
この設定で、テレビの音声をほかの設定よりも、優先的に自動選択できます。

▸ HDMI：

これは、**HDMI IN**（イン）端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。HDMI（**HDMI IN**端子）とデジタル音声入力（**COAXIAL IN**（コアキシャル）端子または**OPTICAL IN**（オプティカル）端子）の両方を割り当てた場合は、HDMIが優先的に自動選択されます。

▸ COAXIAL（コアキシャル）（同軸入力）：

これは、**COAXIAL IN**端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。同軸入力とHDMI入力の両方を割り当てた場合は、同軸入力が優先的に自動選択されます。

▸ OPTICAL（オプティカル）（光入力）：

これは、**OPTICAL IN**端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。HDMI入力と光入力の両方を割り当てた場合は、光入力が優先的に自動選択されます。

▸ Multich：

マルチチャンネルアナログ音声入力は、常にアナログ音声で出力されます。

▸ Balance：

常に、バランス入力からの音声が出力されます。

▸ アナログ：

常に、アナログ音声が出力されます。

ご注意

- 設定は、入力セレクタごとに個別に保存されます。
- この設定は、入力ソースが**HDMI IN**端子、**COAXIAL IN**端子、または**OPTICAL IN**端子に設定されている場合しか設定できません。
- 「**音声入力**」設定は**NET**、**USB**、**PORT**（ポート）（接続している機器）入力セレクタには使用できません。
- 「Multich」を選ぶには、**MULTI CH**端子に入力切り換えを割り当ててください（➔ P.53）。
- 「Balance」を選ぶには、**BALANCE INPUT**端子に入力切り換えを割り当ててください(➔ P.53)。
- ホールハウスモードを使用しているとき、「**音声入力**」設定は「**アナログ**」に固定されます。

*1 **TV/CD** 入力セレクタを選んでいる場合に「ARC」を選ぶことができます。「**オーディオリターンチャンネル**」設定で「**オフ**」を選んでいる場合は、選ぶことができません（➔ P.69）。

■ 固定モード

▸ オフ：

デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

▸ PCM：

PCMの2チャンネル入力信号のみ聴こえます。PCM以外の音声が入力された場合、**PCM**表示が点滅し、ノイズが生じます。

▸ DTS：

DTS（DTS-HDは除く）の入力信号のみ聴こえます。DTS以外の音声が入力された場合、**DTS**表示が点滅し、音が出ません。

「**音声入力**」で「HDMI」、「COAXIAL（同軸入力）」、「OPTICAL（光入力）」を選択した場合、「**固定モード**」で入力信号を指定することができます。
DTSやPCM信号の再生中に、ノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

- PCMソースのトラックの冒頭が切れる場合は、PCMに設定してみてください。
- DTS CDを早送りまたは巻き戻しすると、ノイズが発生する場合は、DTSに設定してみてください。

ご注意

- 設定は、入力セレクタごとに個別に保存されます。
- 「**音声入力**」の設定を変更すると、設定が「**オフ**」に固定されます。

チャージモード

■チャージモード

▶**自動**：
iPod/iPhoneの充電が完了すると、充電を終了します。
▶**オン**：
iPod/iPhoneの充電が完了しても、充電をし続けます。
▶**オフ**：
iPod/iPhoneは充電されません。

本機がスタンバイ状態時のiPod/iPhoneへの電源供給の設定を指定できます。

ご注意
- 以下の場合、この設定を選ぶことができません：
  - iPod/iPhone がセットされている UP-A1 ドックが接続されていない。
  - ドックにセットされている iPod/iPhone のモデルが対応していない。
- 「**チャージモード**」を「**オン**」または「**自動**」に設定している場合、スタンバイ状態時に**SLEEP**(スリープ)表示がうす暗く点灯します。この場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。「**自動**」設定ではiPod/iPhoneが満充電になると、**SLEEP**表示が消灯しスタンバイ状態での消費電力が減少します。

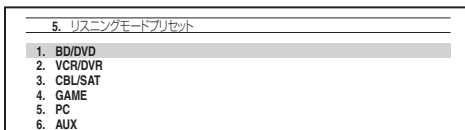
メインメニュー　リスニングモードプリセット

入力される信号によって、お好みのリスニングモードを初期設定しておくことができます。
たとえば、音楽CDのPCM信号を再生するときは、常にステレオモードで再生したり、ブルーレイディスクのドルビーTrueHD信号を再生するときは、「**ストレートデコード**」を選択して、常にそのままの音場で再生できる機能です。
再生中にリスニングモードを切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると、設定されたリスニングモードに戻ります。

1 **▲/▼ボタンを押して、設定したい入力ソースを選び、ENTER(エンター)ボタンを押す**

以下のメニューが表示されます。

5. リスニングモードプリセット

1. BD/DVD
2. VCR/DVR
3. CBL/SAT
4. GAME
5. PC
6. AUX

2 **▲/▼ボタンを押して、設定したい信号の種類を選び、◄/►ボタンを押して、リスニングモードを選ぶ**

選択できるリスニングモードは、設定する入力信号によって異なります（➔ P.39～44）。
「**最終値**」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。
「**ストレートデコード**」はDolbyやDTSなどのストレートデコードのリスニングモードを選びます。

ご注意
- iPodをセットしたiPodドックUP-A1を**UNIVERSAL**(ユニバーサル) **PORT**(ポート)端子に接続している場合は、PORT入力に「**アナログ**」のみ割り当てることができます。
- **NET**(ネット)、**USB**入力セレクタには「**デジタル**」のみ割り当てることができます。

■アナログ/PCM/デジタル

CDなどのPCM信号や、レコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

■モノラル/多重音声信号

モノラル/多重音声信号で記録された、ドルビーデジタル、AACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

■2チャンネル信号

2チャンネルで記録された、ドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

■Dolby(ドルビー) D/Dolby D Plus(プラス)/TrueHD(トゥルー)

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスおよびドルビー TrueHD信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

■DTS/DTS-ES/DTS-HD

DTS形式やDTS-HD High Resolution形式のデジタル音声信号（DVD、LD、CDなど）を再生するときに、使用するリスニングモードを指定できます。ブルーレイやハイビジョンDVD（HDMIで入力）などの、DTS-HD Master Audioソース用の既定のリスニングモードを指定します。

■その他の音声フォーマット

AAC、DVD-Audioなど、**HDMI IN**端子から入力される多重チャンネルPCMソース用の、既定のリスニングモードを指定します。スーパーオーディオCDのDSD信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

メインメニュー　その他

ボリューム設定

■ボリューム表示

▶**絶対値**：
最小·0.5…99.5·**最大**の範囲で表示します。
▶**相対値（THX）**：
−∞ dB(デシベル)·−81.5dB·······＋18.0dBの範囲で表示します。

ボリュームの表示方法を絶対値と相対値に切り換えることができます。
絶対値の音量82が相対値の0dBに相当します。

ご注意
絶対値の音量を82に設定すると、表示部に「**82Ref**」が表示され、THX表示が点滅します。

■ミュート時音量レベル

▶10dB単位で**−∞dB**、−50dB～−10dBの範囲で設定できます。

ミューティング時の音量を、聴いている音よりどれだけ下げるか、設定しておくことができます（➔ P.47）。

■最大ボリューム値

‣オフ、50～99（絶対値表示）

‣オフ、－32dB～+17dB（相対値表示）

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大値を設定することができます。
この設定を無効にするには、「**オフ**」を選びます。

■電源オン時ボリューム値

‣**最終値**、**最小**、1～99または**最大**（絶対値表示）

‣**最終値**、－∞dB、－81dB～+18dB（相対値表示）

本機の電源を入れたときの音量を、一定に設定しておくことができます。
本機をスタンバイ状態にする前の音量を、そのまま残したい場合は「**最終値**」を選びます。
「**電源オン時ボリューム値**」には、「**最大ボリューム値**」で設定した値より高く設定することはできません。

■ヘッドホン音量レベル

‣－12dB～0dB～+12dB

スピーカーで聴くときとヘッドホンで聴くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。

OSD設定

■オンスクリーンディスプレイ

‣**オン**

‣**オフ**

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。
「**オン**」に設定しても、再生機器をHDMI入力端子に接続しているときは、操作内容は表示されない場合があります。

■言語（Language）

‣**日本語**、**English**（英語）、**Deutsch**（ドイツ語）、**Français**（フランス語）、**Español**（スペイン語）、**Italiano**（イタリア語）、**Nederlands**（オランダ語）、**Svenska**（スウェーデン語）

操作内容の表示言語を選択して設定できます。

12Vトリガー A/B/C設定

■遅延

‣「0sec（秒）」、「1sec（秒）」、「2sec（秒）」、「3sec（秒）」：

「0sec（秒）」を選んだときは、メインルームまたはゾーン2の入力ソースが変更されると同時にトリガー信号が出力されます。

12Vトリガー接続をしている機器の電源が入るときに、機器によっては瞬間的に大容量の電流が流れる場合があります。これを防ぐため、メインルームまたはゾーン2の電源入力と本機からの12Vトリガー信号出力に時間差をつけることができます。また、電源入力を遅らせることで、不安なノイズ（ボコ音など）を避けることができます。

ご注意

- お買い上げ時には、「**12V トリガー A設定**」では「0sec（秒）」、「**12V トリガー B設定**」では「1sec（秒）」に、「**12V トリガー C設定**」では「2sec（秒）」にそれぞれ設定されています。
- 接続には抵抗なしのミニプラグケーブルをご使用ください。

■BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、PC、AUX、TUNER、TV/CD、PHONO、PORT、NET、USB

‣**オフ**：

12Vトリガーを使用しないときに選びます。

‣**メイン**、**ゾーン2**、**メイン/ゾーン2**、**ゾーン3**、**メイン/ゾーン3**、**ゾーン2/ゾーン3**、**メイン/ゾーン2/ゾーン3**

12Vトリガー信号を出力する入力ソースを選択します。

ご注意

- お買い上げ時には、入力ソースは、「**12V トリガー A設定**」では「**メイン**」、「**12V トリガー B設定**」では「**メイン/ゾーン2**」に、「**12V トリガー C設定**」では「**ゾーン2**」にそれぞれ設定されています。

メインメニュー　ハードウェア設定

リモコンID

■リモコンID

‣1、2、3のいずれか

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるために、リモコンIDを変更することができます。「1」、「2」、「3」から選べます。
お買い上げ時は、本体、リモコンともに「1」に設定されています。設定したら、次にリモコン側の設定をします。

ご注意

- リモコン、本体共に同じリモコンIDに設定する必要があります。

リモコン本体のIDを変更する

1. **AMP（アンプ）ボタンを押しながら、AMPボタンが点灯するまでSETUP（セットアップ）ボタンを長押しする（約3秒間）**
2. **数字ボタンで、1、2、3のいずれかのIDを入力する**
   AMPボタンが2回点滅します。

マルチゾーン

■ ゾーン2出力、ゾーン3出力

▶ 固定：

ゾーン2/ゾーン3の音量はゾーン2/ゾーン3用のアンプで調整します。

▶ **可変**：

ゾーン2/ゾーン3の音量を本機で調整することができます。

ゾーン2/ゾーン3スピーカーを音量調整機能がないアンプに接続する場合、「**ゾーン2出力**」または「**ゾーン3出力**」設定を「**可変**」に設定します。本機でゾーン2/ゾーン3の音量、バランスとトーンの設定ができます。

■ ゾーン2最大ボリューム値、ゾーン3最大ボリューム値

▶ **オフ**、50～99（「**ボリューム表示**」を「**絶対値**」にしているとき）

▶ **オフ**、−32dB～+17dB（「**ボリューム表示**」を「**相対値(THX)**」にしているとき）

ゾーン2/ゾーン3の音量が大きくなり過ぎないよう最大音量を設定できます。

■ ゾーン2電源オン時ボリューム値、ゾーン3電源オン時ボリューム値

▶ **最終値**、**最小**、1～99または**最大**の範囲内（「**ボリューム表示**」を「**絶対値**」にしているとき）

▶ **最終値**、**最小**、−∞dB～−81dB～+18 dB（「**ボリューム表示**」を「**相対値(THX)**」にしているとき）

本機の電源を入れたときのゾーン2/ゾーン3の音量を設定します。最後に本機の電源を切ったときの音量を使用するときは「**最終値**」を選びます。

「**ゾーン2電源オン時ボリューム値**」または「**ゾーン3電源オン時ボリューム値**」では、「**ゾーン2最大ボリューム値**」または「**ゾーン3最大ボリューム値**」で設定した値よりも大きな値を設定することはできません。

■ ゾーン2コンポーネントビデオ

▶ **有り**：

別室（ゾーン2）のテレビを**COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUT**端子に接続している場合に選びます。

▶ **無し**：

「**無し**」を選んだ場合、**ZONE 2 OUT**（コンポーネント）からは**COMPONENT VIDEO MONITOR OUT**端子と同じ映像が出力されます。

映像信号をコンポーネントでゾーン2に出力する場合に「**有り**」を選びます。

HDMI

■ HDMIコントロール(RIHD)

▶ **オフ**

▶ **オン**

本機とHDMI接続したCEC対応テレビや、RIHD対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

ご使用のテレビによっては、テレビ側でリンク設定などを行う必要があります。

詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 「**オン**」に設定してメニューを閉じると、本機の表示部に、接続したRIHD対応機器名称と、「RIHD On」を表示します。
  表示例："Search…" → "**(機器名称)**" → "RIHD On"
  接続した機器の名称が取得できないときは、「Player＊」または「Recorder＊」などを表示します。
  （＊は機器を複数台接続したときの台数を表します。）
- RIHD対応機器が本機とHDMI接続されたとき、本機の表示部に、接続機器の名称が表示されます。例えば、テレビ番組を見ているとき、本機のリモコンを使用してブルーレイディスク/DVD操作を行ったなら、本機の表示部にブルーレイディスク/DVDプレーヤーの名称が表示されます。
- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「**オフ**」に設定してください。
- 「**オン**」に設定して、おかしな動作をする場合は「**オフ**」にしてください。
- 「**HDMIコントロール(RIHD)**」を「**オン**」に設定した場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。（ただし、テレビの状態により通常の待機時消費電力モードになります。）
- RIHDコントロールは**HDMI OUT SUB**端子では動作しません。**HDMI OUT MAIN**端子に接続してください。
- 接続機器がRI接続されているとき、「**HDMIコントロール(RIHD)**」の設定を「**オン**」にすると、機器が故障する場合があります。

■ HDMIスルー

▶ **オフ**

▶ BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、PC、AUX、TUNER、TV/CD、PHONO、PORT：

HDMIスルー機能を有効にする入力ソースを選択します。

▶ **最終値**：

本機をスタンバイ状態にする前に選択していた入力ソースにHDMIスルー機能を有効にします。

▶ **自動**：

信号を検出し、入力ソースを自動的に選択します。

「**HDMIコントロール(RIHD)**」設定を「**オン**」に設定したときに、この設定は自動的に「**自動**」に設定されます。

HDMIスルー機能は、本機がスタンバイ状態においても、HDMI入力端子から入力された映像信号を、HDMI接続したテレビや他機器に出力します。スタンバイモードでHDMIスルー機能が有効になると、**HDMI THRU**インジケーターが点灯し、HDMI表示がうす暗く点灯します。詳しくは接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

ご注意

- 「**HDMI入力**」に割り当てられている入力ソースのみに有効です（➔ P.51）。
- HDMIスルー機能の使用中は、本機がスタンバイ状態でも電力消費が増大しますが、CECに対応したテレビを使っていて、以下の場合は電力消費を低減できます：
  - テレビがスタンバイ状態になっている。
  - テレビ番組を視聴している。
- 「**自動**」に設定した場合、接続した機器によっては正しい入力ソースを選択しない場合もあります。
- 「**HDMIコントロール(RIHD)**」設定を「**オフ**」にした場合、この設定は連動して「**オフ**」に設定されます。

■ テレビオーディオ出力

▶ オフ
▶ オン

HDMI端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。本機のHDMI 出力端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、本機の電源がオンの状態でテレビのスピーカーから音声を聴きたいときなどに設定します。通常は「**オフ**」にしておいてください。
「**HDMIコントロール(RIHD)**」の設定が「**オン**」の場合、自動的に「**自動**」となり「**オン**」、「**オフ**」の設定は出来ません（➔ P.68）。

ご注意

- 「**テレビオーディオ出力**」が「**オン**」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。その場合、**DISPLAY**（ディスプレイ）ボタンを押すと、表示部に「**TV Speaker**（スピーカー）」が表示されます。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「**オン**」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- 「**テレビオーディオ出力**」または、「**HDMIコントロール(RIHD)**」の設定が「**オン**」になっていて、ご利用のテレビのスピーカーを通してお聴きになっているときに（➔ P.22）、本機の**MASTER VOLUME**（マスター ボリューム）つまみを操作すると、本機の左右フロントスピーカーから音声が出力されます。音声を出力させたくないときは、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。
- 「**オン**」に設定してHDMI以外の入力を選んでいるときは、リスニングモードを変更できません。
- 「**モニター出力設定**」（➔ P.50）で「**両方（メイン）**」または「**両方(サブ)**」に設定をしていて、それぞれの優先のHDMI出力端子に接続したテレビから音声が出力できない場合は、本機のスピーカーから音声が出ます。

■ オーディオリターンチャンネル

▶ オフ
▶ 自動：
テレビチューナーの音声信号を本機の**HDMI OUT MAIN**端子に送ることができます。

オーディオリターンチャンネル（ARC）は、HDMIで接続したテレビの音声信号を、本機の**HDMI OUT MAIN**端子に送る機能です。この機能を使用するには、お使いのテレビがARC機能に対応している必要があります。
HDMIケーブルでテレビと本機を接続するだけで、本機でテレビの音を楽しんだり、本機に接続したAV機器の映像や音をテレビに出力することができます。
ARC機能を使用するには、まず入力切換で「**TV/CD**」を選択します。次に「**HDMIコントロール(RIHD)**」を「**オン**」に設定し、「**オーディオリターンチャンネル**」設定を「**自動**」に設定してください。
「**HDMIコントロール(RIHD)**」設定を初めて「**オン**」に設定したときに、この設定は自動的に「**自動**」に設定されます。

ご注意

- 「**オーディオリターンチャンネル**」設定を「**自動**」に設定した場合、**TV/CD**入力セレクタの「**音声入力**」は「**ARC**」に切り換わります（➔ P.65）。
- 「**オーディオリターンチャンネル**」設定は、「**HDMIコントロール(RIHD)**」設定を「**オン**」に設定しているときしか設定できません。

■ リップシンク

▶ オフ
▶ オン

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

ご注意

- リップシンク機能はHDMI Lip Sync対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。
- 「**モニター出力設定**」（➔ P.50）で「**HDMIメイン**」、「**両方（メイン）**」または「**両方**」に設定をしているとき、**HDMI OUT MAIN**端子に接続したテレビに合わせて補正されます。また、「**HDMIサブ**」、「**両方(サブ)**」に設定をしているときは、**HDMI OUT SUB**端子に接続したテレビに合わせて補正されます。

「**HDMIコントロール(RIHD)**」、「**HDMIスルー**」、「**オーディオリターンチャンネル**」、の設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、電源を入れ直してください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。

自動スタンバイ

■ 自動スタンバイ

▶ オフ
▶ オン

「**オン**」に設定したとき、映像/音声入力がない状態で本機を30分間操作しないでいると、自動的にスタンバイ状態へ移行します。
スタンバイ状態へ移行する30秒前に、本機表示部とメニュー画面に「**Auto Standby**」と表示されます。

ご注意

- この設定を「**オン**」にした場合、ソースによっては、再生中にスタンバイ状態に移行することがあります。
- 別室（ゾーン）への出力をオンにしている場合、自動スタンバイは、作動しません。

ネットワーク

ネットワーク設定を変更する場合は、変更後に「**設定保存**」を実施する必要があります。

本機をホームネットワーク（LAN（ラン））に接続して使えるようにするためにネットワーク設定をする必要があります。
ネットワーク設定を変更する場合は、変更後に「**設定保存**」を実施する必要があります。
DHCPでホームネットワーク（LAN）を構築している場合は、「**DHCP**」を「**有効**」にすれば、ホームネットワーク（LAN）で使用できるようになります。（初期設定では、この状態になっています。）
各機器に固定IPアドレスを割り当てている場合は、「**IPアドレス**」で本機にIPアドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなどお使いのホームネットワーク（LAN）に関する情報を入力する必要があります。

■ MAC（マック）アドレス

本機のMACアドレスを確認できます。この値は機器固有のもののため、変更することはできません。

■DHCP

- ▶有効
- ▶無効

この設定で本機のIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーを自動で設定するかどうかを設定します。

ご注意

- 「**無効**」を選んだ場合、「**IPアドレス**」、「**サブネットマスク**」、「**ゲートウェイ**」、「**DNSサーバー**」を手動で設定してください。

■IPアドレス

- ▶Class A:
  「10.0.0.0」～「10.255.255.255」
- ▶Class B:
  「172.16.0.0」～「172.31.255.255」
- ▶Class C:
  「192.168.0.0」～「192.168.255.255」

ISPから提供されたIPアドレスを入力してください。
ほとんどのルータはClass Cを使用します。

■サブネットマスク

ホームネットワーク（LAN）のサブネットマスクを表示または設定します。

■ゲートウェイ

ホームネットワーク（LAN）のゲートウェイアドレスを表示または設定します。

■DNSサーバー

ホームネットワーク（LAN）のDNS サーバー（プライマリ）を表示または設定します。

■プロキシURL

プロキシサーバーのURLを入力します。URLが不明な場合は、ご使用のISPにお問い合わせください。

■プロキシポート

この設定は上記「**プロキシURL**」設定が入力されているときだけ機能します。プロキシサーバーのポート番号を入力します。ポート番号が不明な場合は、ご使用のISPにお問い合わせください。

■ネットワークコントロール

- ▶有効
- ▶無効

ネットワークを通じて本機をコントロールできるかどうかを設定します。

ご注意

- 「**有効**」に設定している場合、スタンバイ状態時にNET表示がうす暗く点灯します。この場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。

■コントロールポート

- ▶「49152」～「65535」

ネットワークを通じて本機をコントロールするためのネットワークポートです。

ご注意

- 「**ネットワークコントロール**」を「**無効**」に設定している場合、この設定は選べません。

ファームウェアアップデート

詳しくは、「ファームウェアの更新について」をご覧ください（➔ P.97）。

ご注意

- オンキヨーホームページからご案内があった場合のみ実行してください。最新の情報はオンキヨーホームページをご覧ください。
- ファームウェアのアップデートには約60分かかります。

■バージョン

現在のファームウェアのバージョンが表示されます。

■AVセンター

- ▶**ネットワーク経由**：
  本機のファームウェアをインターネット経由でアップデートすることができます。アップデートを実行するときは、インターネットへの接続を確認してください。
- ▶**USB経由**：
  アップデート用ソフトウェアを保存したUSBメモリーを、本機のUSBポートに接続してアップデートすることができます。

本機のファームウェアをアップデートすることができます。アップデート中は本機の電源をオフにしないでください。

■ユニバーサルポート

- ▶**ネットワーク経由**：
  ユニバーサルポートオプションドックのファームウェアをインターネット経由でアップデートすることができます。アップデートを実行するときは、インターネットへの接続を確認してください。
- ▶**USB経由**：
  アップデート用ソフトウェアを保存したUSBメモリーを、本機のUSBポートに接続してアップデートすることができます。

ユニバーサルポートオプションドックのファームウェアをアップデートすることができます。アップデート中は本機の電源をオフにしないでください。

ご注意

- **UNIVERSAL PORT**端子にドックが接続されていないときは、アップデートは実行されません。

メインメニュー　リモコン設定

リモコン登録

「リモコンコードを検索する」をご覧ください（➔ P.82）。

アクティビティ設定

オンスクリーンセットアップメニューを使って、簡単マクロモードで使用できる一連の動作（マクロ）を設定することができます（➔ P.47）。

まずはじめに、設定するアクティビティ（「My Movie」、「My TV」、「My Music」）を選択します。

■入力ソース

- BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、PC、AUX、TUNER、TV/CD、PHONO、PORT、NET、USB

入力を選択します。

■TV電源入

- **有効**：
  テレビの電源をオンします。
- **無効**：
  テレビの電源をオンしません。

ACTIVITIES（アクティビティー）ボタンを押したときにテレビの電源をオンするかどうかを選びます。

■入力ソース機器電源入

- **有効**
- **無効**

ACTIVITIESボタンを押したときに入力機器の電源をオンするかどうかを選びます。

■AVセンター電源入

- **有効**
- **無効**

ACTIVITIESボタンを押したときにAVセンター（本機）の電源をオンするかどうかを選びます。

■AVセンターセレクター変更

- **有効**
- **無効**

ACTIVITIESボタンを押したときにAVセンター（本機）の入力を切り換えるかどうかを選びます。

■入力ソース機器 再生

- **有効**
- **無効**

ACTIVITIESボタンを押したときに入力機器の再生を開始するかどうかを選びます。

メインメニュー　ロック設定

お好みで、セットアップメニューのロックで設定を保護することができます。

■セットアップ

- **ロック**
- **解除**

「**ロック**」を選択した場合、すべての設定が変更できなくなります。

音声設定を使う

ホームメニューからさまざまな音声設定を変更できます(➔ P.45)。

1 **AMPボタンを押して、HOMEボタンを押す**

2 **▲/▼ボタン、ENTERボタンを押して、「オーディオ」を選び、▲/▼/◄/►ボタンを押して、項目を選ぶ**

ご注意
- 以下の場合は設定できません：
  - 「**テレビオーディオ出力**」設定を「**オン**」にしている(➔ P.69)。
  - 「**HDMI コントロール (RIHD)**」を「**オン**」にして(➔ P.68)、テレビのスピーカーで聴いている場合。

サウンドプログラム

■ サウンドプログラム
- ステレオ信号 1、ステレオ信号 2、ステレオ信号 3、マルチチャンネル信号 1、マルチチャンネル信号 2、マルチチャンネル信号 3
- オフ

「**サウンドプログラム編集**」で登録した設定を選択します。(➔ P.60)

ご注意
- アナログマルチチャンネル音声が選ばれているときは、使用できません。
- 入力セレクタを変更すると、「**サウンドプログラム**」設定は「**オフ**」に切り換わります。

トーンコントロール設定

■ 低域（Bass）
- −10dB～0dB～+10dB

フロント、フロントワイド、フロントハイ、センター、サラウンド、サラウンドバック、サブウーファーの低音の音質を、2dBずつ調整できます。

■ 高域（Treble）
- −10dB～0dB～+10dB

フロント、フロントワイド、フロントハイ、センター、サラウンド、サラウンドバックの高音の音質を、2dBずつ調整できます。

「Direct」、「Pure Audio」、「THX」以外のリスニングモード時に、左右フロント、フロントワイド、フロントハイ、センター、サラウンド、サラウンドバック、サブウーファーの音質を調整することができます。

本機で操作する場合

1 **TONEボタンをくり返し押して、各スピーカーとサブウーファーの「Bass」または「Treble」を選ぶ**

2 **+/−ボタンを使って、調整を行う**

ご注意
- アナログマルチチャンネル音声が選ばれているときは、調整できません。

スピーカーの音量

■ サブウーファー 1
- 0.5dB単位で、−15.0dB～0.0dB～+12.0dB

■ サブウーファー 2*1
- 0.5dB単位で、−15.0dB～0.0dB～+12.0dB

■ センター
- 0.5dB単位で、−12.0dB～0.0dB～+12.0dB

音声を聴きながら、スピーカーレベルを調整することができます。調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると、設定前の内容に戻ります。
設定を記憶するには、「スピーカー音量レベル」(➔ P.55）の設定画面を表示させてから、本機をスタンバイ状態にしてください。

ご注意
- ミューティング機能が働いているときは調整できません。
- ヘッドホンを接続している場合は、使用できません。
- 「スピーカー詳細設定」で「**無し**」に設定したスピーカー(➔ P.54）は調整できません。

*1 「**サブウーファー**」が「**1ch**」の場合は「**サブウーファー 2**」は設定できません。

Dolby Volumeの設定

■Dolby Volume

「音の設定・調整」の「Dolby Volume」をご覧ください（➔ P.58）。

ご注意

- 以下の場合は設定できません：
  - Pure Audio または Direct リスニングモードが選択されている。
  - マルチチャンネル入力が選択されている。
  - THX リスニングモード選択時に、「**Loudness Plus**」および「**THX 設定優先**」がそれぞれ「**オン**」、「**有り**」に設定されている。
- 「Dolby Volume」を「**オン**」に設定すると、すべての入力の「**Dynamic EQ**」と「**Dynamic Volume**」が「**オフ**」に設定されます。
- 「**サウンドプログラム**」設定を有効にしている場合は、「**サウンドプログラム編集**」から設定を変更します。

Audysseyの設定

■Audyssey

「**入力ソースの設定**」の「**Audyssey**」をご覧ください（➔ P.60）。

■Dynamic EQ

「**入力ソースの設定**」の「**Dynamic EQ**」をご覧ください（➔ P.61）。

■Dynamic Volume

「**入力ソースの設定**」の「**Dynamic Volume**」をご覧ください（➔ P.61）。

ご注意

- 以下の項目すべてに該当する場合、この機能を使用できます：
  - 「**Audyssey MultEQ XT32 通常測定**」を行っている。
  - Pure Audio または Direct リスニングモード以外のリスニングモードを選択している。
  - ヘッドホンを接続していない。
  - アナログマルチチャンネル入力が選択されていない。
- この設定は、各入力セレクタごとに設定できます。
- THXリスニングモード選択時に、「**Loudness Plus**」および「**THX 設定優先**」がそれぞれ「**オン**」、「**有り**」に設定されているとき、「**Dynamic EQ**」と「**Dynamic Volume**」は選べません。
- 「**Dynamic EQ**」を「**オン**」にしたときや「**Dynamic Volume**」を有効に設定したときは、「**Dolby Volume**」は「**オフ**」になります。
- 「**サウンドプログラム**」設定を有効にしている場合は、「**サウンドプログラム編集**」から設定を変更します。

レイトナイト

■レイトナイト

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスを再生するときは、以下の項目から選びます。

- ▶ **オフ**
- ▶ **弱**：
  音量幅を小さくします。
- ▶ **高**：
  音量幅をさらに小さくします。

ドルビー TrueHD を再生するときは、以下の項目から選びます。

- ▶ **自動**：
  レイトナイト機能は、自動で「**オン**」か「**オフ**」に設定されます。
- ▶ **オフ**
- ▶ **オン**

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHD再生時のみに効果があります。

劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聴くには、音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聴こえます。夜中などに、音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。

この機能は、音声信号が入力されているときに設定されます。また、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

ヒント

- 本体の**LATE NIGHT**ボタンでも操作することができます。

ご注意

- コンテンツ製作者の意図により、レイトナイトのモードを変えても効果に変化のないものもあります。
- レイトナイト機能は、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHDソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト機能は、本機をスタンバイ状態にすると「**オフ**」に設定されます。ドルビー TrueHDソースの場合は、「**自動**」に設定されます。

ミュージックオプティマイザー

■ Music Optimizer

- **オフ**
- **オン**

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に効果があります。入力ソースごとに設定を記憶します。

ヒント

- 「**オン**」に設定した場合、**M.Opt**表示が点灯します。

ご注意

- この機能は、サンプリング周波数が48 kHz 以下のPCM信号とアナログ信号に働きます。
- リスニングモードが「Pure Audio」と「Direct」のときは、効果がありません。
- この設定は、各入力セレクタごとに設定されます。
- アナログマルチチャンネル入力が選ばれているときは設定できません。
- 「**サウンドプログラム**」設定を有効にしている場合は、「**サウンドプログラム編集**」から設定を変更します。

Re-EQ

高音域が強調されたサウンドトラックを、ホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。

■ Re-EQ

- **オフ**
- **オン**

この機能が使用できるリスニングモードは、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、マルチチャンネル、DTS、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、DTS-HD マスターオーディオ、DTS Express、DSD、ドルビー EX、ドルビー Pro Logic IIz Height、ドルビー PLIIx Movie、DTS Neo:X Cinemaです。

ヒント

- 本体の**Re-EQ**ボタンでも操作することができます。

■ Re-EQ(THX)

- **オフ**
- **オン**

この機能が使用できるリスニングモードは、THX Cinema、THX Surround EX、THX Ultra2 Cinemaです。

ご注意

- Re-EQの機能は各リスニングモードに保存されます。ただし、THXリスニングモード選択時に、本機の電源を切ると、「**オン**」に戻ります。
- ヘッドホンを接続している場合は、使用できません。

センターの音像位置を調整する

Screen Centered Dialogはセリフなどのセンタースピーカーの音像を、フロントハイスピーカーを使用してテレビ画面の高さに合わせて上方向へ移動する機能です。

■ Screen Centered Dialog

- 0
- 1～5

数値が大きくなるにしたがい、センターの音像は上方向に移動します。

ご注意

- 対応するリスニングモードが選択されている場合に設定できます。
- ヘッドホンを接続している場合は、使用できません。

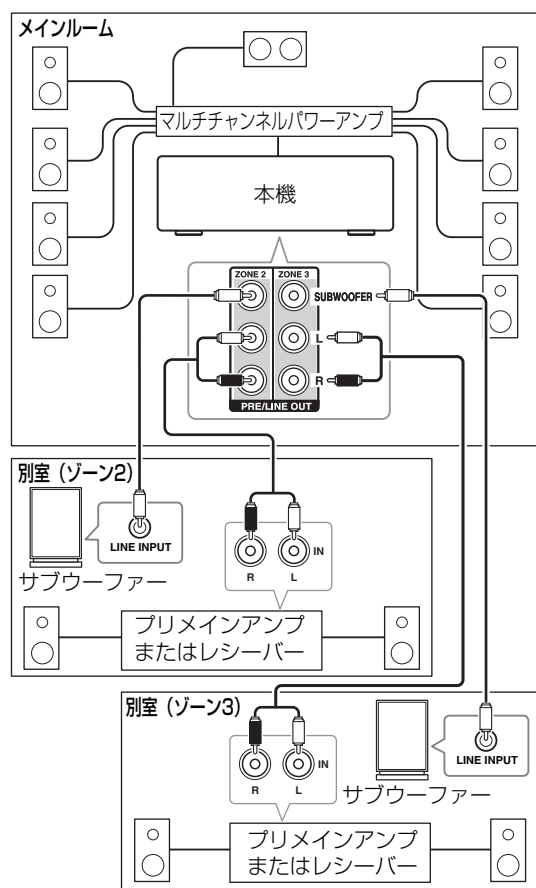
別室（ゾーン2/ゾーン3）で音楽を鑑賞する

別室用のスピーカーやアンプを接続して異なるソースをお楽しみいただくことができます。

ゾーンの接続をする

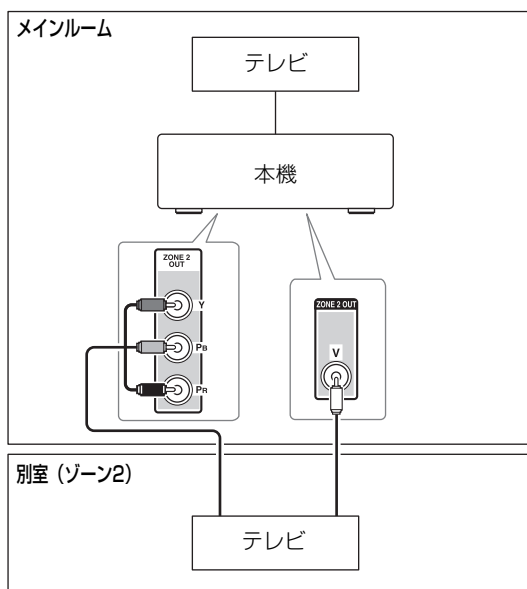
別室用のスピーカーを接続したプリメインアンプまたはレシーバーを、本機に接続する。

プリメインアンプまたはレシーバーを接続する

メインルームで9.2チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。

ヒント

- プリメインアンプやレシーバーと接続するときは、お買い上げ時の設定のままでご使用いただけます。
- 音量は別室で使用するプリメインアンプまたはレシーバーで調整してください。音量調節できないパワーアンプと接続するときは、本機で調整することもできます。ゾーンの音量については「マルチゾーン」をご覧ください（➔ P.68）。

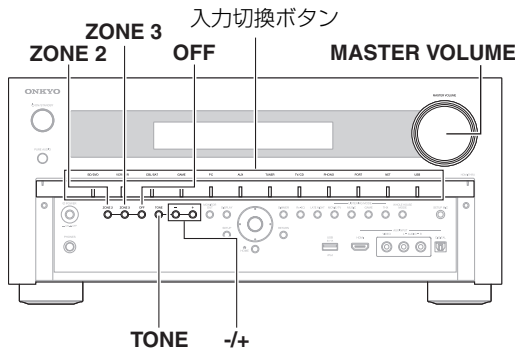
別室（ゾーン2）にビデオ出力する

ビデオ（コンポジット、コンポーネント）の映像信号を別室（ゾーン2）のテレビでご覧いただけます。

ご注意

- **COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUT**を使用する場合、「**ゾーン2コンポーネントビデオ**」設定を「**有り**」に設定してください（➔ P.68）。
- 本機の**COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUT**端子からは、本機のビデオ入力（コンポーネント）端子に接続された機器からの映像信号が出力されます。
- 本機の**ZONE 2 OUT V**端子からは、本機のビデオ入力（V）端子に接続された機器からの映像信号が出力されます。

別室(ゾーン)で音楽を鑑賞する

ここでは、ゾーン2/ゾーン3のオン・オフの方法、入力ソースの設定の方法、音量の調整の方法を説明しています。

本体で操作する

1 **ZONE 2ボタンまたはZONE 3ボタンを押してから、入力切換ボタンを押して入力を選ぶ**

ゾーン2/3がオンになり、Z2/Z3表示が点灯します。

ヒント

• 12Vトリガー信号出力が大きくなります（12Vまで）。

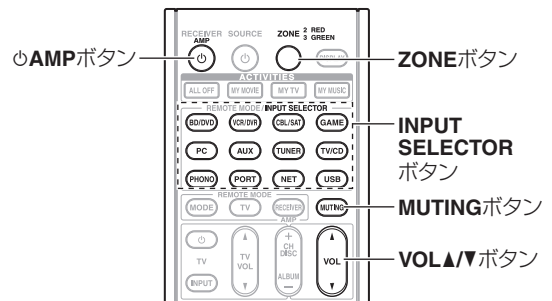
ゾーン2/3とメインルームで同じ入力にするには、**ZONE 2**ボタンまたは**ZONE 3**ボタンを2回押して、「Zone2 Selector：Source（ソース）」または「Zone3 Selector：Source」と表示させます。

2 **ゾーン2/3をオフにするには、ZONE 2ボタンまたはZONE 3ボタンを押してから、OFFボタンを押す**

ゾーン2/3がオフになり、Z2/Z3表示が消灯します。

ヒント

• 12Vトリガー信号出力が小さくなります（0Vまで）。

リモコンで操作する

ご注意

• リモコンの**ZONE**ボタンは、ゾーン2を選んでいるときは赤点灯し、ゾーン3を選んでいるときは緑点灯します。

1 **ZONEボタンをくり返し押してから、⏻AMPボタンを押す**

ゾーン2/3がオンになり、Z2/Z3表示が点灯します。

ヒント

• 12Vトリガー信号出力が大きくなります（12Vまで）。

2 **ZONEボタンをくり返し押してから、INPUT（インプット） SELECTOR（セレクター）ボタンを押して入力を選ぶ**

3 **ゾーン2/3をオフにするには、ZONEボタンをくり返し押してから、⏻AMPボタンを押す**

ヒント

• 12Vトリガー信号出力が小さくなります（0Vまで）。

音量を調整する

■ リモコンで操作する

1 **ZONEボタンをくり返し押す**

2 **VOL（ボリューム） ▲/▼ボタンで音量を調整する**

■ 本体で操作する

1 **ZONE 2ボタンまたはZONE 3ボタンを押す（Z2/Z3表示が点滅します）**

2 **8秒以内にMASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）つまみで音量を調整する**

プリメインアンプまたはレシーバーを接続している場合は、接続した機器側で音量を調整します。

ヒント

•「**ゾーン2出力**」または「**ゾーン3出力**」設定が「**固定**」のときは、**ZONE 2/3 PRE/LINE OUT**では、ゾーン2/3の音量と音質、バランスの調整は効果がありません。

音量を一時的に小さくする

■リモコンで操作する

1 **ZONEボタンをくり返し押し、MUTING（ミューティング）ボタンを押す**

ヒント

- 解除するには再度**ZONE**ボタンを押してから、**MUTING**ボタンを押します。音量を操作することでもミューティングを解除できます。

音質とバランスを調整する

1 **本体のZONE 2ボタンまたはZONE 3ボタンを押す**

2 **TONEボタンをくり返し押して、「Bass（バス）(低音)」、「Treble（トレブル）(高音)」または「Balance（バランス）(バランス)」を選ぶ**

3 **ー/+ボタンを押して、調整する**
- お買い上げ時は「0dB」ですが、ー10dBから+10dBの範囲内で2dBずつ調整できます。
- 左右のスピーカーのバランスを0dBから+10dBの範囲内で2dBずつ調整できます。

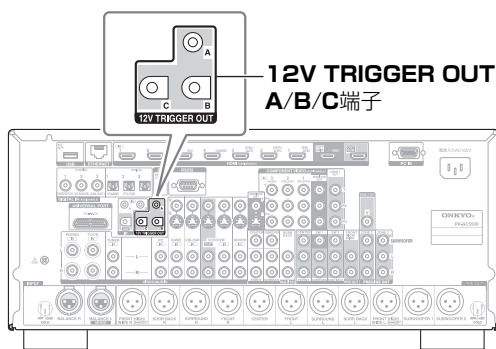
ご注意

- **ZONE 2/3 PRE/LINE OUT**端子では、アナログ信号のみ出力します。デジタル信号の再生はできません。入力ソースが選択されているのに音声が出力されない場合は、アナログ入力に接続されているか確認してください。
- ゾーン2/3への出力がオンになっているときは、RI連動機能は働きません。
- 入力セレクタに**NET**か **USB** を選んでいるときは、メインルームとゾーン2/3で、直前に選択したセレクタが反映されます。
- ゾーン2/3を選択時は、待機時の消費電力が増加します。
- ゾーン2/3への出力中に、本機がスタンバイ状態になると、**Z2/Z3**表示がうす暗く点灯します。
- メインルームでPure Audioリスニングモードを選択しているときに、ゾーン2/3の出力をオンにすると、自動的にDirectに変更されます。
- ゾーン2/3を選択するために**ZONE**ボタンをくり返し押しても、その後に他の**REMOTE MODE**ボタンを押して切り換えた場合は、直前に選択したゾーンが選ばれます。

ゾーン2/3とメインルームの12Vトリガー 信号の設定をする

本機の**12V TRIGGER（トリガー） OUT（アウト）**端子を、接続している機器の12V TRIGGER IN（イン）端子に接続しているとき、入力ごとにどの部屋で使うときにトリガー信号を出力させるのかを設定します。
以下の項目をご覧ください。
「12Vトリガー A/B/C設定」(➔ **P.67**)

ご注意

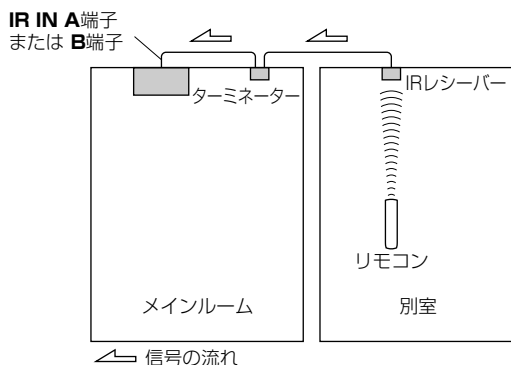
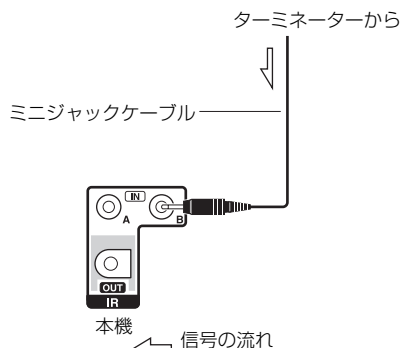
- 接続には抵抗なしのミニプラグケーブルをご使用ください。

12Vトリガー接続をしている機器の電源が入るときに、機器によっては瞬間的に大容量の電流が流れる場合があります。これを防ぐため、メインルームまたはゾーン2/3の電源入力と本機からの12Vトリガー信号出力に時間差をつけることができます。また、電源入力を遅らせることで、不安なノイズ（ボコ音など）を避けることができます。

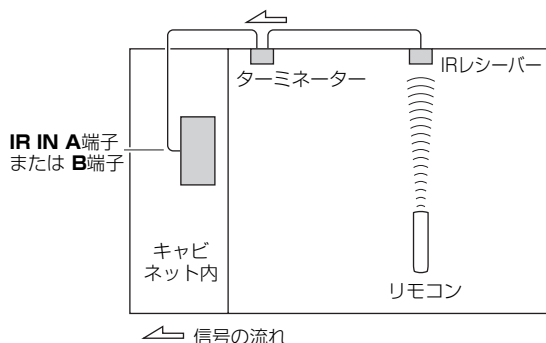
リモコン信号が届かない場合は（マルチルームでリモコンを操作する）

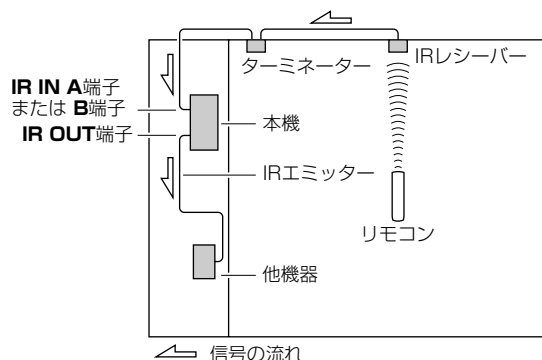
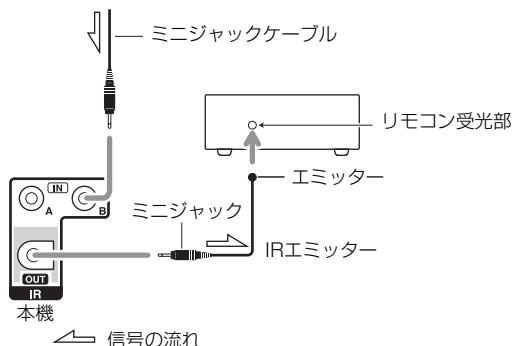
市販のマルチルームキットなどを使用して、本機にリモコン信号が届かない場所からでもリモコン操作をすることができます。

• 別室でホームシアターを楽しんだり、機器をキャビネットに収納している場合などにご利用ください。

リモコンを別室で使用する

リモコンを使用する部屋にIRレシーバーを設置し、IRエミッターのエミッター側（赤外線を発射する部分）を機器のリモコン受光部に取り付けます。

ミニジャックケーブルがある場合は、**IR IN A**端子または**B**端子のいずれかに接続します。
IRエミッターを取り付ける代わりにミニジャックの片方をターミネーターに接続し、もう一方を本機の**IR IN**端子に接続してもかまいません。

本機をキャビネットなどの中に入れて使用する

リモコン信号を受信しやすい場所にIRレシーバーを設置し、IRエミッターをキャビネット内に取り付けます。
取り付けについての詳細は添付の取扱説明書等をご覧ください。

マルチルームキットを他機器に接続して使用する

ターミネーターに、IRレシーバーとIRエミッターを接続し、ターミネーターのスイッチを適切な位置に合わせます。（システムに添付の取扱説明書等をご覧ください。）
電源アダプターをターミネーターに接続します。

IRエミッターは、本機の**IR OUT**端子に接続します。

オンキヨー製ドックでiPod/iPhoneを再生する

オンキヨー製ドックを使う

ドックは別売りです。
ドックの最新情報については、弊社ホームページをご覧ください。
http://www.jp.onkyo.com
ご使用になる前に、必ずご使用のiPod/iPhoneをiTunes経由で最新のバージョンにアップデートしてください。
対応しているiPod/iPhoneのモデルについては、オンキヨー製ドックの取扱説明書をご覧ください。

UP-A1ドック

UP-A1ドックを使うと、iPod/iPhoneに保存した音楽、写真、ビデオを本機で再生し、すばらしいサウンドを楽しむことができます。
本機のリモコンで、iPod/iPhoneの基本的な操作を行うことができます。

■システム機能

本機が動作するまでに数秒かかる場合があり、最初の曲の冒頭の数秒が聴こえないことがあります。

オートパワーオン機能
本機がスタンバイ状態のときにiPod/iPhoneを再生すると、本機はiPod/iPhoneを接続した入力に切り換わり、iPod/iPhoneの再生が始まります。

ダイレクトチェンジ動作
本機が他の入力のときリモコンでiPod/iPhoneを再生すると、iPod/iPhoneを接続した入力に自動的に切り換わり、iPod/iPhoneの再生をします。

本機リモコン操作
本機のリモコンで、iPod/iPhoneの基本的な操作を行うことができます（➔ P.80）。

■操作に関する注意

- iPod/iPhoneとの連動動作は、iPod/iPhoneの機種や世代により対応していないものがあります。
- 他の入力を選択する前に、iPod/iPhoneの再生を停止して、本機が誤ってiPod/iPhone入力ソースを選ばないようにしてください。
- iPod/iPhoneに他のアクセサリーが接続されていた場合、本機は適切に入力を選ぶことができないことがあります。
- iPod/iPhoneをUP-A1ドックにセットしている間は、音量調整は機能しません。ドックにセットされたiPod/iPhoneの音量調整を行ったときは、ヘッドホンを再び接続する前に、音量が高くないか確かめてください。
- 再生中のiPod/iPhoneをUP-A1ドックにセットした場合は、オートパワーオン機能は機能しません。
- 別室（ゾーン）への出力をオンにしているときは、オートパワーオン機能とダイレクトチェンジ動作は使用できません。
- オートパワーオン機能、ダイレクトチェンジ動作を有効にするには「**チャージモード**」を「**オン**」に設定してください（➔ P.66）。

■iPod/iPhoneのアラーム機能を使う

iPod/iPhoneのアラーム機能で、iPod/iPhoneと本機を設定した時間に自動的に立ち上げることができます。本機の入力は、自動的に**PORT**（ポート）に設定されます。

ご注意
- この機能を使用するには、iPod/iPhoneドックに対応したiPod/iPhoneで、iPod/iPhoneドックは本機に接続されていなければなりません。
- この機能は、Standard（スタンダード） mode（モード）でないと動作しません（➔ P.81）。
- この機能を使用するときは、必ず本機のボリュームを適当な音量に設定してください。
- 別室（ゾーン）への出力をオンにしているときは、使用できません。
- iPod/iPhone内蔵の効果音を鳴らす設定の場合には、連動しません。
- アラーム機能を有効にするには「**チャージモード**」を「**オン**」に設定してください（➔ P.66）。

■iPod/iPhoneのバッテリーを充電する

本機に UP-A1 ドックを接続し、本機がオンまたはスタンバイ状態で、UP-A1 ドックに iPod/iPhone をセットすると、iPod/iPhone のバッテリーを充電します。
本機がスタンバイ状態時の iPod/iPhone への電源供給の設定を指定できます（➔ P.66）。

ご注意
- 充電機能を使用すると、スタンバイ状態での消費電力が増加します。

■本機に表示されるメッセージについて

次のいずれかのメッセージが本機表示部に表示されない場合は、iPod/iPhoneが正しく接続されているかご確認ください。

- PORT（ポート） Reading（リーディング）
  ドックとの接続をチェックしています。
- PORT Not（ノット） Support（サポート）
  接続されたドックはサポートされていません。
- PORT UP-A1
  UP-A1ドックにiPod/iPhoneがセットされました。

ご注意
- UP-A1認識後に数秒間、本機の表示部に「**UP-A1**」と表示されます。

RIドック

RIドックを使うと、簡単な操作で、iPod/iPhoneに保存した音楽をすばらしいサウンドで再生したり、iPod/iPhoneのスライドショーや画像をテレビ画面で楽しめます。また、画面表示（OSD）を見ながら、iPod/iPhoneのコンテンツをテレビ画面で確認・検索・選択でき、付属のリモコンで、ソファにゆったり座ったままiPod/iPhoneを操作することが可能です。本機のリモコンでも操作できます。

■操作をはじめる前に

1. 本機のリモコンを初めて使う場合は、該当するリモコンコードを登録してからご使用ください（➔ **P.83**）。
2. RIドックは、**RI**ケーブルで本機に接続してください（➔ **P.25**）。
3. RIドックのRI MODE（モード）切換スイッチを「HDD」または「HDD/DOCK（ドック）」に切り換えてください。
4. 本機の入力表示を「**DOCK**」にしてください（➔ **P.46**）。

■システム機能

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のときにiPod/iPhoneを再生すると、本機はiPod/iPhoneを接続した入力に切り換わり、iPod/iPhoneの再生が始まります。

ダイレクトチェンジ動作

本機が他の入力のとき、リモコンでiPod/iPhoneを再生すると、iPod/iPhoneを接続した入力に自動的に切り換わり、iPod/iPhoneの再生をします。

本機リモコン操作

本機のリモコンで、iPod/iPhoneの基本的な操作を行うことができます。

iPod/iPhoneアラーム機能

iPod/iPhoneのアラーム機能を利用して再生を開始すると、指定した時刻に本機の電源が入り、iPod/iPhoneが入力ソースに選ばれます。

システムオフ

本機の電源を切ると、自動的にRIドックの電源がオフになります。

ご注意

- 映像の再生中やアラーム音を再生する設定をしている場合は、連動操作は機能しません。
- iPod/iPhoneに他のアクセサリーが接続されていた場合、本機は適切に入力を選べないことがあります。
- この機能は、Standard mode（スタンダード モード）でないと動作しません（➔ **P.81**）。

■操作に関するご注意

- 本機のボリュームつまみで、再生音量を調整してください。
- iPod/iPhoneがRIドックにセットされている間は、音量操作は効果がありません。ドックにセットされたiPod/iPhoneの音量調整を行ったときは、ヘッドホンを再び接続する前に、音量が高くないか確かめてください。

ご注意

- 第5世代のiPodとiPod nanoでは、再生中はクリックホイールが使えません。

iPod/iPhoneを操作する

iPod/iPhoneドックのリモコンコードを登録した**REMOTE MODE**（リモート モード）ボタンを押すことで、iPod/iPhoneドックにセットされたiPod/iPhoneを操作することができます。
リモコンコードの入力方法については、「リモコンコードを登録する」をご覧ください（➔ **P.83**）。
詳しくは、ドックの取扱説明書をご覧ください。

UP-A1ドック

PORT（ポート）ボタンは、**UNIVERSAL PORT**（ユニバーサル ポート）端子に接続されたiPod/iPhoneドックを操作するため、あらかじめリモコンコードが登録されています。
入力ソースに「**PORT**」を選ぶと、iPod/iPhoneを操作できます。

RIドック

- RIドックのRI MODEスイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に設定してください。
- ⏻**SOURCE**ボタンは、（**RI**連動なし）リモコンコードでは機能しない場合があります。この場合は、**RI**接続を行い、（**RI**専用）リモコンコード**81993**を入力します。

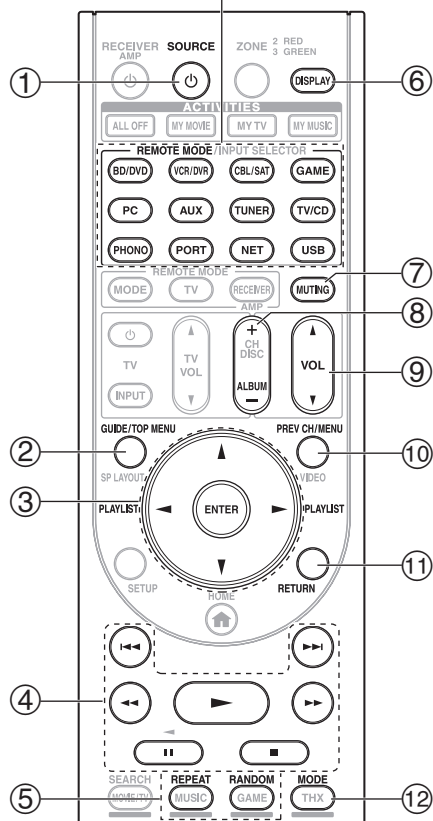
■RI連動を使う場合

この場合は、**RI**接続を行い、リモコンコード**81993**（**RI**専用）を入力します。

- 本機の入力表示を「**DOCK**」に設定してください（➔ **P.46**）。

■RI連動を使わない場合

まず、リモコンコード**82990**を入力してください（➔ **P.83**）。

✔：使用できるボタン

ボタン名 ＼ オンキヨー製ドック		UP-A1ドック	RIドック
①	⏻SOURCE		✔
②	GUIDE/TOP MENU*1		✔
③	▲/▼/◄/►、ENTER	✔*2	✔
	PLAYLIST ◄/►	✔*3	✔
④	►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙	✔	✔
⑤	REPEAT	✔	✔
	RANDOM	✔	✔
⑥	DISPLAY	✔*4	✔*5
⑦	MUTING	✔	✔
⑧	ALBUM +/−	✔*3	✔
⑨	VOL ▲/▼	✔	✔
⑩	PREV CH/MENU		✔
⑪	RETURN	✔	
⑫	MODE	✔*6	✔*7

- iPod/iPhoneの機種・世代またはRIドックによっては、特定のボタンが意図したとおりに機能しない場合もあります。
- iPod/iPhoneおよびRIドックの操作の詳細については、取扱説明書をご覧ください。

*1 DS-A1 RI ドックの場合、**GUIDE/TOP MENU**（ガイド/トップ メニュー）ボタンは Mode（モード）ボタンとして機能します。

*2 Extended（エクステンド） Mode では（*6 をご覧ください）、◄/► ボタンをページ移動ボタンとして使います。
ページモードでは、曲名リスト、アーティストリストなどの項目が非常に多い場合でも、目的の曲をすばやく見つけることができます。

*3 Extended Mode では（*6 をご覧ください）、このボタンは動作しません。

*4 Extended Mode では（*6 をご覧ください）、**DISPLAY**（ディスプレイ） ボタンを押すと曲情報を切り換えて表示します。Standard（スタンダード） Mode では（*6 をご覧ください）、**DISPLAY** ボタンを押すとバックライトが数秒間点灯します。

*5 **DISPLAY** ボタンを押すと、バックライトが数秒間点灯します。

*6 **MODE** ボタンを押して、以下のモードを変更してください。
Standard Mode
テレビ画面には何も表示されませんが、iPod/iPhone のディスプレイを見ながら内容を選択および操作できます。
Extended Mode（音楽）
音楽コンテンツ（アーティスト、アルバム名、曲名など）がテレビ画面に表示され、画面を見ながら曲の検索と選択ができます。
Extended Mode（映像）
映像コンテンツ（映画、ミュージックビデオ、テレビ番組、ビデオポッドキャスト、レンタル）がテレビ画面に表示され、画面を見ながら映像の検索と選択ができます。

*7 Resume（レジューム） Mode
レジューム機能を利用すると、RI ドックから iPod/iPhone を取り外したときに再生していた曲から再生を開始できます。

ご注意

- Extended Modeでは（*6 をご覧ください）、以下のようになります。
  - iPod/iPhone を直接操作できません。
  - iPod/iPhone 内のコンテンツを取得するのに時間がかかることがあります。
  - メニュー画面は、本機と **HDMI OUT MAIN** 端子に接続しているテレビのみに表示されます。
  - 半角カナは表示されません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

本機のリモコンで他の製品を操作する

本機のリモコンを使って、他社製の機器も含め、お手持ちのAV機器を操作できます。ここでは、DVDプレーヤー、テレビ、CDプレーヤーなど、操作したい機器のリモコンコードの入力方法について説明します。

- 他機のリモコンから指定した操作を学習させる（➔ P.89）
- マクロ機能を使って連続した操作を学習させる（➔ P.90）

すでに登録されているコードについて

REMOTE MODEボタンには、あらかじめ下記機器のコードが登録されていますので、これらの機器が操作できます。該当する機器の操作についてはリモコンコードを登録する必要はありません。
これらの機器の操作方法については、該当ページをご覧ください。

BD/DVDボタン：オンキヨー製DVDプレーヤー（➔ P.84）
TV/CDボタン：オンキヨー製CDプレーヤー（➔ P.84）
PORTボタン：オンキヨー製ユニバーサルポートオプション（➔ P.80）

リモコンコードを検索する

OSDセットアップメニューから、最適なリモコンコードを検索することができます。

ご注意

- この機能は、OSDセットアップメニューのみ使用して行うことができます。

1 AMPボタンを押して、SETUPボタンを押す
メインメニューが表示されます。

ヒント

- テレビの入力を、本機に接続した入力へ切り換えてください。

2 ▲/▼ボタンで「リモコン設定」を選び、ENTERボタンを押す

3 ▲/▼ボタンで「リモコン登録」を選びENTERボタンを押す

4 ▲/▼ボタンでリモートモードを選び、ENTERボタンを押す
カテゴリーの選択画面が表示されます。

5 ▲/▼ボタンでカテゴリーを選び、ENTERボタンを押す
ブランド名の入力画面が表示されます。

6 ▲/▼/◄/►ボタンで文字を選び、ENTERボタンを押す
ブランド名の入力を、1文字目から3文字目までくり返してください。

3文字目を入力したあと「Search」を選び、**ENTER**ボタンを押します。
検索後、ブランド名のリストが表示されます。

7 ▲/▼ボタンでブランド名を選び、ENTERボタンを押す

手順8に進んでください。

ブランド名が表示されなかった場合は、ネットワーク上のデータベースにアクセスさせるために►ボタンを押して「Search DB」を選び、ENTERボタンを押す
本機がデータベースにアクセスし検索します。検索後ブランド名のリストが表示されます。

ヒント

- データベースにアクセスできない場合「**データベースに接続できません。**」と表示されます。**ENTER**ボタンを押して元の画面に戻ってください。
- ブランド名が表示されなかった場合は►ボタンを押して「Not Listed」を選び、**ENTER**ボタンを押してください。

8 ▲/▼ボタンで「品番で探す（ネットワーク経由）」を選び、ENTERボタンを押す
品番入力画面が表示されます。

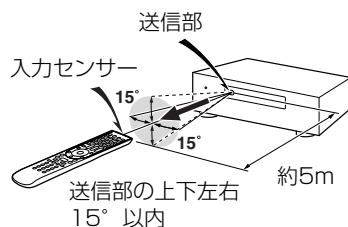
ネットワーク接続をしていない場合、品番がわからない場合は、「スキップ」を選び、ENTERボタンを押す
「**スキップ**」を選んだ場合、手順11に進んでください。

9 ブランド名と同様の方法で入力する（手順6）

ヒント

- 3文字目を入力したあと、**ENTER**ボタンを押してください。
- スペースは入力できません。

10 ▲/▼ボタンで品番を選び、ENTERボタンを押す
ブランド名が表示されなかった場合は►ボタンを押して「Not Listed」を選び、**ENTER**ボタンを押してください。
検索終了後、リモコンコード転送のメッセージが表示されます。

11 リモコンを本機の送信部に向け、ENTERボタンを押す

12 送信完了後、「成功しました」と表示されると転送が完了です

手順15に進んでください。

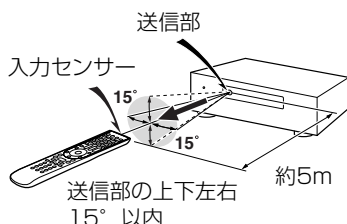
モデル名が検索できなかった場合、何かのキーを押して機器が反応するかテストしてください (カーソルと**ENTER**を除く)。

- 「 / 」の数値は、候補コードとブランドの合計数です。

13 正しく動作した場合、AMPボタンを押し、▲/▼ボタンで「動作する」を選び、ENTERボタンを押す

正しく動作しない場合、AMPボタンを押し、▲/▼ボタンで「動作しない(再試行)」を選び、ENTERボタンを押す

次のコードが表示されます。手順11からくり返してください。

14 ENTERボタンを押し、決定したコードを転送する

15 ENTERボタンを押す

カテゴリ選択メニューに戻ります。

SETUPボタンを押して、リモコン登録を終了してください。

リモコンコードを登録する

操作したい機器ごとにコードを入力する必要があります。

1 リモコンコード表で、該当するリモコンコードを探す（➔ P.85）

コードはカテゴリー別に分類されています（DVDプレーヤー、テレビなど)。

2 コードを登録したいREMOTE MODEボタンを押しながら、DISPLAYボタンを3秒以上押す

REMOTE MODEボタンが点灯します。

ご注意

- **AMP**ボタンと**ZONE**ボタンには、リモコンコードを入力できません。
- **TV**ボタンには、テレビのリモコンコードしか入力できません。
- **AMP**ボタン、**TV**ボタン、**ZONE**ボタンを除き、**REMOTE MODE**ボタンはどのカテゴリーのリモコンモードでも登録できます。ただし、**REMOTE MODE**ボタンは、入力切換ボタンも兼ねています(➔ P.28)。**REMOTE MODE**ボタンにコードを登録するときは、操作したい機器を接続している端子と同じモードにコードを登録してください。たとえば、CDプレーヤーをCD入力端子に接続しているときは、**TV/CD**ボタンにそのCDプレーヤーのコードを登録してください。

3 30秒以内に、数字ボタンで、5桁のリモコンコードを入力する

REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅し、登録が完了します。

正しく登録できなかったときは、**REMOTE MODE**ボタンがゆっくりと1回点滅します。

ご注意

- リモコンコード表は制作時点のものであり、変更される可能性もあります。

オンキヨー製品のRI専用リモコンコードを登録する

RI接続しているオンキヨー製機器を操作する場合は、リモコンをその機器ではなく、本機に向けて操作します。したがって、ラックなどに設置している見えない機器でも操作できます。

1 本機とオンキヨー製機器がRIケーブルとオーディオ用ピンケーブルでアナログ（RCA）接続されていることを確認する

詳しくは「オンキヨー製品と連動させる接続」をご覧ください（➔ P.25)。

2 各REMOTE MODEボタンにRI専用リモコンコードを登録する

- **42157**：
  オンキヨー製カセットテープデッキのRI専用リモコンコード
- **81993**：
  オンキヨー製ドックのRI専用リモコンコード

3 REMOTE MODEボタンを押し、リモコンを本機に向けて機器を操作する

ご注意

- 掲載しているリモコンコードは印刷時点のものです。機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

RI接続していないオンキヨー製機器を操作する場合

オンキヨー製機器に直接リモコンを向けて操作したい場合や、RI接続していないオンキヨー製機器を操作したい場合は、以下のリモコンコードを使ってください。

- **30627**：
  オンキヨー製DVDプレーヤー
- **71817**：
  オンキヨー製CDプレーヤー
- **70868**：
  オンキヨー製MDレコーダー
- **71323**：
  オンキヨー製CDレコーダー
- **82990**：
  オンキヨー製ドック
- **51805**：
  オンキヨー製チューナー

REMOTE MODEボタンをリセットする

特定の**REMOTE MODE**ボタンを初期設定（お買い上げ時の状態）のリモコンコードにリセットできます。

1 **リセットしたいREMOTE MODEボタンを押しながら、REMOTE MODEボタンが点灯するまで、HOMEボタンを3秒以上押す**

2 **30秒以内にREMOTE MODEボタンをもう一度押す**
REMOTE MODEボタンが2回点滅すると、ボタンのリセットは完了です。
各**REMOTE MODE**ボタンには、あらかじめリモコンコードが設定されています。ボタンをリセットすると、あらかじめ設定されていたコードが再度設定されます。

ご注意

- 学習機能で学習した操作もリセットされます。

リモコンをリセットする

リモコンをリセットして、初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すことができます。

1 **AMPボタンを押しながら、AMPボタンが点灯するまで、HOMEボタンを3秒以上押す**

2 **30秒以内にAMPボタンをもう一度押す**
AMPボタンが2回点滅すると、リモコンのリセットは完了です。

その他の機器を操作する

ご使用の機器のリモコンコードがあらかじめ登録された**REMOTE MODE**ボタンを押すと、以下のように操作できます。
他の機器のリモコンコードを入力する方法については「リモコンコードを登録する」をご覧ください（➔ P.83）。

テレビを操作する

TVボタンには、あらかじめRIHD*1対応テレビ（一部モデルに限る）を連動操作するリモコンコードが登録されています。RIHDでリモコンコマンドを受信できるテレビを、本機にHDMI接続してください。RIHDでテレビを正常に操作できない場合は、お手持ちのテレビのリモコンコードを**TV**ボタンに設定し、テレビを操作してください。

- 11807/13100/13500：
  RIHD対応テレビ

ブルーレイディスク/DVDプレーヤー、HD DVDプレーヤー、DVDレコーダーを操作する

BD/DVDボタンには、あらかじめRIHD*1対応機器（一部モデルに限る）を連動操作するリモコンコードが登録されています。RIHDでリモコンコマンドを受信できる機器を、本機にHDMI接続してください。

- 32910/33101/33501/31612：
  RIHD対応ブルーレイディスク/DVDプレーヤー

*1 本機が提供するRIHD機能は、HDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）システム制御機能を使用して、CECに対応した機器と連動する機能です。
RIHD対応機器以外での動作は保証いたしません。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、１つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。
- 形式、年式によって使用できないものがあります。
- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

■衛星放送チューナー /ケーブルテレビチューナー /地上デジタルチューナー

ブランド名	コード番号
DXアンテナ	01500
富士通ゼネラル	01497
日立	01284
ヒューマックス	00660, 02142, 02447, 01377, 01176, 01427, 01675, 01808, 01882, 01915, 02144, 02408, 02616
ビクター /JVC	00775
ケンウッド	00853
マスプロ	00173
NEC	01496
パナソニック	01488, 00247, 00847, 01304, 01404
フィリップス	00817, 01582, 02767, 00099, 00853, 00173, 01114, 00887, 00133, 02211
パイオニア	00853, 01308, 01500, 01877
サムスン	01877, 01060, 01666, 02015, 02774, 01377, 00853, 01175, 01206, 01458, 01662
Scientific Atlanta	01877, 00858
ソニー	01460, 00847, 00853, 01558, 02299
住友電工	01500
ティアック	01251
東芝	01284, 01509

■CDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	70157
デノン	70626, 70766
日立	70032
インテグラ	70101, 71817
ビクター /JVC	70072
ケンウッド	70036, 70157, 70626
マランツ	70029, 70157, 70626
オンキヨー	70868, 71323, 71817
パナソニック	70029, 70303
フィリップス	70157, 70626
パイオニア	70032, 70101
サンスイ	70157
ソニー	70000, 70490
テクニクス	70029, 70303
ヤマハ	70032, 70036, 70490

■CDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	70626, 70766
ビクター /JVC	70072
ケンウッド	70626
マランツ	70626
オンキヨー	71323
フィリップス	70626
ソニー	70000

■MDレコーダー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	70868
ソニー	70000, 70490
ヤマハ	70490

■カセットデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	40029
デノン	40076
ビクター /JVC	40244
ケンウッド	40070
マランツ	40029
オンキヨー	42157
フィリップス	40029
パイオニア	40027
サンスイ	40029
ソニー	40243
ヤマハ	40097

■オンキヨー製RIドック

ブランド名	コード番号
オンキヨー	81993, 82351, 82990

■レシーバー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	52503

■テレビ

ブランド名	コード番号
バイ・デザイン	12140, 12209
DXアンテナ	11817, 13817
富士通ゼネラル	10809
フナイ	11817, 10171, 10668, 10714, 11037, 11394, 11666
日立	10150, 10178, 10037, 10634, 11037, 10508, 10499, 10578, 11576, 11585, 11643, 11667, 11691, 12433
ヒューマックス	11295
Hyundai	11037, 10698, 11523

ブランド名	コード番号
ビクター /JVC	11428, 10508, 10650, 10653, 11601, 12271
LG	10178, 10556, 10037, 10714, 10715, 10698, 11423, 11768, 11840, 12182, 12358, 12424, 12834
マランツ	11454, 10556, 10037
三菱	11171, 10037, 10150, 10178, 10512, 10556, 11037, 11250
ナショナル	10208, 10226, 10508
NEC	10178, 10499, 10508, 10653
オリオン	10037, 10556, 10714, 11037, 12001
パナソニック	11480, 10037, 10650, 10226, 10508, 10208, 11457, 11636, 12170
フィリップス	10178, 11454, 10556, 10037, 10512, 10605, 10690, 10810, 11394, 11506, 11744, 12372
パイオニア	10037, 10698, 10512, 11457, 11636, 12171
サムスン	10812, 10178, 10556, 10037, 10618, 10650, 10226, 10208, 11312, 11619, 12051
サンヨー	11037, 10508, 10208, 11142, 11585, 11667, 11974
シャープ	11165, 10650, 10653, 10818, 11659
ソニー	10810, 11505, 10650, 11167, 11651, 11825
ティアック	10178, 10171, 10037, 10714, 10668, 11037, 10698, 10512, 11248, 11363, 11709, 11755
テクニクス	10556, 10650
Teco	10178, 10653, 11523
東芝	10195, 11037, 10618, 10650, 10508, 11169, 11508, 11524, 12203
ユニデン	12122
ウェスティングハウス	11755
ヤマハ	10650, 11576

■ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	20032, 20037, 20348, 21137
キャノン	20035
富士通ゼネラル	20037
日立	20037, 20081
ヒューマックス	20739
ビクター /JVC	20067, 20081, 21279
ケンウッド	20067
LG	20037, 21137
マランツ	20035, 20081
三菱	20067, 20081, 20642
NEC	20035, 20037, 20067, 21137, 21287
オンキヨー	20222
オリオン	20348
パナソニック	20035, 20614, 20616, 21062, 21562
フィリップス	20035, 20081, 20739
パイオニア	20067, 20081
サンヨー	20067, 20348, 21137
シャープ	20037, 21137
ソニー	20032, 20033, 20035, 20636
ティアック	20037, 20642
テクニクス	20035, 20081
東芝	20067, 20081

■DVDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	30533
デノン	30490, 30634, 31634, 33010
フナイ	33002
日立	30573, 30713, 31664
ヒューマックス	30646
インテグラ	30627, 31612, 32900, 32910, 32901, 33100, 33500, 33101, 33501, 33104, 33504
ビクター /JVC	30503, 30539, 30623, 30867, 31597
ケンウッド	30490, 30534
LG	30869, 33003
ラックスマン	30573
マランツ	30539, 33013, 33015
三菱	30713
NEC	30869, 33003
オンキヨー	30627, 31612, 30503, 32900, 32910, 32901, 33100, 33500, 33101, 33501, 33104, 33504
オリオン	30713
パナソニック	30503, 30490, 31579, 33005, 31762, 33020, 32710, 33034
フィリップス	30503, 30539, 30646, 33002, 30713, 31340, 31354, 32056, 33007, 33016, 33029, 33032
パイオニア	30571, 33000, 30631, 31571, 33017, 32860
サムスン	30490, 30573, 30820, 31635, 32329, 32489, 33001
サンヨー	30670, 30713
シャープ	30630, 30713, 30869, 33002, 33009, 33019, 33028, 32869
ソニー	30533, 30864, 31033, 31070, 31431, 31633, 33004, 33008
ティアック	30571, 31394, 33002, 33003
テクニクス	30490
東芝	30503, 31639, 32901, 32277, 33030
ヤマハ	30490, 30539, 30646, 30817, 33011

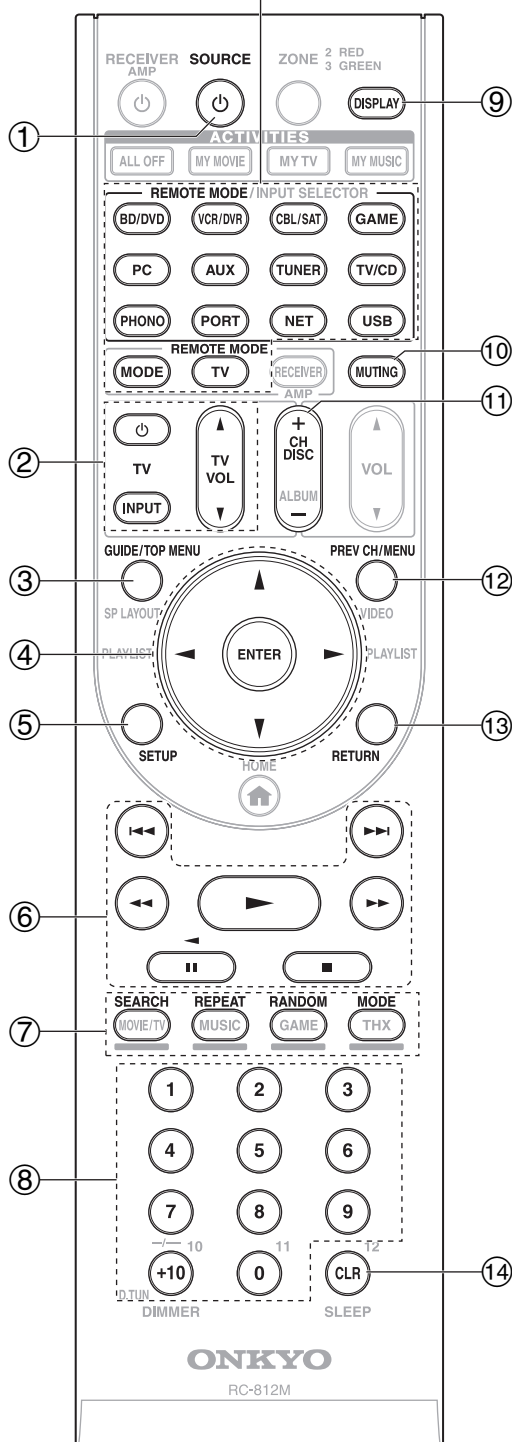
■ブルーレイディスクプレーヤー

ブランド名	コード番号
デノン	33010
LG	33003
マランツ	33013, 33015
パナソニック	33005, 33020, 33034
フィリップス	33007, 33016, 33029, 33032
パイオニア	33000, 33017
サムスン	33001
フナイ	33002
シャープ	33009, 33019, 33028
ソニー	33004, 33008
東芝	32901, 33030
ヤマハ	33011

■DVDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	30490
フナイ	33002
日立	31664
ヒューマックス	30646
ビクター /JVC	31597
LG	33003
パナソニック	30490, 31579, 33020, 32710, 33034
フィリップス	30646, 31340
パイオニア	30631, 32860
サムスン	30490, 31635
シャープ	30630, 33002, 33019, 32869
ソニー	31033, 31070, 31431, 33004, 33008
東芝	31639, 32277
ヤマハ	30646

■テレビ/DVD一体型、テレビ/VCR一体型

ブランド名	コード番号
アイワ	21137
日立	11037, 30713
ビクター /JVC	12271
LG	10178, 11423, 20037
三菱	10556, 20081
パナソニック	20035
フィリップス	10037, 10556, 11454, 20081, 30539, 11394
シャープ	10818, 20037
ソニー	11505, 20032
ティアック	10171, 10178, 10698, 20037, 20642
テクニクス	10556, 20081
東芝	11524

✔：使用できるボタン

ボタン名 ＼ 機器		テレビ	DVDプレーヤー・DVDレコーダー	ブルーレイディスクプレーヤー HD DVDプレーヤー	ビデオデッキテレビとの複合機など	衛星放送チューナー ケーブルテレビチューナー	CDプレーヤー・CDレコーダー MDレコーダー	カセットテープデッキ	チューナー
①	⏻SOURCE*1		✔		✔	✔	✔	✔	
②	⏻、INPUT、TV VOL ▲/▼	✔							
③	GUIDE	✔			✔	✔			
	TOP MENU		✔						
④	▲/▼/◄/►、ENTER	✔	✔		✔	✔	✔		
⑤	SETUP	✔	✔		✔	✔	✔		
⑥	►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙	✔*2	✔		✔	✔	✔	✔*3	
⑦	SEARCH	✔*2*4	✔*2	✔*4		✔*4	✔		
	REPEAT	✔*2*4	✔	✔*4		✔*4	✔		
	RANDOM	✔*2*4	✔*2	✔*4		✔*4	✔		
	MODE	✔*2*4	✔*2	✔*4		✔*4	✔		
⑧	数字 1～9、0	✔	✔		✔	✔	✔		
	数字 +10	✔*2	✔*2		✔	✔	✔		
⑨	DISPLAY	✔	✔		✔	✔	✔		
⑩	MUTING	✔	✔		✔	✔	✔	✔	✔
⑪	CH +/−	✔	✔		✔	✔			✔
	DISC +/−		✔				✔		
⑫	PREV CH	✔			✔	✔			
	MENU		✔						
⑬	RETURN	✔	✔		✔	✔			
⑭	CLR	✔	✔		✔	✔	✔		

*1 ⏻SOURCE（ソース）ボタンを押すと、関連する機器の電源がオン / オフします。

*2 RIHD 機能には対応していません。本機が提供する RIHD 機能は、HDMI 規格で定められている CEC（Consumer Electronics Control）（コンシューマー エレクトロニクス コントロール）システム制御機能を使用して、CEC に対応した機器と連動する機能です。

*3 ❚❚（一時停止）ボタンは ◄（リバース再生）として働きます。

*4 青（A）、赤（B）、緑（C）、黄（D）ボタンとして機能します。

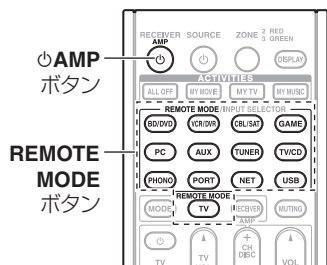
ご注意

- iPod/iPhoneの操作については「iPod/iPhoneを操作する」をご覧ください（➔ P.80）。

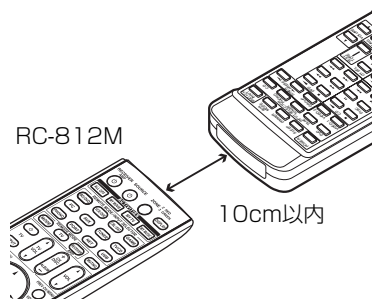
ご注意

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

他機のリモコンから操作を学習させる

他機のリモコンの操作を１つずつ転送し、本機のリモコンに学習させることができます。
たとえば、他機のCDプレーヤーのリモコンから再生機能を転送し、本機リモコンのCDモードの再生ボタンに学習させることができます。
リモコンコードを登録した後で、不足している操作や追加したい操作を1つずつ学習させると便利です（➔ P.83）。

1 **学習させたいREMOTE（リモート） MODE（モード）ボタンを押しながら、⏻AMP（アンプ）ボタンをREMOTE MODEボタンが点灯するまで（約3秒）押す**

2 **本機のリモコン（RC-812M）の学習させたい操作ボタンを押す**

3 **学習させる他機のリモコンボタンを押す**
他機のリモコンと本機のリモコン（RC-812M）を10cm以内に置き、他機のリモコンボタンを本機のリモコンに向かって押し続けます。

正しく学習できると**REMOTE MODE**ボタンが2回点滅します。

4 **別の操作ボタンを学習する場合は、手順2、3をくり返す**
学習を終了する場合は、**REMOTE MODE**ボタンを押す。**REMOTE MODE**ボタンが2回点滅します。

ご注意

- ⏻**AMP**ボタン、**ALL（オール） OFF（オフ）**ボタン、**MY（マイ） MOVIE（ムービー）**ボタン、**MY TV**ボタン、**MY MUSIC（ミュージック）**ボタン、**REMOTE MODE**ボタン、**MODE**ボタン、**HOME**ボタンは新しい操作を学習できません。
- 本機のリモコンは、基本的に70～90個の操作を学習できます。他機のリモコンによっては、ひとつのボタンで多くのメモリーを使用する場合があります。その場合、学習できる操作は70～90個より少なくなります。
- 本機のリモコンは、オンキヨー製CDプレーヤー、チューナー、テープデッキ、DVDプレーヤーのコードをすでに記憶しています。これらのボタンに他のコードを記憶させることもできますが、リセットすると元のコードに戻ります（➔ P.84）。
- コードが登録されているボタンに、新しいコードを上書きして記憶する時も同じ手順で操作します。
- リモコンによっては、意図した通りに働かず、まったく学習できない場合があります。
- 本機のリモコンはほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- 電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

■学習した操作を消去するには

1. 消去したい操作を学習した**REMOTE MODE**ボタンを押しながら、**REMOTE MODE**ボタンが点灯するまで**TV**ボタンを（約3秒）押します。
2. モード内の学習した操作をすべて消去したいときは、その**REMOTE MODE**ボタンを押し、学習したボタンごとに消去するときは、そのボタンを押します。
REMOTE MODEボタンが2回点滅して学習した操作が消去されます。

標準マクロを使う

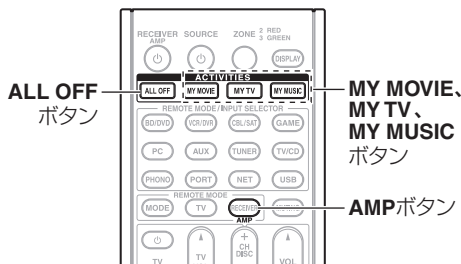
マクロ機能とは

連続した操作を1つのボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続したCDプレーヤーを再生するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1. **AMP**ボタンを押し、リモコンをアンプモードにします。
2. ⏻**AMP**ボタンを押し、本機の電源を入れます。
3. **TV/CD**ボタンを押し、本機の入力をTV/CDに切り換えます。
4. ►ボタンを押し、CDプレーヤーを再生します。

これらの操作を下記の手順でマクロ学習させると、1つのボタンで操作することができます。

マクロを学習させる

MY MOVIEボタン、**MY TV**ボタン、**MY MUSIC**ボタンにそれぞれマクロを学習させることができます。1つのマクロに対して32個までの操作を学習させることができます。

1 **AMPボタンを押しながら、MY MOVIEボタン（またはMY TVボタンかMY MUSICボタン）が点灯するまでMY MOVIEボタン（またはMY TVボタンかMY MUSICボタン）を（約3秒）押す**

2 **記憶させたい操作ボタンを操作順に連続して押す**

例：CDを再生する
1. ⏻**AMP**ボタンを押す
2. **TV/CD**ボタンを押す
3. ►ボタンを押す

3 **手順１で押したボタン（MY MOVIE、MY TVまたはMY MUSIC）を押す**

ACTIVITIESボタンが２回点滅し、学習が完了します。

32個目の操作を学習すると自動的に学習を完了します。

ご注意

- マクロの学習操作中は、**MODE**ボタンの機能は無効です。
- マクロを学習させた後、そこに含まれるボタンに他の操作を上書き学習させると、誤動作の原因になります。再度マクロ学習を行ってください。
- 32個以上の操作を学習させることはできません。
- どのボタンに何の操作を学習させたかをメモしておくことをおすすめします。

マクロを実行する

1 **操作したいボタン（MY MOVIEボタンかMY TVボタンまたはMY MUSICボタン）を押す**

マクロの操作は登録された順番に転送されます。転送が完了するまで、リモコンをAVセンターに向けてください。

マクロは選んでいるリモートモードに関係なく、いつでも実行できます。

マクロを消去する

1 **HOMEボタンを押しながら、ALL OFFボタンが点灯するまでALL OFFボタンを約3秒押す**

2 **もう一度ALL OFFボタンを押して消去する**

ALL OFFボタンが2回点滅します。

ご注意

- マクロを消去すると簡単マクロモードに切り換わります。
- 標準マクロモードでの操作中は、簡単マクロモードの簡単マクロ操作によるソース機器の切り換えはできません。

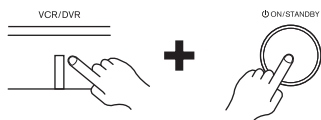
困ったときは

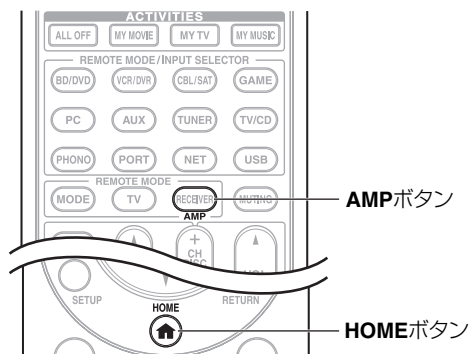
まず下記の内容を点検してみてください（文章の最後にある数字は参照ページ数です）。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法やFAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/

ヒント

修理を依頼される前に

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機のマイコンをリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。
電源を入れた状態でVCR/DVRボタンを押したまま、⏻ON/STANDBY（オン/スタンバイ）ボタンを押す

表示部に「Clear（クリア）」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。

初期設定に戻すと、ユーザー設定が消去されます。

リモコンを出荷時の初期設定に戻すには

AMP（アンプ）ボタンを押しながら、**AMP**ボタンが点灯するまで**HOME**（ホーム）ボタンを3秒以上押します。30秒以内に**AMP**ボタンをもう一度押してください。

操作画面は、本機とHDMI接続（HDMI OUT MAIN）しているテレビのみに表示されます。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

電源

■電源が入らない

電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。	
一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。	

■本機の電源が切れる場合

自動スタンバイが作動すると、自動的にスタンバイ状態になります。	69

■電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

保護回路が動作しています。すぐにコンセントから電源コードを抜いてください。すべてのスピーカーコードと入力ソースの接続を確認して異常がなければ、電源コードを抜いた状態で1時間待ちます。
そのあと、電源コードを差し込んで、本機の電源を入れてください。
それでもなお電源が切れる場合は、電源コードを抜いて、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。
ご注意：表示部に「CHECK SP WIRE」が表示された場合は、スピーカーコードがショートしている可能性があります。

⚠ 警告

煙が出ている、変なにおいがする、異様な音がするなど、少しでも異常を感じたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

■音声が出力されない/小さい

適切なデジタル入力ソースが選ばれていることを確認してください。	52
接続ケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。	20
接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。	22-26
入力が正しく選択できているか確認してください。	28
ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin、0.5…99.5、Max（100）まで調整できます。一般のご家庭で50前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。	
ヘッドホンを**PHONES**端子に接続しているときは、スピーカーから音は出ません。	47
HDMI IN端子に接続したDVDプレーヤーから音が出ない場合は、DVDプレーヤーの出力設定を確認し、対応している音声フォーマットを選んでください。	

接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。	
一部のDVD-Videoディスクでは、メニューから音声出力形式を選ぶ必要があります。	
MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプとフォノイコライザが必要です。	
接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。	
リスニングモードによっては、音声が出力されないスピーカーがあります。	39
自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの「有/無」と「クロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を手動で行ってください。	49～55
測定用マイクを接続したままになっていないことを確認してください。	
入力信号フォーマットが「**PCM**」または「**DTS**」に設定されている場合は、「**オフ**」に設定してください。	65

■ フロントスピーカーからしか音が出ない

Stereo(ステレオ)またはMono(モノ)のリスニングモードを選んでいる場合は、フロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。	
「**出力スピーカー**」設定で「**左/右**」を選んでいる場合、Monoリスニングモードではフロントスピーカーからしか音が出ません。	57
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	54

■ センタースピーカーからしか音が出ない

テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビー Pro Logic IIまたはドルビー Pro Logic IIxにすると、センタースピーカーに音が集中します。	
「**出力スピーカー**」設定で「**センター**」を選んでいる場合、Monoリスニングモードではセンタースピーカーからしか音が出ません。	57
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	54

■ サラウンドスピーカーから音が出ない

リスニングモードがStereoやMono、T-D（Theater(シアター)-Dimensional(ディメンショナル)）のときは、サラウンドスピーカーから音が出ません。	
入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。ほかのリスニングモードを選んでみてください。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	54

■ センタースピーカーから音が出ない

リスニングモードがStereo、Monoのときは、センタースピーカーから音が出ません。	
「**出力スピーカー**」設定で「**左/右**」を選んでいる場合、Monoリスニングモードではセンタースピーカーから音が出ません。	57
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	54

■ フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーから音が出ない

入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。ほかのリスニングモードを選んでみてください。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	54

■ サブウーファーから音が出ない

入力信号にサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	54

■ 希望する信号フォーマットで聴くことができない（Dolby(ドルビー) Digital(デジタル)、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。

デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。	52
接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。	

■ Pure(ピュア) Audio(オーディオ)リスニングモードが選べない

ゾーン2/ゾーン3がオンの場合、Pure Audioリスニングモードは選べません。	40

■ 希望するリスニングモードが選べない

スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「リスニングモード」でご確認ください。	40

■ 6.2/7.2再生ができない

サラウンドバックスピーカー、フロントワイドスピーカー、フロントハイスピーカーが接続されていない場合、6.2/7.2再生はできません。	
接続されているスピーカーの数によっては、全てのリスニングモードを選ぶことはできません。	38～44

■ 音量に関する設定が希望通りにならない

付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、「**スピーカー音量レベル**」、「**最大ボリューム値**」の設定を変更した場合は、最大音量値が変わる場合があります。	55、66

■ノイズが聴こえる

コード留めを使ってオーディオ用ピンケーブル、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。	
オーディオケーブルが雑音を拾っている可能性があります。ケーブルの位置を変えてみてください。	

■レイトナイト機能が働かない

再生ソースがドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHDのいずれかになっているか確認してください。	73

■アナログマルチチャンネル入力機能が働かない

マルチチャンネル入力の接続を確認してください。	
入力切換ボタンへの割り当てができているか確認してください。	53
マルチチャンネル入力が選ばれているか確認してください。	65
再生機器の音声出力設定を確認してください。	

■DTS信号について

DTS信号を再生しているときは、本機の**dts**表示が点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても**dts**表示が点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。	
一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。	
DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。	

■HDMIに入力した音声の冒頭部分が聴こえない

HDMI信号は、ほかの音声信号に比べて認識するのに時間がかかるため、音声がすぐに出力されない場合があります。	

■ホールハウスモードの間、音が出ない。

アナログ音声入力が選ばれているか確認してください。	46

映像

■映像が出ない/乱れる

すべての接続ケーブルのプラグがしっかり差し込まれていることを確認してください。	20
各映像機器が正しく接続されていることを確認してください。	22、23
テレビを本機のHDMI出力端子に接続しているときは「**モニター出力設定**」を出力端子に合わせて「**HDMIメイン**」または「**HDMIサブ**」に設定してください。再生ソースがビデオ（コンポジット）、Sビデオ、コンポーネントビデオの場合、HDMI出力端子から出力してテレビで映すには「**HDMI入力**」設定を「- - - - -」にしてください。	22、50
テレビを本機のHDMI出力端子以外に接続しているときは「**モニター出力設定**」を「**アナログ**」に設定してください。再生ソースがビデオ（コンポジット）、Sビデオの場合、コンポーネントビデオ出力端子から出力してテレビで映すには「**コンポーネント映像入力**」設定を「- - - - -」にしてください。	50、52
映像機器をコンポーネントビデオ入力端子に接続している場合は、入力切換にその入力を設定し、**COMPONENT VIDEO MONITOR OUT**端子またはHDMI出力端子にテレビを接続してください。	23、52
映像機器をHDMI入力端子に接続している場合は、入力切換にその入力を設定し、HDMI出力端子にテレビを接続してください。	22、51
リスニングモードがPure Audioになっているとき HDMI入力端子から入力された映像以外の映像は出ません。	
テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。	
「**コンポーネント映像入力**」設定により、ビデオ/Sビデオ端子に接続した機器の映像をコンポーネントビデオ端子で接続したテレビに変換して出力することができますが、ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり映像を表示しなくなる場合があります。この場合はコンポーネントビデオ端子で接続したテレビに変換出力せず、ビデオ/Sビデオ端子で接続してください。	52
「**モニター出力設定**」が「**両方(メイン)**」または「**両方(サブ)**」の場合は、「**両方**」に設定してください。	50

■HDMI入力端子に接続した機器の映像が出ない

HDMI-DVIアダプターを使っている場合は、正常な動作は保証されません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。	106
HDMI入力端子から入力した映像が出ないとき、本機の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合テレビが、プレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。	
「**モニター出力設定**」が「**アナログ**」の場合はHDMI出力端子からは映像は出力されません。	50、101

■設定画面表示が出ない/操作内容が画面に表示されない

ご使用のテレビなど、モニター側の設定を確認してください。	
「**OSD設定**」で「**オンスクリーンディスプレイ**」を「**オン**」にしてください。	67
操作画面は**HDMI OUT MAIN**端子に接続しているテレビまたはモニターのみに表示されます。	

リモコン

■リモコン操作ができない

リモコンで本機を操作する場合は、必ず**AMP**ボタンを押してください。	
電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください。	8
新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。	8
リモコンと本機が離れ過ぎていないこと、リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物がないことを確認してください。	8
本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。	
本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置している場合、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。	
適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。	14、84
リモコンを使って他社製のAV機器を操作する場合は、一部のボタンが正しく動作しないことがあります。	
適切なリモコンコードが入力されていることを確認してください。	83
本体とリモコンに同じリモートIDを設定してください。	67

■RI専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンケーブルも接続してください（RIケーブルだけでは正しく連動しません）。	25
適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。	14、84
入力表示が正しく設定されているか確認してください（例：**TV/CD**端子にカセットテープデッキを接続した場合や、**VCR/DVR**または**GAME**端子にRIドックを接続した場合）。	46
もう一度、RI専用リモコンコードを入力し直してください。	83
RI専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。	8、83

■オンキヨー製機器（RI連動なし）や他メーカー機器の操作ができない

他機器との接続が正しいか確認してください。	
もう一度リモコンコードを入力してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。	83
リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。	14、82～88
リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。	
製品によっては動作しない場合もあります。	

■他機のリモコンの操作を学習できない

他機のリモコンの操作の学習が正しく行われていることを確認してください。	89
リモコンによっては、転送システムの違いなどにより、意図した通りに働かず、まったく学習できない場合があります。	

録音・録画

■録音ができない

録音機器側で、録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。	
信号がループして本機が損傷することを回避するため、入力信号は同じ端子のIN端子からOUT端子に通りません。	

■録画ができない

Pure Audioリスニングモードを選択している場合は、映像回路がオフになるため、録画できません。他のリスニングモードを選択してください。	

ゾーン2/ゾーン3

■音が出ない

ゾーン2/ゾーン3はアナログ入力の場合のみ音が出ます。再生機器がアナログ入力されていることを確認してください。	

NET/USB機能

■ネットワークサーバーが使用できない

NET表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。	
ネットワークサーバーが起動しているか確認してください。	
ネットワークサーバーがホームネットワークに正しく接続されているか確認してください。	
ネットワークサーバーが正しく設定されているか確認してください。	
ルータのLAN側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。	
本機の「**ネットワーク**」設定で正しいIPアドレスが割り当てられているか確認してください。	69

■ネットワークサーバーで音楽ファイルを再生しているときに音が途切れる

ネットワークサーバーが動作に必要な条件を満たしているか確認してください。	107、109
パソコンをネットワークサーバーにしている場合、サーバーソフトウェア（Windows Media Player 11など）以外のアプリケーションソフトを終了させてみてください。	
パソコンで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。	

■インターネットラジオが聴けない

特定のラジオ局だけが聴けない場合は、登録したURLが正しいか、またラジオ局から配信されているフォーマットが本機の対応しているものか確認してください。	
NET表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。	
モデムとルータが正しく接続され、電源が入っているか確認してください。	
他の機器からインターネットに接続できるか確認してください。できない場合、ネットワークに接続されているすべての機器の電源をオフにし、しばらくしてからオンにしてみてください。	
ルータのLAN 側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。	
本機の「**ネットワーク**」設定で正しいIPアドレスが割り当てられているか確認してください。	69
ISPによってはプロキシサーバーを設定する必要があります。	
お使いのISPがサポートしているルータやモデムを使用しているか確認してください。	

■インターネットブラウザで本機の情報を表示できない

インターネットブラウザに本機のIPアドレスが正しく入力されているか確認してください。	
IPアドレスの割り当てにDHCPを使用している場合、本機のIPアドレスが変わっている可能性があります。	
本機とパソコンの両方が正しくネットワークに接続されているか確認してください。	

■USBストレージが表示されない

USBメモリーやUSBケーブルが本機の**USB**端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。	
USBストレージをいったん本機から外し、再度接続してみてください。	
本機の**USB**端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。	
セキュリティ機能付きのUSBメモリーの動作は保証できません。	

その他

■待機時消費電力について

次の場合は、待機時消費電力が最大50Wになる場合があります。 - ユニバーサルポート使用時 -「**ネットワーク**」設定の「**ネットワークコントロール**」設定が「**有効**」の時 -「**HDMI コントロール (RIHD)**」の設定が「**オン**」の時（ただし、テレビの状態により通常の待機時消費電力モードになります） -「**HDMI スルー**」設定を「**オフ**」以外に設定している時	23、68、69

■ヘッドホンを接続すると音が変わる

Direct（ダイレクト）、Pure Audio、Mono（モノ）以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的にStereo（ステレオ）になります。	47

■表示部に表示が出ない

リスニングモードがPure Audioになっていると表示が消えます。	

■多重音声の言語を切り換えたい

「**多重音声**」の「**入力チャンネル**」設定で「**主/副**」を選択します。	57

■自動スピーカー設定中に「騒音が大きすぎます。」というメッセージが出る

お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。	

■スピーカーの距離設定が希望通りにならない

設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。	

■本体表示部が暗い

Dimmer（ディマー）機能が働いていませんか？**DIMMER**ボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。	46

■Sビデオとコンポジットビデオ入力に関する設定

設定する入力切換ボタンを押しながら、表示部に「**Video ATT：On**」が表示されるまで**SETUP**ボタンを押します。設定を再開するには、上記の手順で表示部に「**Video ATT：Off**」が表示されるまでボタンを押してください。

- Video（ビデオ） Attenuation（アッテネーション）

  この設定ができる入力切換ボタンは**BD/DVD**、**VCR/DVR**、**CBL/SAT**、**GAME**、**AUX**です。
  ゲーム機などを本機の映像入力端子に接続してテレビやプロジェクターに出力しているとき、映像が鮮明でない場合は以下の設定を変更することで画質が改善されることがあります。
  Video ATT：Off：（お買い上げ時の設定）
  Video ATT：On：（信号を減衰します）

■ **HDMI出力端子に接続しているテレビ/モニターの映像が安定しない場合、DeepColor（ディープカラー）の機能をオフに切り換えてみてください**

DeepColor機能をオフにするには、**CBL/SAT**ボタンと⏻**ON/STANDBY**（オン/スタンバイ）ボタンを同時に押してください。**CBL/SAT**ボタンを押しながら、表示部に「Off」が表示されるまで⏻**ON/STANDBY**ボタンをくり返し押してください。DeepColor機能をオンするには、上記の手順で「On」が表示されるまでボタンを押してください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機の主電源をオフにしてから抜いてください。

映像機器をお楽しみいただく際のご注意

本機では、コンポジットビデオ端子、Sビデオ端子やコンポーネントビデオ端子に接続した機器の映像を変換して、HDMI端子で接続したテレビなどのモニターに出力することができます。
ただし、ビデオデッキなどの映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり、映像を表示しなくなったりする場合があります。
この場合は次の方法をお試しください：

1 本機と映像機器をコンポジットビデオ端子で接続したときは、本機とテレビもビデオ端子で接続し、本機と映像機器をSビデオ端子で接続したときは、本機とテレビもSビデオ端子で接続する

本機と映像機器をコンポーネントビデオ端子で接続したときは、本機とテレビもコンポーネントビデオ端子で接続する。

2 設定画面の「入力/出力端子の割り当て」→「コンポーネント映像入力」を選ぶ

本機と映像機器を**COMPONENT VIDEO IN 1**で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「IN 1」にする。
本機と映像機器を**COMPONENT VIDEO IN 2**で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「IN 2」にする。
本機と映像機器を**COMPONENT VIDEO IN 3**で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「IN 3」にする。
本機と映像機器をコンポジットビデオ端子またはSビデオ端子で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「- - - - -」にする。

ヒント

- 映像変換機能を切るには「**ピクチャーモード**」を「**ダイレクト**」に設定してください（➔ P.63）。

ファームウェアの更新について

ファームウェアの更新には、次のような方法があります：ネットワーク経由で更新する、USB経由で更新する。
お客様の環境に応じて、いずれかの方法で更新してください。操作を始める前に、更新手順をよくお読みください。

■ネットワーク経由で更新する

インターネット接続が必要です。

■USB経由で更新する（➔ P.98）

USBメモリーなどのUSBストレージをご用意ください。32MB以上の容量が必要です。

ご注意

- アップデートの前に、ネットワークの接続を確認してください。
- アップデート中は絶対に本機に接続されているケーブルや機器に触らないでください。
- アップデート中は絶対に本機の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
- アップデート中はPCから本機にアクセスしようとしないでください。
- USBカードリーダーに挿入したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。
- USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USBストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- 本機は、ハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- 本機は、セキュリティ機能付きUSBメモリーに対応していません。

免責事項
本プログラムおよび付随するオンラインドキュメンテーションは、お客様の責任においてご使用いただくために提供されます。弊社は、法理に関わらず、また不法行為や契約から生じるかを問わず、本プログラムまたは付随するオンラインドキュメンテーションの使用に際して生じたいかなる損害および請求に対して責任を負うものではなく、賠償することもありません。
弊社は、いかなる場合においても、補償、弁済、損失利益または逸失利益、データの損失その他の理由により生じた損害を含む（ただしこれらに限定されない）、特別損害、間接的損害、付随的又は派生的損害について、お客様または第三者に対して一切の責任を負いません。

最新の更新情報につきましては、弊社ウェブサイトをご覧ください。

ネットワーク経由でのファームウェア更新手順

後面パネルのネットワーク接続を利用してファームウェアをアップデートできます。

* 実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。

ご注意

- 本機とテレビの電源が入っていることと、Ethernetケーブルが本機の後面パネルに接続されていることを確認してください。
- アップデート中は絶対に本機の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
- アップデート中は絶対にHDMIケーブルやEthernetケーブルを抜き差ししないでください。
- アップデート中は絶対に電源コードの抜き差しをしないでください。
- アップデート中はPCから本機にアクセスしようとしないでください。
- アップデート完了まで約60分程度かかります。
- アップデート完了後も、お客様が行った諸設定は保持されます。

ファームウェアの更新を始める前に

- 「**HDMI コントロール(RIHD)**」設定を「**オフ**」に設定してください（➔ P.68）。
- RS232コネクターとイーサネットネットワークに接続されたコントロール機器の電源をオフにしてください。
- ゾーン2/ゾーン3をオフにしてください。
- 再生中のインターネットラジオ、iPod/iPhone、USB、または、サーバーなどを止めてください。

更新手順

1 リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押して、SETUP（セットアップ）ボタンを押す
メインメニューがテレビ画面に表示されます。以降の操作は、本体の**SETUP**、カーソル、エンターボタンで操作することもできます。

2 「ハードウェア設定」を選び、ENTERボタンを押す

3 「ファームウェアアップデート」を選び、ENTERボタンを押す
本メニューがグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

4 「ネットワーク経由」を選び、ENTERボタンを押す

5 「アップデート」を選び、ENTERボタンを押す
本機はアップデートを開始します。
アップデートが進むと、書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、アップデートの進行状況は本体表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。

6 アップデートが完了すると「Completed!」というメッセージが本機の表示部に表示される

7 **前面パネルの⏻ON/STANDBYボタンを押して本機の電源を切る**

このときリモコンの⏻**AMP**ボタンは使用しないでください。
本機の電源が再度自動的に入ります。
これでアップデートは完了です。本機は最新のファームウェアに更新されました。

トラブルシューティング

ケース1:
本機の表示部で「No Update」と表示されたら、ファームウェアが既に更新済みであることを示しています。アップデートの必要はありません。

ケース2:
エラー時は、本機の表示部で「Error!! *-**」と表示されます。（アスタリスクは表示される英数字を表しています。）以下の説明を参照し、確認してください。

■ エラーコード（ネットワーク経由のアップデート中）

エラーコード	エラー内容および対処方法
-10、-20	LANケーブルが認識できません。 LANケーブルを正しく接続してください。 接続方法については、「ネットワーク機器の接続」をご覧ください（➔ P.107）。
-11、-13、*-21、*-28	インターネットに接続できません。 下記の項目を確認してください。 • IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNSサーバーが正しく設定されているか確認してください。 • ルーターの電源が入っているか確認してください。 • 本機とルーターがLANケーブルでつながっているか確認してください。 • ルーターの設定を確認してください。設定については、ルーターの取扱説明書をご覧ください。 • ネットワーク接続環境によっては、プロキシサーバーを設定する必要があります。設定については、ご利用の回線業者やプロバイダの資料をご確認ください。それでもインターネットにつながらない時は、DNSサーバーまたはプロキシサーバーが停止している可能性があります。サーバーの稼働状況をプロバイダにご確認ください。
その他	もう一度最初からやり直してください。 何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。

ケース3:
アップデート中にエラーが発生した場合、一度電源プラグを抜き、再度コンセントに差し込み、もう一度アップデートを行ってください。

ケース4:
入力ソースの選択を誤ってエラーが発生した場合、本機の電源をオフにし、再度オンにしてもう一度アップデートを行ってください。

ケース5:
ネットワーク環境がない場合は、巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターへご連絡ください。

USB経由でのファームウェア更新手順

USB端子を利用してファームウェアをアップデートできます。

ご注意
• アップデート中は絶対に本機の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
• アップデート中は絶対にHDMIケーブルやUSBストレージを抜き差ししないでください。
• アップデート中は絶対にファームウェア・ファイルの入ったUSBストレージや、電源コードの抜き差しをしないでください。
• アップデート中はPCから本機にアクセスしようとしないでください。
• アップデート完了まで約60分程度かかります。
• アップデート完了後も、お客様が行った諸設定は保持されます。

ファームウェアの更新を始める前に

• 「HDMI コントロール(RIHD)」設定を「**オフ**」に設定してください（➔ P.68）。
• RS232コネクターとイーサネットネットワークに接続されたコントロール機器の電源をオフにしてください。
• ゾーン2/ゾーン3をオフにしてください。
• 再生中のインターネットラジオ、iPod/iPhone、USB、または、サーバーなどを止めてください。
• USBストレージ内にデータがある場合は消去してください。

更新手順

1 **お使いのパソコンにUSBストレージを接続し、USBストレージ内にデータがある場合は消去する**

2 **弊社ホームページからパソコンにファームウェア・ファイルをダウンロードする**

ファームウェアには、以下のようなファイル名がついています。
ONKAVR****_*******.zip
パソコン上でこのファイルを解凍してください。下記の３つのファイルができます。
ONKAVR****_*******.of1
ONKAVR****_*******.of2
ONKAVR****_*******.of3

3 **解凍したファイルをUSBストレージにコピーする**

解凍する前のファイルはコピーしないでください。

4 **上記のUSBストレージを本機のUSB端子に接続する**

5 **本機とテレビの電源が入っていることを確認する**

本機がスタンバイ状態のときは、⏻**ON/STANDBY**ボタンを押して本機の表示部を点灯させます。

6 **入力ソースをUSBにする**

表示部に「Now Initializing...」と表示されたのちUSBストレージ名が表示されます。
USBストレージを認識するのに20～30秒かかります。

7 **リモコンのAMPボタンを押してから、SETUPボタンを押す**

メインメニューがテレビ画面に表示されます。以降の操作は、本体の**SETUP**、カーソル、エンターボタンで操作することもできます。

8 **「ハードウェア設定」を選び、ENTERボタンを押す**

9 **「ファームウェアアップデート」を選び、ENTERボタンを押す**

10 **「USB経由」を選び、ENTERボタンを押す**

11 **「アップデート」を選び、ENTERボタンを押す**

本機はアップデートを開始します。
アップデートが進むと、書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、アップデートの進行状況は本体表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。
アップデート中は電源を切ったり、USBストレージを外したりしないでください。

12 **アップデートが完了すると「Completed!」というメッセージが本機の表示部に表示される表示がでたらUSBストレージを抜く**

13 **前面パネルの⏻ON/STANDBYボタンを押して本機の電源を切る**

このときリモコンの⏻**AMP**ボタンは使用しないでください。
本機の電源が再度自動的に入ります。

これでアップデートは完了です。本機は最新のファームウェアに更新されました。

トラブルシューティング

ケース1:
本機の表示部で「No Update」と表示されたら、ファームウェアが既に更新済みであることを示しています。アップデートの必要はありません。

ケース2:
エラー時は、本機の表示部で「Error!! *-**」と表示されます。（アスタリスクは表示される英数字を表しています。）エラーコードを参照し、確認してください。

■エラーコード（USB経由のアップデート中）

エラーコード	エラー内容および対処方法
-10、-20	USBストレージが認識できません。USBメモリーやUSBケーブルが、本機のUSB端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。USBストレージで外部電源を供給できる製品は、外部電源をご使用ください。
*-14	USBストレージのルートフォルダにファームウェアファイルが存在しない、お使いの機種と異なるファームウェアファイルが使用されている、などが考えられます。サポートページの案内に従って、もう一度ファームウェアファイルのダウンロードからやり直してください。何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。
その他	もう一度最初からやり直してください。何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。

ケース3:
アップデート中にエラーが発生した場合、一度電源プラグを抜き、再度コンセントに差し込み、もう一度アップデートを行ってください。

ケース4:
入力ソースの選択を誤ってエラーが発生した場合、本機の電源をオフにし、再度オンにしてもう一度アップデートを行ってください。

接続のヒント・映像信号の流れ

本機はさまざまな接続形式に対応しており、各種AV機器を接続できます。どの接続形式を選ぶかは、お使いの機器によって異なります。以下を参考に接続をしてください。

操作画面は、本機とHDMI接続（HDMI OUT MAIN）しているテレビのみに表示されます。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

映像接続のしくみ

映像関連機器は、ビデオ（コンポジット）、Sビデオ、PC IN（アナログRGB）、コンポーネント、HDMIの5種類の映像入出力端子に接続できます。一番画質のよい接続形式はHDMIになります。
本機では映像信号を使用機器に合わせて変換することができます。「**モニター出力設定**」（➔ P.50）により映像信号を変換してHDMI出力端子から出力するか、コンポーネントビデオ出力端子から出力するか選びます。

ヒント

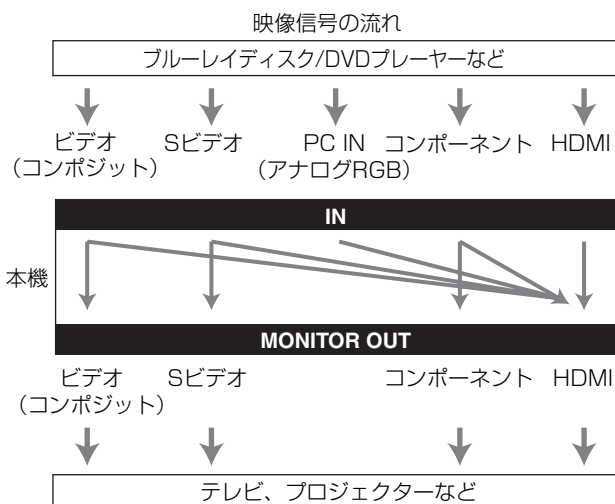
- THXは、より良い映像をお楽しみいただくために、同じ入出力の信号は、変換せずにご使用いただくことをおすすめします。（たとえば、コンポーネント入力はコンポーネント出力から、Sビデオ入力はSビデオ出力からの信号に設定してください。）
- 映像変換機能を切るには「**ピクチャーモード**」を「**ダイレクト**」に設定してください（➔ P.63）。

■ モニター出力設定（Monitor Out）を「HDMI メイン」または「HDMI サブ」にした場合（➔ P.50）

モニター出力設定（Monitor Out）を「**HDMIメイン**」または「**HDMI サブ**」にした場合、入力した映像信号の流れは右図のようになります。

本機の**HDMI OUT MAIN**端子にテレビを接続している場合は「**HDMI メイン**」に、**HDMI OUT SUB**端子にテレビを接続している場合は「**HDMIサブ**」に設定してください。
ビデオ、S ビデオ、PC IN（アナログRGB）、コンポーネントビデオに入力された映像信号は変換されてHDMI出力端子から出力されます。
ビデオ、S ビデオ、コンポーネントビデオに入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子からも出力されます。

映像信号の流れ

テレビ、プロジェクターなど

■モニター出力設定（Monitor Out）を「両方」または「両方（メイン）」「両方（サブ）」にした場合（➔ P.50）

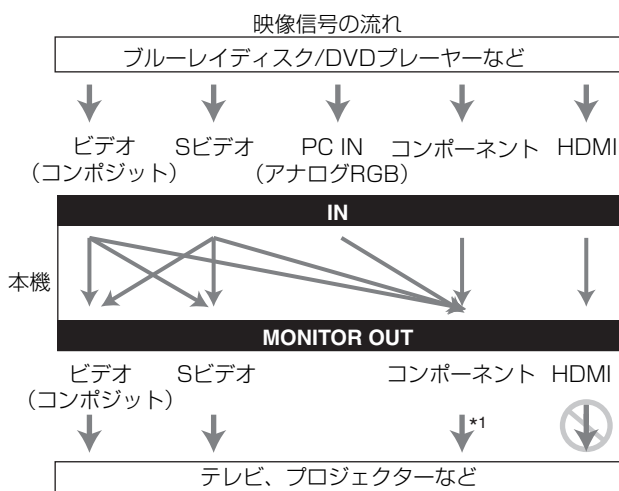
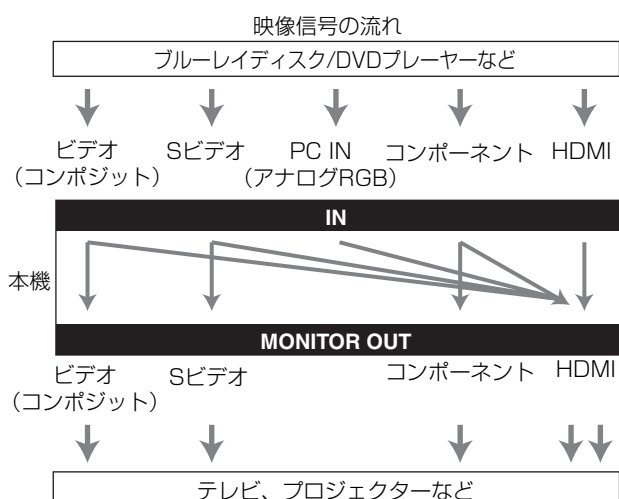
「**モニター出力設定**」を「**両方**」または「**両方（メイン）**」「**両方（サブ）**」にした場合、入力した信号の流れは右図のようになります。
本機の**HDMI OUT MAIN**端子と**HDMI OUT SUB**端子にそれぞれテレビを接続している場合は「**両方**」または「**両方(メイン)**」、「**両方(サブ)**」に設定してください。
ビデオ、Sビデオ、PC IN（アナログRGB）、コンポーネントに入力された映像信号は変換されてHDMI出力端子から出力されます。
ビデオ、S ビデオ、コンポーネントビデオに入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子からも出力されます。

- 「**両方**」: 映像信号は両方のHDMI出力端子から、両方のテレビで対応している解像度で出力されます。「**解像度**」の設定は変更できません。
- 「**両方（メイン）**」: 映像信号は両方のHDMI出力端子から出力されますが、**HDMI OUT MAIN**端子からの出力が優先されます。映像の解像度によっては、**HDMI OUT SUB**端子からは映像信号が出力されない場合があります。
- 「**両方（サブ）**」: 映像信号は両方のHDMI出力端子から出力されますが、**HDMI OUT SUB**端子からの出力が優先されます。映像の解像度によっては、**HDMI OUT MAIN**端子からは映像信号が出力されない場合があります。

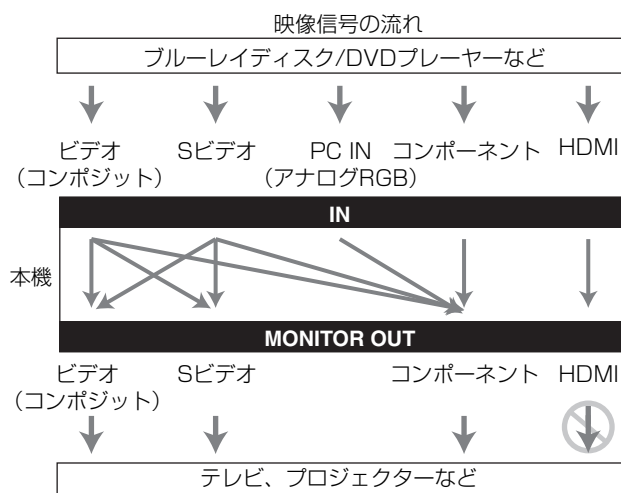
ご注意

以下の場合、「**モニター出力設定**」は自動的に「**アナログ**」に設定されます。
- 「**両方**」に設定をしていて、どのHDMI出力端子にも接続をしていない。
- 「**両方(メイン)**」または「**両方(サブ)**」に設定をしていて、それぞれの優先のHDMI出力端子に接続をしていない。

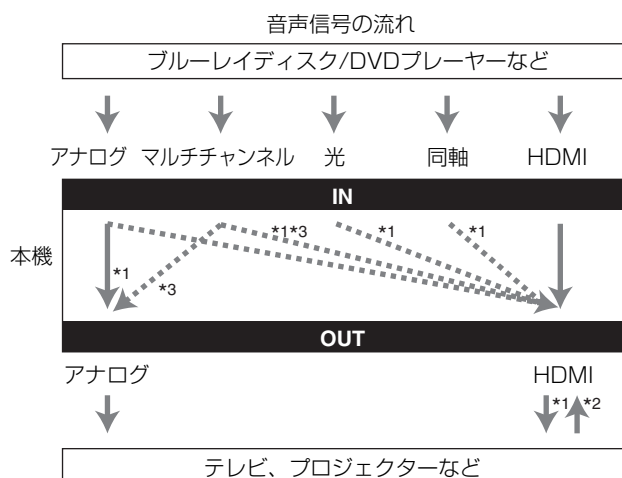
■「モニター出力設定」を「アナログ」にした場合

ビデオ、Sビデオ、PC IN（アナログRGB）の各端子に入力した映像信号は変換されて**COMPONENT VIDEO MONITOR OUT**（コンポーネント）端子から出力されます。本機のHDMI出力端子をテレビのHDMI入力端子に接続していない場合は「**アナログ**」に設定してください。
ビデオ信号はSビデオ信号に変換されます。逆にSビデオ信号はビデオ信号に変換されます。変換された信号はMONITOR OUT V/Sの各映像端子からのみ出力されます。VCR/DVR OUT V/Sの各映像端子からは出力されませんのでご注意ください。
ビデオ、S ビデオ、コンポーネントビデオに入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子からも出力されます。
「**解像度**」を「**スルー**」に設定しているときにこの図のように信号が流れます（➔ P.51）。

*1 詳細については「映像解像度表」をご覧ください（➔ P.103）。

映像信号の流れと解像度設定

「**モニター出力設定**」を「**アナログ**」にした場合、「**解像度**」を「**スルー**」以外に設定しているとビデオ（コンポジット）、SビデオおよびPC IN（アナログRGB）信号は変換されてコンポーネントビデオ出力の流れになります。
ビデオ、S ビデオ、コンポーネントビデオに入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子からも出力されますが、HDMI入力信号は出力されません。

音声接続のしくみ

音声関連機器は、アナログ、マルチチャンネル、デジタル（光、同軸）、HDMIの音声入出力端子に接続できます。
本機は、デジタル入力信号を変換して、アナログ出力することはできません（またその逆も行いません）。
例えば、光デジタルまたは同軸デジタルに入力された音声信号は、**VCR/DVR OUT**（アウト）端子からは出力されません。

1つの入力系統に複数の音声信号が入力されている場合は、HDMI、デジタル（光、同軸）、アナログの順で優先出力されます。

*1 「**テレビオーディオ出力**」の設定によって異なります（➔ P.69）。
*2 ARC 機能対応テレビで、「**オーディオリターンチャンネル**」を「**自動**」に設定すると（➔ P.69）、テレビの音声が本機に入力されます。**TV/CD** 入力切換を選び、ARC 機能対応テレビである必要があります。
*3 フロント L/R のみ出力します。

映像解像度表

入力信号の種類や解像度に対して、本機が出力する映像信号の種類や解像度を調べるときは、下記映像解像度表をご覧ください。

✔：出力

入力＼出力		HDMI						
		4k[*2]	1080p/24	1080p	1080i	720p	480p	480i
HDMI	1080p	✔	✔	✔				
	1080i	✔	✔	✔	✔	✔		
	720p	✔	✔	✔	✔	✔		
	480p	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
	480i	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
コンポーネント	1080p	✔	✔	✔				
	1080i	✔	✔	✔	✔	✔		
	720p	✔	✔	✔	✔	✔		
	480p	✔	✔	✔	✔	✔	✔	
	480i	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
Sビデオ/コンポジット	480i	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
PC（アナログRGB）[*1]		✔	✔	✔	✔	✔	✔	

入力＼出力		コンポーネント					Sビデオ/コンポジット
		1080p	1080i	720p	480p	480i	480i
HDMI	1080p						
	1080i						
	720p						
	480p						
	480i						
コンポーネント	1080p	✔					
	1080i		✔	✔			
	720p		✔	✔			
	480p		✔[*3]	✔[*3]	✔		
	480i		✔[*3]	✔[*3]	✔	✔	
Sビデオ/コンポジット	480i		✔[*3]	✔[*3]	✔	✔	✔
PC（アナログRGB）[*1]			✔[*4]	✔[*4]	✔[*4]		

*1 対応解像度：[640 × 480 60 Hz]、[800 × 600 60 Hz]、[1024 × 768 60 Hz]、[1280 × 1024 60 Hz]
*2 対応解像度：[3840 × 2160 24/25/30 Hz]
*3 コピーガード信号の場合、出力は 480p に制限されます。
*4 「**モニター映像出力**」を「**アナログ**」（➔ **P.50**）に設定していて、「**解像度**」を「**スルー**」（➔ **P.51**）に設定している場合、PC IN (アナログ RGB) 入力信号の解像度は 720p で出力されます。

- OSDメニューや、映像に重なるメニューは**HDMI OUT MAIN**接続で表示されます。

RIHDと互換性のあるテレビやプレーヤー /レコーダーをご使用になるには

RIHDはオンキヨー製品の連動機能の名称です。本機ではHDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）を使用した連動を行うことができます。CECに対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD対応機器と推奨製品以外での動作は保証いたしません。

RIHD連動機能を使用するには、オーディオリターンチャンネル（ARC）を使用するか（➔ P.69）、光デジタルケーブルでの接続が必要です。

RIHDと互換性のある機器について

下記の製品がRIHDと互換性があります（2011年1月現在）。最新の情報は、オンキヨーホームページでご確認ください。

■ テレビ【順不同】

- パナソニック製のビエラリンク対応テレビ
- 東芝製のレグザリンク対応テレビ
- 日立製のWoooリンク対応テレビ
- ソニー製のブラビアリンク対応テレビ*1
- シャープ製のテレビ

*1 当社が独自の調査で動作確認した結果です。

■ プレーヤー、レコーダー【順不同】

- オンキヨー製、インテグラ製のRIHD対応プレーヤー
- パナソニック製のビエラリンク対応プレーヤー、レコーダー（パナソニック製のビエラリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- 東芝製のレグザリンク対応プレーヤー、レコーダー（東芝製のレグザリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- シャープ製のプレーヤー、レコーダー（シャープ製のテレビと合わせてお使いの場合のみ）

* 上記以外の機器でもHDMI規格のCECに対応していれば連動する可能性がありますが、動作は保証されません。

ご注意

- 連動機能が適切に働くように、HDMI端子には以下の台数より多くのRIHD対応機器を接続しないでください。
  - ブルーレイディスク/DVDプレーヤー：最大3台
  - ブルーレイディスク/DVDレコーダー：最大3台
  - ケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナー、衛星放送チューナー：最大4台
- 本機にHDMIを介して他のAVセンターを接続しないでください。
- RIHD対応機器が上記より多く接続されている場合には、連動機能は保証いたしません。

RIHD接続をするとできる操作

■ RIHDと互換性のあるテレビの場合

本機をRIHDと互換性のあるテレビに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。

- テレビの電源をスタンバイ状態にすると本機もスタンバイ状態に切り換わります。
- テレビのメニュー画面で、音声を本機に接続したスピーカーから音を出すか、あるいはテレビのスピーカーから音を出すかを設定できます。
- テレビのアンテナや外部入力の映像・音声も本機に接続したスピーカーから音を出すことができます。（HDMIケーブル以外に光デジタルケーブル等の接続が必要です。）
- テレビのリモコンで本機の入力を選択できます（東芝製のテレビのみ）。
- テレビのリモコンで本機の音量調整やその他の操作ができます。

■ RIHDと互換性のあるプレーヤー /レコーダーの場合

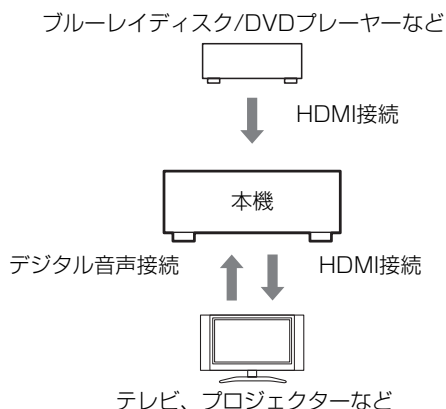
本機をRIHDと互換性のあるプレーヤー /レコーダーに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。

- プレーヤー /レコーダーの再生を開始すると、本機の入力がその機器の接続されているHDMI入力に切り換わります。
- 本機に付属のリモコンでプレーヤー /レコーダーの操作ができます。

* お使いの機器によっては、すべての機能が働くわけではありません。

■接続と設定のしかた

1 **接続と設定を確認する**

1. 本機の**HDMI OUT MAIN**端子とテレビのHDMI入力を接続する。

2. テレビからの音声出力を、光デジタルケーブルで本機の**OPTICAL IN 2**端子に接続する。

ご注意

- オーディオリターンチャンネル（ARC）に対応したテレビを使用して、オーディオリターンチャンネル（ARC）機能を利用するときは、この接続は必要ありません（➔ P.69）。

3. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー（レコーダー）のHDMI出力を本機の**HDMI IN 1**端子に接続する。

ご注意

- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー（レコーダー）を他の端子に接続する場合はHDMI入力の割り当てをする必要があります（➔ P.51）。このとき、**HDMI IN**端子に接続された機器を**TV/CD**入力に割り当てないでください。適切なRIHD連動操作の保証ができなくなります。

2 **「HDMI」メニューの各項目を下記の設定にする**

- **HDMI コントロール(RIHD)：オン**
- **オーディオリターンチャンネル（ARC）：自動**

各設定の詳細説明は（➔ P.68、69）をご覧ください。

3 **設定の確認をする**

1. すべての接続機器の電源を入れます。
2. テレビの電源を切り、リンク動作によって接続機器の電源が自動で切れることを確認します。
3. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー /レコーダーの電源を入れます。
4. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー /レコーダーを再生して、以下のことを確認します。
   - 本機の電源が自動で入り、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー /レコーダーを接続している入力が選択される。
   - テレビの電源が自動で入り、本機を接続している入力が選択される。
5. お使いのテレビの取扱説明書をご覧になりながら、テレビのメニュー画面から「テレビのスピーカーの使用」を選び、テレビのスピーカーから音が出て本機に接続したスピーカーから音が出ないことを確認します。
6. テレビのメニュー画面から、「本機に接続したスピーカーの使用」を選び、本機に接続したスピーカーから音が出てテレビのスピーカーから音が出ないことを確認します。

ご注意

- 初めてお使いになるときや、各機器の設定を変えたとき、各機器の主電源をオフにしたとき、コンセントから電源コードを抜いたり、停電したりしたときも上記の操作を行ってください。

4 **リモコンで操作する**

操作できるボタンについては「その他の機器を操作する」をご覧ください（➔ P.84）。

ご注意

- DVDオーディオ、スーパーオーディオCDの音声はテレビのスピーカーから音声が出ないことがあります。DVDプレーヤーの音声出力設定を2ch PCMに設定すれば、テレビのスピーカーから音を出すことができるようになります。（プレーヤーによっては、できないことがあります。）
- テレビのスピーカーから音を出す操作をしても、本機の音量調整や入力の切り換え操作をすると、本機に接続したスピーカーから音が出るようになります。テレビから音を出したいときは、もう一度テレビの操作をやり直してください。
- RI やRI EX対応機器と接続してご使用の場合で動作がうまく行かないときは、RIケーブルを外して操作してみてください。
- テレビの入力を、本機が接続されたHDMI端子以外を選ぶと、本機の入力は「**TV/CD**」に切り換わります。
- 本機は、必要と判断したとき、連動して自動的にパワーオンします。RIHD対応テレビやプレーヤー・レコーダーと接続してお使いの場合でも、必要ないときは本機はパワーオンしません。テレビ側の設定で、音声をテレビから出力するように設定していると、連動してパワーオンしないことがあります。
- 組み合わせる機器により、本機との連動動作が働かない場合があります。この場合は、本機を直接操作してください。
- 本機のリモコンで、RIHDを利用してプレーヤー/レコーダーの操作ができないときは、その機器がRIHDやCECのリモコン操作に対応していないことが考えられます。リモコンにその機器のメーカーのリモコンコードを登録してご使用ください。

HDMIについて

放送のデジタル化に対応することを目的としたHDMI（High-Definition Multimedia Interface）は、テレビ、プロジェクター、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー、デジタルチューナーなどの映像機器の接続に対応した新しいデジタルインターフェイス規格です。これまで、映像機器を接続するには、さまざまな映像・音声コードが個別に必要でした。HDMIでは、1本のケーブルで、制御信号、デジタル映像、最大8チャンネルのデジタル音声（2チャンネルPCM、マルチチャンネルデジタル音声、マルチチャンネルPCM）を伝送できます。

HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）*1規格と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（テレビやモニターによってはこの機能が働かず、映像が出ない場合もあります。）

本機はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しているため、HDCPに対応した映像機器のみ映像を表示できます。

本機のHDMIインターフェイスは以下の規格に基づいています：
オーディオリターンチャンネル、3D、x.v.Color、DeepColor、Lip Sync、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DSD、マルチチャンネルPCM

対応音声フォーマット

- 2チャンネルリニアPCM（32～192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（最大7.1チャンネル、32～192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（DSD、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio）

お使いのブルーレイディスク/DVDプレーヤーも上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

著作権の保護について

本機は、デジタル映像信号の著作権保護技術であるHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しています。本機と接続する機器もHDCPに対応している必要があります。

*1 DVI（Digital Visual Interface）：DDWG*3 が、1999 年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。
*2 HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intel が開発した HDMI/DVI 用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP 準拠の HDMI/DVI レシーバーが必要です。
*3 DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packard などが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

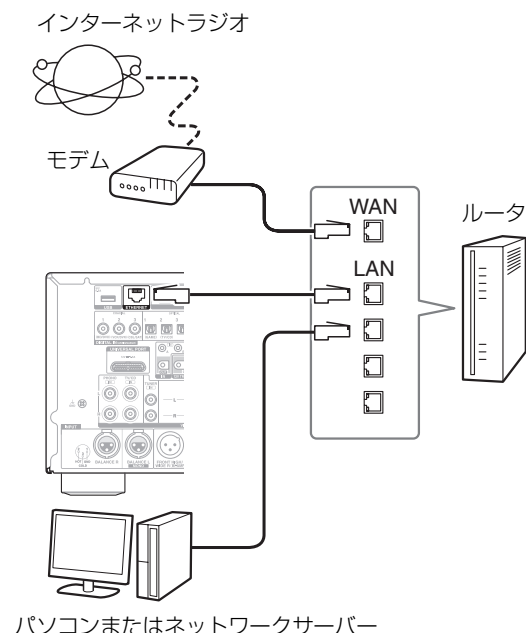
ご注意

- HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（DVI接続では映像信号しか伝送されないため、別途音声接続を行う必要があります。）しかし、このようなアダプターを利用した場合の正常な動作は保証されていません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。
- HDMIの音声信号（サンプリングレート、ビット長など）は、接続した機器によって制限を受ける場合があります。HDMI接続した機器の映像の品質がよくない場合や音声が出ない場合は、機器側の設定を確認してください。詳細については、接続機器の取扱説明書をご覧ください。

ネットワーク/USBについて

ネットワーク機器の接続

ネットワーク機器がそろったら、以下のように接続して、ホームネットワーク（LAN）を構築します。

パソコンまたはネットワークサーバー

ヒント

- 各ネットワーク機器やインターネットへの接続には、個々の機器の設定が必要になります。
  これらの設定については、各機器の取扱説明書やメーカー /ISP（インターネットサービスプロバイダ）にご確認ください。

ホームネットワーク（LAN）について

複数の機器をケーブルなどで接続し、お互いに通信できるようにしたものをネットワークといいます。
家庭ではパソコンやゲーム機をインターネットに接続したり、複数のパソコンで相互にデータをやりとりしたりするために、ネットワークを作る（一般的に構築するといわれます）ケースが多いようです。
このように家庭内など比較的狭い範囲に構築されるネットワークはLAN（Local Area Network）と呼ばれます。
この取扱説明書では、このLAN のことをもう少し身近に感じられるようにホームネットワーク（家庭のネットワーク）と書いています。
本機はパソコンなどのネットワークサーバーと接続することでネットワークサーバー内（パソコン内）の音楽ファイルを再生したり、インターネットと接続することでインターネットラジオを聴いたりすることができます。
このとき、本機とパソコンやインターネットを直接接続するわけではありません。
パソコンやインターネットと接続するためにいくつかの機器（ネットワーク機器）が必要になります。

ホームネットワーク（LAN）構築に必要な機器

本機のNET機能を使用するためのホームネットワーク（LAN）に必要な機器は以下の通りです。

■ルータ

本機とパソコンや、本機とインターネットの間に入って情報（データ）の流れをコントロールするのが、このルータという機器です。
ネットワークでは情報（データ）の流れをトラフィック（日本語では「交通」の意）といいます。ルータは各機器の中でトラフィックコントロールつまり情報の交通整理をする役割を担っています。

- 本機では**100Base-TXスイッチ内蔵のブロードバンドルータ**の使用を推奨します。
- また、**DHCP機能搭載**のルータであれば、ネットワークの設定を簡単にすることができます。
- ISP（インターネットサービスプロバイダ）と契約している場合（後述モデムの項参照）には、契約する**ISP業者が推奨するルータ**をご使用ください。

これらのルータについてはお買い求めの販売店または契約されているISPにご相談ください。

■イーサネットケーブル（CAT-5）

ネットワークを構成する機器同士を実際につなぎ合わせるのが、このイーサネットケーブルです。イーサネットケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルがあります。

- 本機ではCAT-5に適合したイーサネットストレートケーブルを使用します。

イーサネットケーブルについてはお買い求めの販売店にご相談ください。

■ネットワークサーバー（パソコンなど/ネットワークサーバー使用時）

音楽ファイルを入れておいて、再生時に本機に曲を提供する機器です。

- 本機で使用する際に必要な条件は、ネットワークサーバーとして使用する機器によって異なります。
- 本機で音楽ファイルを快適に再生するための条件は、使用するネットワークサーバー（パソコンの性能）に依存します。それぞれの機器使用については、各取扱説明書をご覧ください。

■モデム（インターネットラジオ使用時）

ホームネットワーク（LAN）とインターネットを接続する機器です。
モデムにはインターネットと接続する形式によってさまざまな種類があります。
また、インターネットに接続するにはISP（インターネットサービスプロバイダ）というインターネットへの接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。
インターネット接続には、契約する**ISP業者が推奨するモデム**をご使用ください。

1 台でルータとモデムの機能を併せ持つ機器もあります。

以上のネットワーク機器のうち、NET機能「ネットワークサーバー」を使用するには、ルータ、イーサネットケーブル、ネットワークサーバーが必要になります。
NET機能「インターネットラジオ」を使用するには、ルータ、イーサネットケーブル、モデム（およびISPとの契約）が必要になります。

サーバーについて

■ ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

本機は以下のネットワークサーバーに対応しています：
- Windows Media Player 11
- Windows Media Player 12
- Windows Media Connect 2.0
- DLNA準拠サーバー

Windows Vista（ビスタ）®ではWindows Media Player 11が標準でインストールされています。
Windows Media® Player 11 for Windows XPはマイクロソフト株式会社のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
ネットワークサーバーは本機と同じネットワークに接続していなければなりません。
1フォルダにつき20000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。

ご注意
- メディアサーバーの種類によっては、本機から認識できなかったり、サーバーに保存された音楽ファイルを再生できない場合があります。

■ リモート再生する

リモート再生とは、ホームネットワーク内のDLNA 準拠のコントローラー機器やPC を操作することによりそれぞれの機器に保存された音楽ファイルを本機で再生する機能です。
- Windows Media Player 12
- DLNA 1.5準拠のネットワークサーバー、コントローラー機器

※設定方法は使用するネットワークサーバーやコントローラー機器によって異なります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

Windows 7では、Windows Media Player 12が標準でインストールされています。詳しくは、マイクロソフト社のホームページをご覧ください。

USBデバイスについて

- 本機ではUSB Mass（マス） Storage（ストレージ） Class（クラス）規格に対応しているUSBストレージを使用できます。
- USBストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32に対応しています。
- USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。
- 1フォルダにつき20000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。
- 本機はハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。

ご注意
- 著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。
- USB対応オーディオプレーヤーと本機を接続した場合、オーディオプレーヤーの画面と本機の画面が異なる場合があります。またオーディオープレーヤーに依存する管理機能（音楽ファイルの分類、ソート、付加情報など）は本機では使用できません。
- 本機の**USB**端子にパソコンを接続しないでください。本機の**USB**端子にはパソコンから音声を入力できません。
- USBカードリーダーに挿したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USBストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。USBストレージに保存されているデータは、本機でのご使用の前にバックアップを取っておくことをおすすめします。
- 本機の**USB**端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- 電池で動作するオーディオプレーヤーを使う場合は、電池の残量が充分にあることを確認してください。
- 本機はセキュリティ機能付きUSBメモリーに対応していません。

対応音声フォーマット

- 本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次の通りです。
- 下記のフォーマットであっても再生できる音楽ファイルは、ネットワークサーバーに依存します。たとえば、Windows Media® Player11をお使いの場合、パソコンに入っているすべての音楽ファイルが再生できるわけではなく、Windows Media® Player 11のライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。
- VBR（可変ビットレート）で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。

ご注意

- リモート再生では、本機は次のフォーマットには対応していません：FLAC、Ogg Vorbis

■MP3 (.mp3または.MP3)

- 対応フォーマット：MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbps およびVBR

■WMA (.wmaまたは.WMA)

- 著作権保護されたファイルは、再生できないことがあります。
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：5～320 kbps およびVBR
- WMA Pro/Voice非対応

■WMA Lossless (.wmaまたは.WMA)

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：16 bit、24 bit

■WAV (.wavまたは.WAV)

WAVファイルは非圧縮のPCMデジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

■AAC (.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2/.AAC/.M4A/.MP4/.3GPまたは.3G2)

- 対応フォーマット：MPEG-2/MPEG-4 Audio
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbps およびVBR

■FLAC (.flacまたは.FLAC)

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

■Ogg Vorbis (.oggまたは.OGG)

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：48～500 kbps およびVBR
- 互換性のないファイルは再生できません。

■LPCM (Linear PCM)

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

* ネットワーク経由での再生のみに対応しています。

DLNAについて

DLNAとは、Digital Living Network Allianceの略称で、ホームネットワーク（LAN）によってパソコンやゲーム機、デジタル家電を相互に接続し、音楽や画像、動画などのデータをやりとりするための標準化を進めている団体の名称です。本機は、DLNAガイドラインV1.5に準拠しています。

主な仕様

アンプ（音声）部

総合ひずみ率	0.05% （20Hz〜20kHz ハーフパワー）
入力感度/インピーダンス	
	LINE：200mV/47kΩ PHONO MM：2.5mV/47kΩ
RCA定格出力電圧/インピーダンス	
	PRE OUT：1V/470Ω
RCA最大出力電圧/インピーダンス	
	PRE OUT：5.5V/470Ω
XLR定格出力電圧/インピーダンス	
	PRE OUT：2V/470Ω
XLR最大出力電圧/インピーダンス	
	PRE OUT：11.0V/470Ω
PHONO最大許容入力	
	70mV（MM 1kHz 0.5%）
周波数特性	5Hz〜100kHz/+1dB、−3dB （Direct mode）
トーンコントロール最大変化量	
	Bass：±10dB（50Hz時） Treble：±10dB（20kHz時）
SN比	110dB（LINE、IHF-A） 80dB（PHONO MM、IHF-A）

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス

1.0Vp-p/75Ω（コンポーネント、SビデオY）
0.7Vp-p/75Ω（コンポーネント Pb/Cb、Pr/Cr）
0.28Vp-p/75Ω（SビデオC）
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）

コンポーネント映像周波数特性

5Hz〜100MHz/+0dB、−3dB

総合

電源・電圧	AC100V・50/60Hz
消費電力	100W
無音時消費電力	100W
待機時電力	0.1W
最大外形寸法	435（幅）×198.5（高さ）× 453.5（奥行）mm
質量	14.0kg

■HDMI

入力	IN 1、IN 2、IN 3、IN 4、IN 5、 IN 6、IN 7、AUX（Front）
出力	OUT MAIN、OUT SUB
映像解像度	1080p
音声形式	Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DVD-Audio、DSD
対応	3D、オーディオリターンチャンネル （OUT MAIN）、DeepColor、 x.v.Color、LipSync、CEC (RIHD)

■映像入力

コンポーネント	IN 1、IN 2、IN 3
Sビデオ	BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、 GAME
コンポジット	BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、 GAME、AUX
アナログRGB	PC IN

■映像出力

コンポーネント	MONITOR OUT、ZONE2 OUT
Sビデオ	MONITOR OUT、VCR/DVR（REC OUT）
コンポジット	MONITOR OUT、VCR/DVR（REC OUT）、ZONE2 OUT

■音声入力

デジタル	OPTICAL：3（後面）、1（前面） COAXIAL：3
アナログ	BD/DVD、MULTI CH、VCR/DVR、 CBL/SAT、GAME、PC、TV/CD、 TUNER、PHONO、AUX
マルチチャンネル	7.1
バランス	2（L/R）

■音声出力

アナログ	VCR/DVR, PRE OUT, ZONE2 PRE/LINE OUT, ZONE3 PRE/ LINE OUT
バランスプリ	左右フロント、センター、左右サラウンド、左右サラウンドバック、左右フロントハイ/左右フロントワイド、サブウーファー 1、サブウーファー 2
マルチチャンネルプリ	
	9
サブウーファープリ	2
ヘッドホン	1（6.3φ）

■その他

セットアップマイク	1
RS232	1
イーサネット	1
IR入力	2
IR出力	1
12Vトリガー出力	3
USB	1（前面）、1（後面）
ユニバーサルポート	1
RI	1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のオンキヨー修理窓口までお知らせください。

▶お名前
▶お電話番号
▶ご住所
▶製品名 PR-SC5509
▶できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：＿＿＿年＿＿月＿＿日
ご購入店名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
Tel.　（　　　）
メモ：

ONKYO

オンキヨーサウンド＆ビジョン株式会社
〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：
オンキヨーオーディオコールセンター
☎ 050-3161-9555（受付時間　10：00〜18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

Y1110-2

SN 29400808A